

# aprilia

## RST mille Futura




aprilia part# 8104322

**use+maintenance**book



## 安全に関するお知らせ

本マニュアル中使用されている以下のメッセージ表示は、それぞれ次のようなことを表します：

 **安全に関する警告のマークです。このマークが車体もしくはマニュアルに記載されている場合には、傷害の危険がありますので注意してください。このマークのあとに記されている事項を遵守しないと、あなた自身の、他者のもしくは車体の危険を招きます。**

### 危険

重大な傷害もしくは死亡の危険性があることを表します。

### 注意

軽度の傷害もしくは車体への損傷の危険性があることを表します。

**重要：**本マニュアル中の“重要”という用語は、大切なインフォメーションや使用上の注意のはじめに記されています。

## インフォメーション

★ このマークの付いた操作は、車体の反対側からも行われる必要があります。

特に指示がない限り、パーツの組み付けは取り外しの逆の手順で行なってください。

"右"及び"左"という用語は車体にライダーが通常の位置で乗っていることを前提としたものです。

## 警告 - 注意 - 一般的注意事項

エンジンを起動させる前に本マニュアルをよく読み、特に "安全運転" の章をよく読んでください。

ライダーおよび他の人々の安全は、ライダーの反応の素早さや機敏さだけでなく、モーターサイクルについての理解、モーターサイクルの整備状態、また安全運転のための基本的知識などに負うところが大きいのです。路上を安全に、そしてモーターサイクルを適確に操作しながら走行するために、車両を良く理解するようお勧めします。

**重要：**各タイプのバルブを1個ずつ入手し車両に備えておいてください(テクニカルデータを参照)。

初版：2001年2月

再版：2002年1月, 2002年11月

発行と印刷：  
stp editing division  
Soave (VERONA) - Italy  
Tel. +39 - 045 76 11 911  
Fax +39 - 045 76 12 241  
E-mail: customer@stp.it  
www.stp.it

監修：  
aprilia s.p.a.  
via G. Galilei, 1 - 30033 Noale (VE) - Italy  
Tel. +39 - 041 58 29 111  
Fax +39 - 041 44 10 54  
www.aprilia.com

**重要：**このマニュアルは車体構成の一部とみなされ、中古販売の際にも車体とともに販売されます。

**aprilia** は情報の正確さ並びに新しさに関して最大限の注意を払って、このマニュアルを作成しました。しかしながら、**aprilia** 製品は常に開発改良の対象であることを考えると、お手持ちの車体の特徴と本マニュアルの記述が多少違うことがあるかもしれません。本マニュアルに記載されている情報に関するどんな疑問点も、**aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

このマニュアルでは詳しく記述していない点検や修理、**aprilia** 純正パーツ、アクセサリパーツ、その他の製品の購入に関してはもちろん、技術的アドバイスについても **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

**aprilia** 製品をお選びいただいたことにお礼を申し上げ、快適なライディングをなされるようお祈りいたします。

このマニュアルの電子記憶、複製、流用に対しては、全面的・部分的に関わらず、またその媒体、国籍を問わず、当社が権利を保有しています。

**重要：**使用する国の現行の法律によっては、公害防止及び防音規制にのっとり、定期的検査を行う必要があります。

そのような国で車体を使用するユーザーは、以下のことを行って下さい：

- その国によって規定された部品との交換の際は、**aprilia** 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。
- 定期的検査を規定通り行って下さい。

**重要：**ご購入の際、スペアパーツ認識ラベルに記載された車体識別データを下表に記入してください。ラベルはシートサポートの左側にあります。読み取る際はシートを取り外してください。26 頁(シートロック/ロック解除)参照。

<b>aprilia</b>		YEAR				I.M.					
SPARE PARTS IDENTIFICATION		Y	1	2	3	4	A	B	C	D	E
I	UK	A	P	SF	B	D	F	E	GR		
NL	CH	DK	J	SGP	SLO	IL	ROK	MAL	RCH		
HR	AUS	USA	BR	RSA	NZ	CDN					

識別データは次のとおりです：

- YEAR = 製造年 (Y, 1, 2, ...)
- I.M. = 変更指標 (A, B, C, ...)
- 国別コード = 認定を受けている国 (I, UK, A, ...)

スペアパーツやアクセサリをお求めの際は、ご使用のモデルに合うよう、これらのデータを **aprilia** 正規ディーラーにお知らせください。

説明文中に出てくるシンボルの意味を以下に示します：

**ASD** 自動点灯装置仕様車

**OPT** オプションパーツ

**\*** 触媒コンバーター仕様

各国向け仕様：

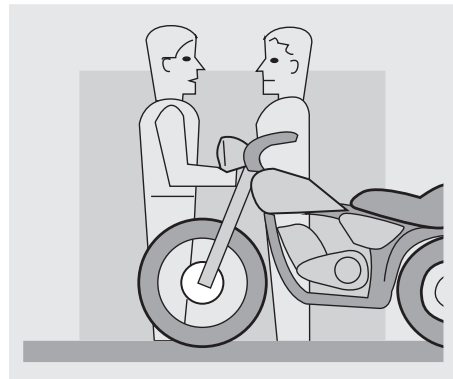
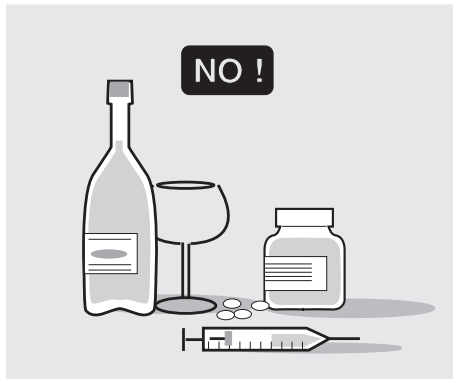
- I** イタリア
- UK** 英国
- A** オーストリア
- P** ポルトガル
- SF** フィンランド
- B** ベルギー
- D** ドイツ
- F** フランス
- E** スペイン
- GR** ギリシャ
- NL** オランダ
- CH** スイス
- DK** デンマーク
- J** 日本
- SGP** シンガポール
- SLO** スロベニア
- IL** イスラエル
- ROK** 韓国
- MAL** マレーシア
- RCH** チリ
- HR** クロアツィア
- AUS** オーストラリア
- USA** 米国
- BR** ブラジル
- RSA** 南アフリカ共和国
- NZ** ニュージーランド
- CDN** カナダ

<b>目次</b>		
<b>安全運転のために</b> .....5		
安全のための基本的ルール .....6		
服装 .....9		
アクセサリ .....10		
荷物 .....10		
<b>主要部品の配置</b> .....12		
<b>操作装置とメーター類の配置</b> .....14		
<b>メーターパネル</b> .....15		
メーターおよびインジケーター一覧 .....16		
プログラムボタン .....20		
<b>主要操作装置</b> .....22		
左側ハンドルグリップ .....22		
右側ハンドルグリップ .....23		
イグニッションスイッチ .....24		
ステアリングロック .....25		
パーキングライト .....25		
<b>補助装備</b> .....26		
シートロック/ロック解除 .....26		
書類/工具入れ .....27		
特殊工具 <b>OPT</b> .....27		
アクセサリ .....28		
<b>主要構成要素</b> .....28		
燃料 .....28		
ブレーキオイル - 注意事項 .....30		
ディスクブレーキ .....31		
フロントブレーキ .....32		
リアブレーキ .....34		
クラッチオイル - 注意事項 .....35		
クラッチ .....36		
冷却液 .....38		
タイヤ .....40		
エンジンオイル .....41		
フロントブレーキレバーおよびクラッチレバーの調整 .....42		
リアブレーキペダルの遊びの調整 .....42		
シフトペダルの調整 .....43		
自動点灯装置仕様車 <b>ASD</b> .....43		
触媒マフラー <b>ES</b> .....43		
マフラー / 排気マフラー .....43		
<b>モーターサイクル使用上の注意</b> .....44		
車両への乗り降り .....44		
走行前の点検 .....46		
走行前の点検 .....47		
エンジンの始動 .....48		
発進と走行 .....51		
慣らし運転 .....54		
停止 .....55		
パーキング .....55		
スタンドの立て方 .....56		
盗難防止のために .....58		
<b>メンテナンス</b> .....58		
定期点検整備表 .....60		
車体認識番号 .....62		
クリック固定輪と管締め用ネジによるジョイント .....62		
エンジンオイル量の点検と補充 .....63		
エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルター の交換 .....64		
エアクリナー .....66		
作業用フロントスタンド使用法 <b>OPT</b> .....68		
フロントホイール .....68		
フロントブレーキキャリバー .....71		
リアホイール .....72		
ドライブチェーン .....74		
燃料タンクの起こし方 .....76		
左側サイドフェアリングの取り外し .....77		
左側アンダーフェアリングの取り外し .....77		
ヒューズケースカバーの取り外し .....78		
メーターパネルカバーの取り外し .....78		
ノーズ下カバーの取り外し .....79		
サスペンションの点検 .....80		
フロントサスペンション .....80		
リアサスペンション .....82		
ブレーキパッドの摩耗の点検 .....84		
アイドリングの調整 .....85		
チョークレバーの調整 (H) .....85		
スロットルケーブルの調整 .....85		
バックミラー .....86		
サイドスタンドの点検 .....87		
スパークプラグ .....88		
バッテリー .....90		
ターミナルおよび電極の点検と清掃 .....90		
バッテリーの取り外し .....91		
バッテリー液量の点検 .....91		
バッテリーの充電 .....92		
バッテリーの取り付け .....92		
バッテリーを長期間使用しない時 .....93		
マイクロスイッチ類の点検 .....93		
ヒューズの交換 .....94		
ヘッドライトの水平光軸の調整 .....96		
ヘッドライトの光軸調整 .....96		
メーターパネルライト .....97		
バルブ .....97		
ヘッドライトバルブの交換 .....98		
ウィンカーライトバルブの交換 .....100		
リアウィンカーライトバルブの交換 .....100		
テールライトバルブの交換 .....100		
ナンバープレートライトのバルブの交換 .....102		
<b>輸送の際の注意事項</b> .....102		
<b>清掃</b> .....103		
長期間の保管 .....104		
<b>テクニカルデータ</b> .....105		
指定油脂類表 .....109		
正規輸入元 .....112 - 113		
電装図 - RST mille Futura .....114		
電装図索引 - RST mille Futura .....115		

# aprilia



安全運転のために



### 安全のための基本的ルール

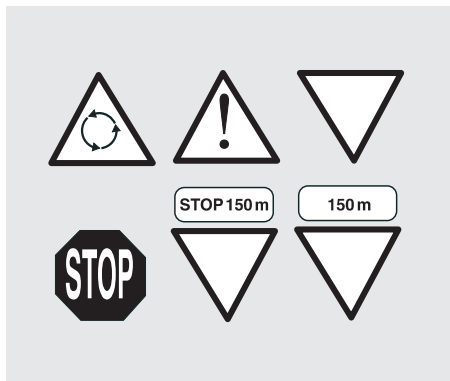
モーターサイクルを運転するには法律で定められたすべての条件を備えていること（運転免許証、有資格年齢、精神的・身体的能力、保険、納税、車両の登録、ナンバープレート等）が不可欠です。

実際の運転によってモーターサイクルの特性を知り、操作に慣れるために最初は交通量の少ない地区か私有地で運転するようにお勧めします。

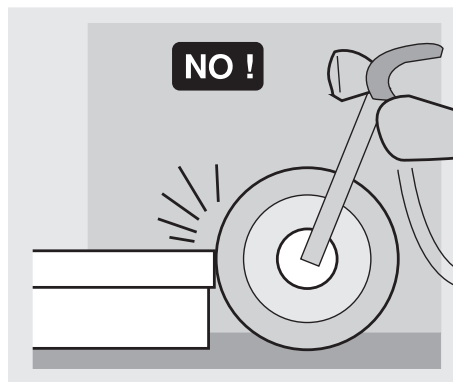
医薬品、アルコール、麻薬、精神安定剤などの服用は事故の危険を増大させます。ライダーは常に運転に相応しい健全な精神的・身体的状態を維持するよう、特に肉体的疲労や睡眠に十分な注意を払う必要があります。

路上事故の多くはライダーの経験不足に起因するものです。

モーターサイクルを初心者に貸したりしないでください。いずれにしても、ライダーが運転に必要な資格と条件を備えていることを確認してください。

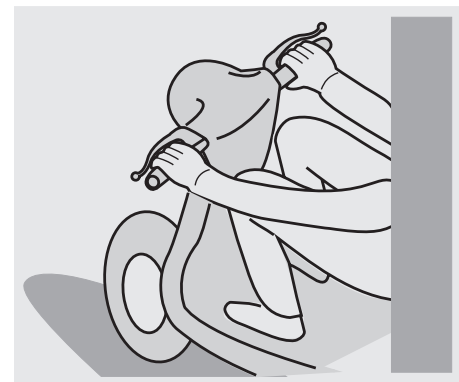


国や自治体が定めた道路交通法、交通標識を遵守してください。  
ライダー自身および第三者のために、急なハンドル操作や危険な運転（前輪を浮かせて走る、速度制限を守らない、など）は避けてください。また、常に路面や視界の状態などに注意を払ってください。



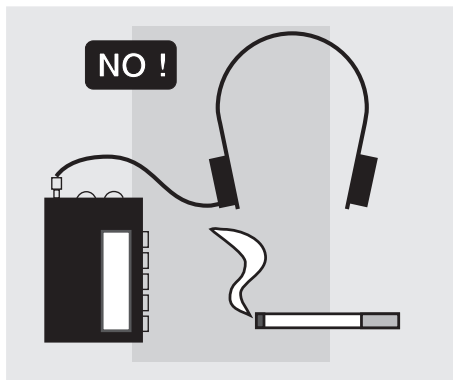
障害物を避けて走行してください。モーターサイクルに損傷を与え、コントロールを失わせる危険があります。

空気抵抗を減らす目的で先行車のすぐ後ろを走行するようなことはやめてください。

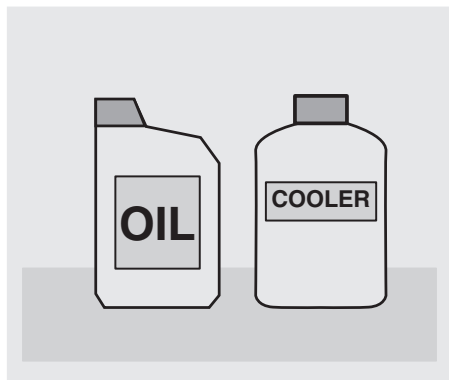


運転中は常に両手でハンドルを握り、両足をフットレストに乗せて正しい運転姿勢を保ってください。

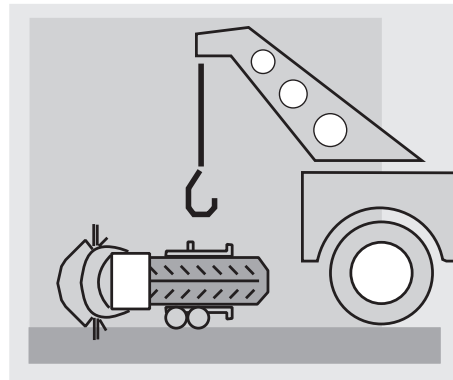
運転中は絶対にシートから腰を上げたり、足を伸ばしたりしないでください。



運転中に周囲の人や事物に気を取られたり、他の行為（喫煙、飲食、読書など）をすることはやめてください。



燃料やオイルは指定油脂類表に示されたもののみを使用してください。また、燃料、オイル、冷却液のレベルを定期的に点検してください。

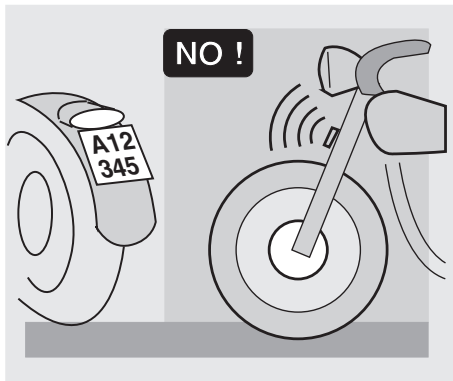


万一モーターサイクルが事故に遭ったり衝突、転倒した際は、操作レバー、パイプ、ケーブル、ブレーキ系統、重要部品などに損傷がないことを確認してください。必要ならば **aprilia** 正規ディーラーに検査を依頼してください。フレーム、ハンドル、サスペンション、安全装置、ユーザーでは正常な状態か判断しにくい部分などを念入りに点検します。

テクニカルサービスの調整、修理作業を万全に行なうために、どのような不具合も漏らさずお知らせください。

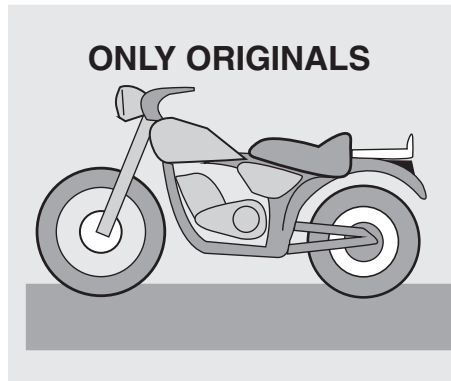
安全走行に支障をきたすような損傷を受けたモーターサイクルは絶対に運転しないでください。





次のような部品の取り付け位置、傾き、色などを絶対に変更しないでください：ナンバープレート、ウィンカーライト、ヘッドライト、警告ホーンなど。

車両を改ざんした場合は正規保証外の扱いになります。



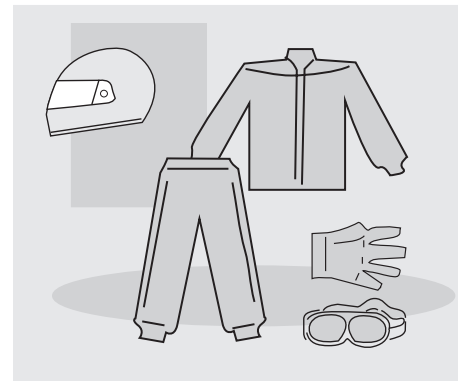
改造されたり、オリジナルパーツを取り外されたモーターサイクルは本来の性能を失うだけでなく、安全性を損ない、法律に触れることがあります。

国や自治体が定めた車両規定に従うようお勧めします。

モーターサイクル本来の仕様を変更したり、性能を向上させるための改造は絶対に行わないでください。

他の車両との競争をしないでください。

道路外での走行を避けてください。

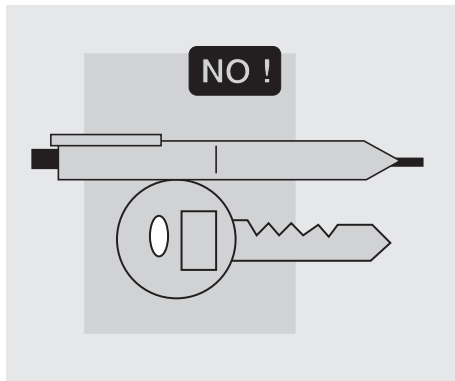


## 服装

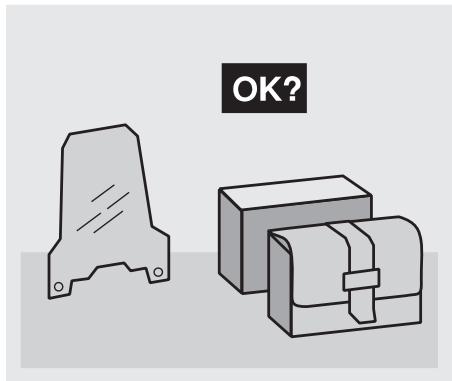
走行前にヘルメットをしっかりと着用してください。なお、ヘルメットは保安基準認定品で、損傷などがなく、形やサイズが適したものであり、バイザーに汚れのないことを確認してください。

服装は身体を保護する服を着用してください。他の運転者から良く見える様に明るい色か反射素材のものをお勧めします。衝突される危険が減るだけでなく、転倒した際にも身体を保護します。

服装は身体にぴったりするもので、手首、足首の部分が締まる形のものをお勧めします。紐、ベルト、ネクタイなどが緩んで走行中に可動部分に巻き込まれ、運転に支障を及ぼすことのないよう注意してください。



転倒の際に危険となるようなものをポケットに入れしないでください。例えば：キー、ペン、ガラス瓶など、先の尖ったもの。(パッセンジャーについても同様です。)



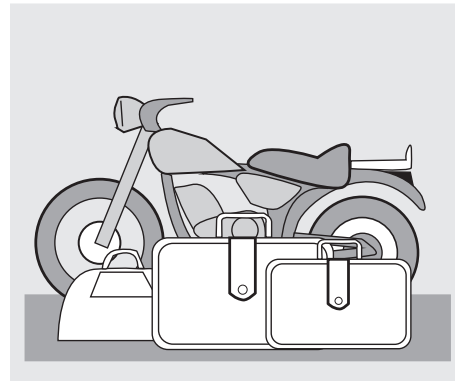
### アクセサリ

モーターサイクルのオーナーはアクセサリの選択、取り付け、使用について責任があります。

取り付け際には、ライト、警告ホーンを覆ったり、機能を損なわせたり、サスペンション・ストロークやステアリングの角度を制限したり、操作系の動作を妨げたり、車高を下げたり、カーブでの傾斜角を小さくさせるようなことのないよう注意してください。

運転操作の邪魔になるようなアクセサリの使用は避けてください。緊急操作の際の反応時間を遅らせ、事故の原因になります。

大型のフェアリングやウィンドスクリーンを取り付けると、空気抵抗が増し走行中に車体の安定を失う危険があります。



全てのアクセサリが車体にしっかりと固定され、走行に危険がないことを確認してください。電流容量を超えるような電装パーツの追加、電気系統の改造はしないでください。電気的負荷が過重になり、モーターサイクルが突然停止したり、ライト類や警告ホーンの動作に必要な電流が不足する危険な事態を招きます。aprilia 純正アクセサリをお使いくださるようお勧めします。

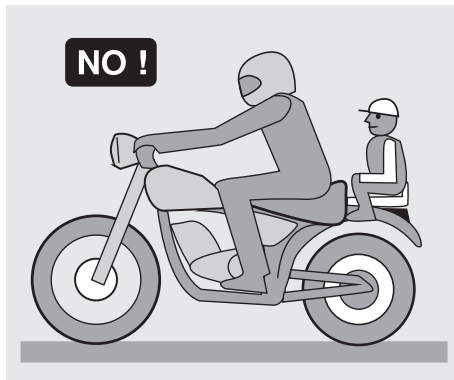
### 荷物

荷物は大きさと重量に注意して適切に搭載してください。積荷は車両の重心に近く、また左右の重量配分が等しくなるようにします。そして積荷が車体にしっかりと固定されていることを確認します。長距離ツーリングの際は特に注意してください。



大きいもの、重いもの、危険なものをハンドル、フェンダー、フロントフォークなどに吊り下げないでください。カーブでのモーターサイクルの反応が鈍くなる他、操縦性が損なわれます。

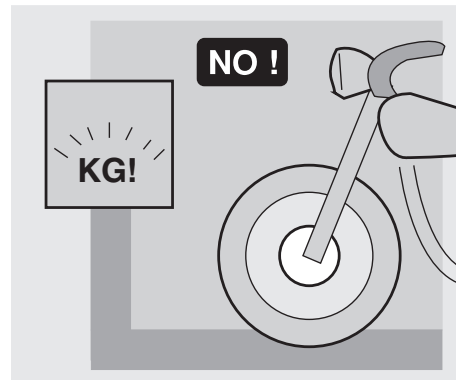
車体の両脇に重い荷物やヘルメットを掛けないで下さい。歩行者や障害物にあたって、車体のバランスを失う危険があります。



車体にしっかりと固定できない積荷は運ばないでください。

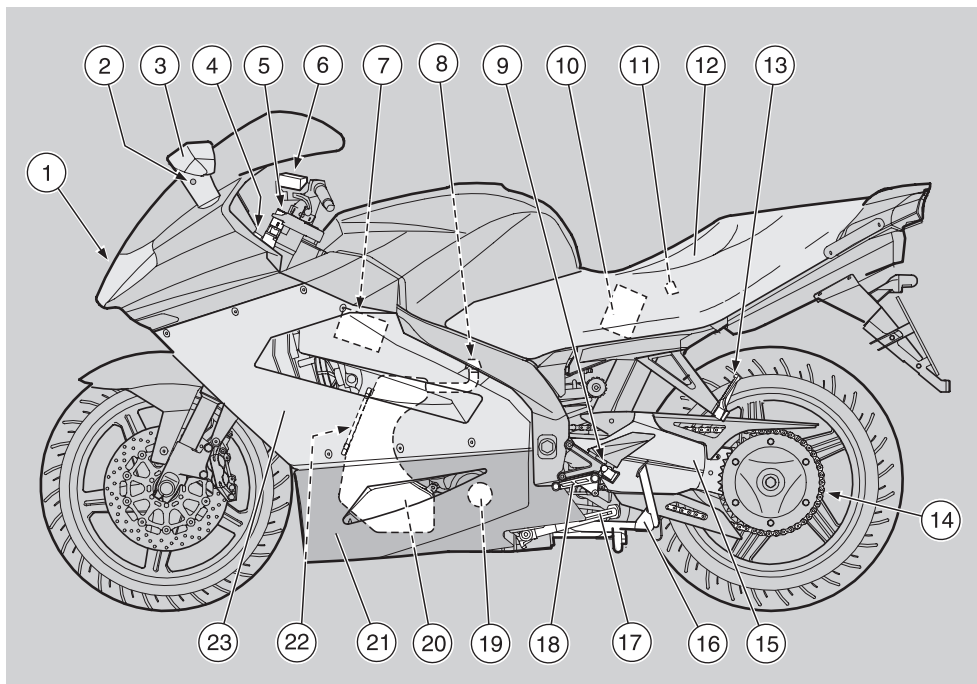
後部の荷物ラックから大きくはみ出たり、またライト類、ホーンなどを覆うような積荷は運ばないでください。

荷物ラックや小物入れに子供や動物を載せて運ばないでください。



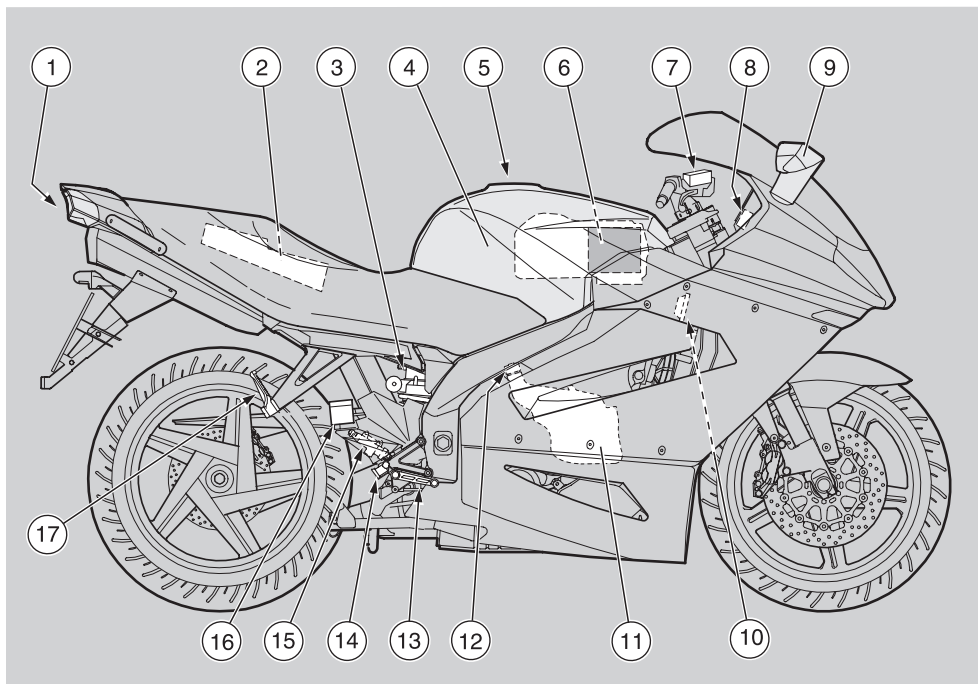
各荷物ラックの許容重量を超えないようにしてください。

過荷重になった車両は安定を失い、操縦性も悪くなります。



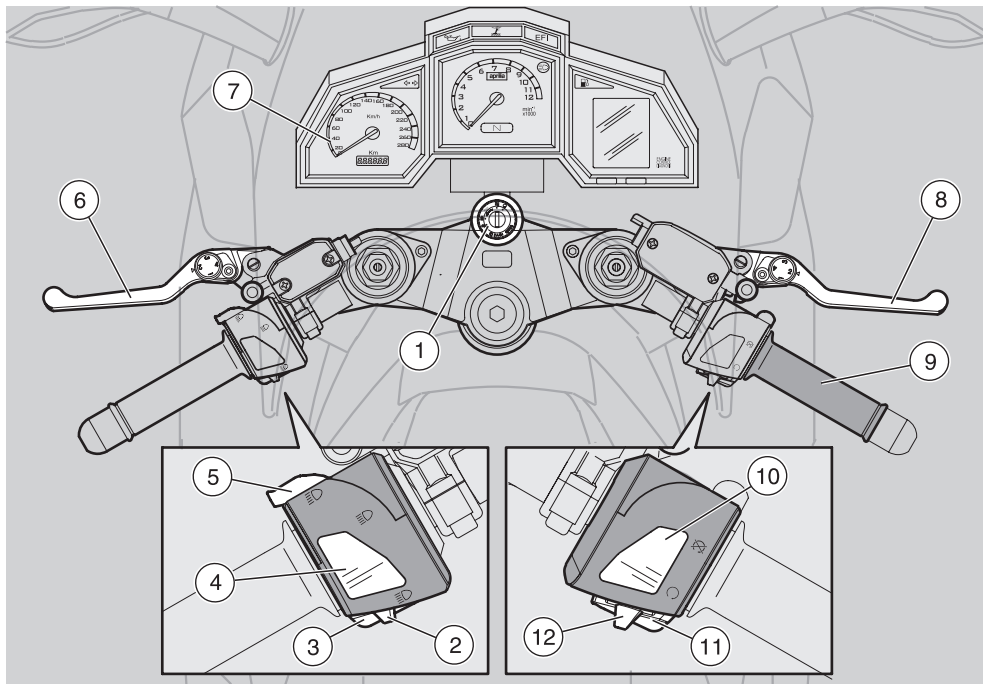
各部名称

- |                                  |                     |                                  |                  |
|----------------------------------|---------------------|----------------------------------|------------------|
| 1) ヘッドライト                        | 7) コンピューターボックス      | 12) ライダーシート                      | 18) シフトペダル       |
| 2) 気温計                           | 8) エンジンオイルタンク       | 13) パッセンジャーフットレスト・左側（開／閉、2ポジション） | 19) エンジンオイルフィルター |
| 3) 左バックミラー                       | 9) ライダーフットレスト・左側    | 14) ドライブチェーン                     | 20) エンジンオイルタンク   |
| 4) シートロック                        | 10) バッテリー           | 15) スイングアーム                      | 21) 左アンダーフェアリング  |
| 5) イグニッションスイッチ／ステアリングロック／パラレルライト | 11) メインヒューズケース（30A） | 16) センタースタンド                     | 22) エンジンオイル量点検窓  |
| 6) クラッチオイルタンク                    |                     | 17) サイドスタンド                      | 23) サイドフェアリング・左側 |



## 各部名称

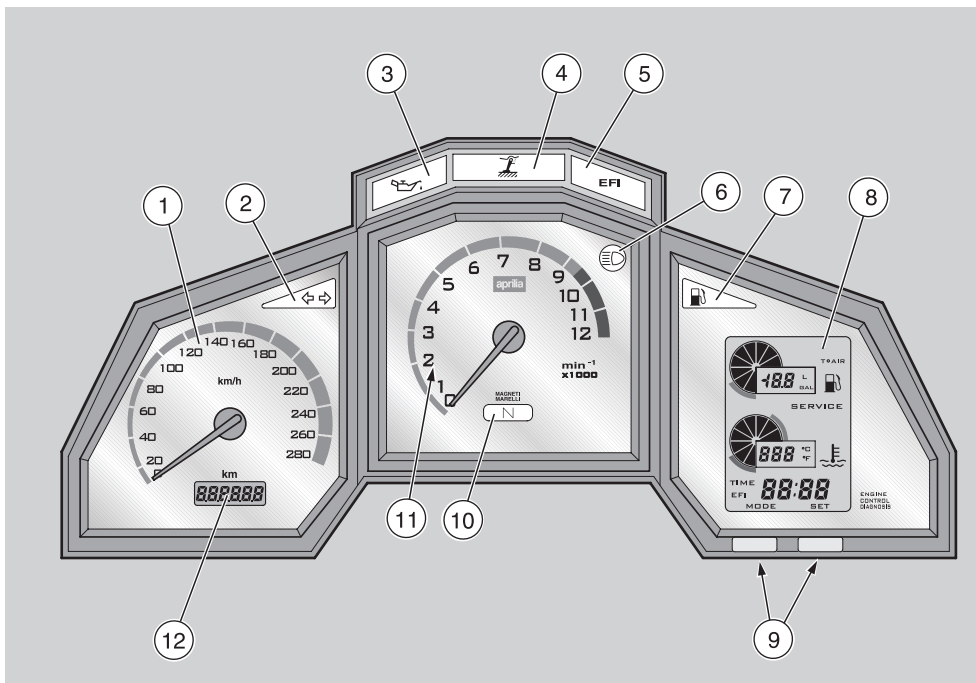
- |                 |                    |                        |                      |
|-----------------|--------------------|------------------------|----------------------|
| 1) テールライト       | 7) フロントブレーキオイルタンク  | 12) 冷却液エキスパンションタンクキャップ | 16) リアブレーキオイルタンク     |
| 2) 書類／工具入れ      | 8) 二次ヒューズケース (15A) | 13) リアブレーキペダル          | 17) パッセンジャーフットレスト・右側 |
| 3) リアショックアブソーバー | 9) 右バックミラー         | 14) ライダーフットレスト・右側      | (開／閉、2ポジション)         |
| 4) 燃料タンク        | 10) 警告ホーン          | 15) リアブレーキポンプ          |                      |
| 5) 燃料タンクキャップ    | 11) エキスパンションタンク    |                        |                      |
| 6) エアクリーター      |                    |                        |                      |



### 各部名称

- 1) イグニッションスイッチ/ステアリングロック/パーキング  
ライト (○ - ☒ - ④)
- 2) ウィンカーライトスイッチ (⚡)
- 3) 警告ホーンボタン (📢)
- 4) デイマースイッチ (☀ - ☹)
- 5) パッシングライト (☹) / LAP ボタン (多目的)
- 6) クラッチレバー

- 7) メーターパネル
- 8) フロントブレーキレバー
- 9) スロットルグリップ
- 10) エンジンキルスイッチ (○ - ☒)
- 11) スターターボタン (🔌)
- 12) ライトスイッチ (☀ - ☹ - ☹ - ☹) (ASD 仕様車にはありません)



各部名称

- |   |   |
|---|---|
| <p>1) スピードメーター</p> <p>2) ウィンカーライトインジケーター (⇄) グリーン</p> <p>3) エンジンオイル警告灯 (油) レッド</p> <p>4) サイドスタンドインジケーター (I) アンバー</p> <p>5) 自動診断インジケーター (EFI) レッド</p> <p>6) ハイビームインジケーター (≡D) ブルー</p> <p>7) 燃料警告灯 (油) アンバー</p> | <p>8) デジタルディスプレイ右側 (燃料計/気温計 - 冷却液温度計 - デジタルクロック/噴射システムのエラーコード)</p> <p>9) プログラミング用 SET ボタンおよび MODE ボタン</p> <p>10) ニュートラルポジションインジケーター (N) グリーン</p> <p>11) タコメーター</p> <p>12) デジタルディスプレイ左側 (キロ走行距離計/マイル走行距離計)</p> |
|---|---|

## メーターおよびインジケーター一覧

### ▲ 注意


km/mi、l/gal、°C /°F の単位は仕向け国に合わせて **aprilia** が製造時に設定します。  
その後の変更はできません。


**重要：**イグニッションスイッチを“○”の位置に回したとき、約3秒間メーターパネルのすべてのインジケーターLEDとバックライトLEDが点灯します。正しく点灯するか確認してください。


名称		機能
ウィンカーライトインジケーター	↔	ウィンカーライトが作動中に点滅します。
ハイビームインジケーター	≡	ヘッドライトがハイビームの時やバッシングライト点灯の時に点灯します。
タコメーター（回転/分 - rpm）		一分間あたりのエンジン回転数を表示します。 ▲ 注意 許容回転数を超過してエンジンを回さないでください。 54 頁（慣らし運転）参照。
燃料警告灯	⛽	燃料タンク内のガソリン残量が約 4 ± 1 リットルになったときに点灯します。 この場合はできるだけ速やかに燃料を補充してください。28 頁（燃料）参照。
サイドスタンドインジケーター	⚙	サイドスタンドが降りている時に点灯します。
エンジンオイル警告灯	⛽	イグニッションスイッチを“2”の位置にあわせる度に点灯します。エンジンは入らないので、LED が正しく操作するかどうか確認できます。 この段階で点灯しない場合は <b>aprilia</b> 正規ディーラーにご連絡ください。 ▲ 注意 エンジン始動後エンジンオイル油圧警告灯 LED “⛽” が点灯し続ける場合、または通常運転の間に点灯する場合は、エンジンオイルシステムの油圧が適当な値でないことを示しています。 この場合は直ちにエンジンを停止し、 <b>aprilia</b> 正規ディーラーにご相談ください。
ニュートラルポジションインジケーター	N	ギアがニュートラルポジションにある時に点灯します。

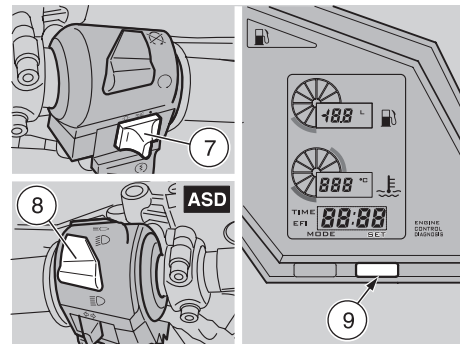
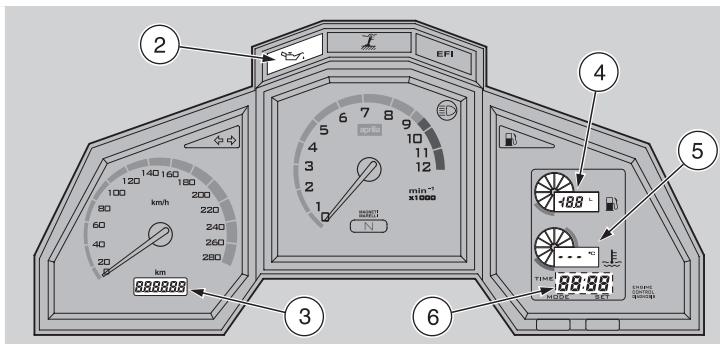
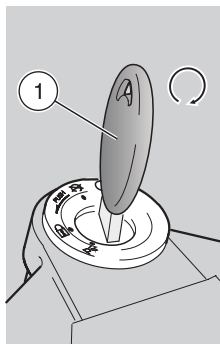
続く ▶



名称		機能	
自動診断インジケータ	EFI	<p>イグニッションスイッチを“○”の位置に回したとき、約3秒間点灯します。正しく点灯するか確認してください。</p> <p><b>▲ 注意</b> 自動診断インジケータ“EFI”が始動時に点滅する場合、またはエンジン稼働中に点滅を始めた場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに <b>aprilia</b> 正規ディーラーにご相談ください。</p>	
スピードメーター (km/h)		走行速度を示します。	
デジタルディスプレイ (左側)	走行距離計・キロメーター / マイル (km - mi)	キロメーターまたはマイル単位で積算走行距離、区間走行距離を表示します。	表示内容の切り換え手順については、20頁(プログラムボタン)参照。
デジタルディスプレイ (右側)	燃料計 	<p>燃料タンク内のガソリン量を表示します。ガソリン量はスケール(アナログ表示)とリットル(ガロン)(数値表示)の両方で示されます。燃料タンクいっぱいまでガソリンが入っているときは、スケールは全体が点灯し、数値インジケータには“F”と表示されます。ガソリン量が減るにつれ、スケールおよびリットル(ガロン)値も減少します。スケール全体が消灯すると、数値インジケータには“--”が点滅するとともに燃料警告灯が点滅します。これは燃料タンク内のガソリン残量が約4±1リットル以下であることを示します。この場合はできるだけ速やかに燃料を補充してください。28頁(燃料)参照。</p> <p><b>▲ 注意</b> スケール全体が消灯して数値インジケータに“8.8”が点滅し、かつ燃料警告灯が点滅する場合には、<b>aprilia</b> 正規ディーラーにご連絡ください。</p> <p><b>重要</b> : 数値インジケータ部分が気温計(T° AIR)として使用される場合があります。この場合スケール表示は消灯されます。</p>	

名称		機能	
デジタル ディスプレイ (右側)	気温計	<p>燃料計  ではなく気温計(°F)を表示させることもできます(この場合スケール表示は消灯されます)。</p> <p>気温が -20 °C (-4 °F) 以下のときは "--" と表示されます。-20 °C (-68 °F) ~ 50 °C (122 °F) のときは気温の値が表示されます。50 °C (122 °F) 以上のときは "50" ( "122" ) と表示されます。</p> <p><b>⚠ 危険</b> 3 °C (37.4 °F) 以下の気温ではデジタルディスプレイの気温表示が点滅します。このときは凍結によるスリップのおそれがありますので、ゆっくりと走行し、急ブレーキや急ハンドルを避けてください。</p> <p>表示モード(燃料計または気温計)にかかわらず、気温が 3 °C (37.4 °F) 以下に下がると気温表示が 10 秒間点滅します(この間に 3 °C (37.4 °F) 以上に戻った場合も同様)。</p> <p>気温が 3 °C (37.4 °F) 以下の状態が続くと、上記の動作が 5 分おきに 3 回繰り返されます。</p> <p><b>重要</b> : 10 秒間の点滅表示の後は、常に元の表示モード(燃料計または気温計)に戻ります。</p> <p><b>⚠ 注意</b> デジタルディスプレイに "--" または "--" が点滅する場合には、<b>aprilia</b> 正規ディーラーにご連絡ください。</p>	<p>表示内容の切り換え手順については、20 頁(プログラムボタン)参照。</p>

名称		機能	
デジタル ディスプレイ (右側)	冷却液温度計 (°C / °F)	<p>エンジン冷却液の温度を表示します。20 頁(プログラムボタン)参照。 冷却液温はスケール(アナログ表示)と°C(°F)(数値表示)の両方で示されます。 35 °C (97 °F) までは “---” と表示されます。</p> <p><b>▲ 注意</b> 冷却ファンのオン・オフはイグニッションスイッチの位置に無関係に行なわれます。冷却ファンはエンジンが停止していても冷却液温が下がるまで作動し、自動的に停止しません。</p> <p><b>▲ 注意</b> 冷却液温が許容値(125 °C - 257 °F)を超えて上昇した場合には、エンジンに重大な損傷を与えることがあります。</p> <p>116 ~ 125 °C (241 ~ 257 °F) の範囲の温度が表示され、スケール表示の最後から 2 番目のセグメントが点滅する場合は、直ちにエンジンを停止し、冷却ファンが停止するまで待ってから冷却液の量を点検してください。38 頁(冷却液)参照。</p> <p>126 ~ 135 °C (259 ~ 275 °F) の範囲の温度が表示され、スケール表示の最後の 2 セグメントが点滅する場合は、直ちに停車し、約 2 分間エンジンをアイドリングにして冷却液を冷却系統にまんべんなく循環させます。イグニッションスイッチをオフの位置に回し“”、冷却液の量を点検してください。38 頁(冷却液)参照。冷却液の点検後もメーターパネルの状態が変化しない場合には、エンジンを始動せず、aprilia 正規ディーラーにご連絡ください。</p>	表示内容の切り換え手順については、20 頁(プログラムボタン)参照。
	メンテナンス作業インジケータ “SERVICE”	<p>初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 7500 km (4600 mi) 走行ごとに“SERVICE”と表示されます。</p> <p><b>▲ 注意</b> その際は定められた定期点検を aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。60 頁(定期点検整備表)参照。</p>	
	自動診断	<p>設定に従い、時刻を表示します。20 頁(プログラムボタン)参照。</p>	



## プログラムボタン

### ▲ 危険

次の操作は必ず停車した状態で行なってください。  
運転中に操作すると事故の原因となります。

**重要：**次の説明はエンジンが停止しているものと仮定しています。

イグニッションキー(1)を“O”の位置に回すと次の表示が3秒間点灯します：

- すべてのインジケーターLED
- すべてのバックライトLED
- デジタルディスプレイ左側の全セグメント
- デジタルディスプレイ右側の全セグメントと表記
- メーター類の針はスケール上の最小値を指します。

このようにしてLED、表記、セグメント、およびメーター類の動作が点検されます。

3秒後、メーターパネル上のエンジンオイル警告灯“”(2)は点灯したままとなります(エンジンを始動するまで点灯し続けます)。デジタルディスプレイには次の値が表示されます：

- 積算走行距離(3)
- ガソリン量(4)
- 冷却液温度(5) [35℃ (97°F)までは“---”と表示されます。]
- 時刻(6)

### メーターパネルライトの調節

メーターパネルライトは次の3段階に調節できます：100%、60%、25%

調節は次の手順で行ないます：

- ◆ ライトスイッチ(7)を“ ”の位置にします。
- ◆ ASDディマースイッチ“ ”(8)を“ ”の位置にします。

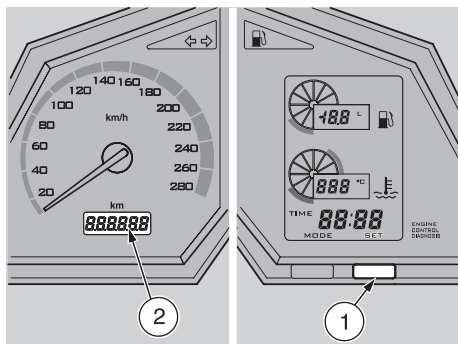
**重要：**SETボタンは選択が終わると3秒後に、(キロ単位またはマイル単位の)オドメーターとトリップメーターとの表示切り替えボタンに戻ります。

- ◆ イグニッションスイッチ(1)を“O”の位置に回し、3秒以内にSETボタン(9)を押します。押すごとに明るさが3段階に切り替わります。
- ◆ お好みの明るさを選びます。

km/mi、l/gal、℃/°Fの単位切り替え

### ▲ 注意

km/mi、l/gal、℃/°Fの単位は仕向け国に合わせて **aprilia** が製造時に設定しロックします。  
その後の変更はできません。



オドメーターとトリップメーターとの表示切り替え（キロ単位またはマイル単位）

#### デジタルディスプレイ左側

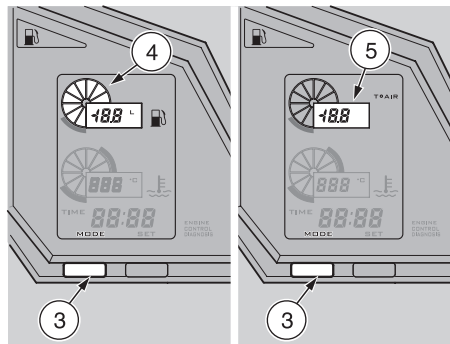
- ◆ SET ボタン(1)を短く押します。ディスプレイに積算走行距離または区間走行距離がキロ単位（またはマイル単位）で表示されます。

**重要：**イグニッションスイッチを“○”の位置に回したときは、常に積算走行キロ数（またはマイル数）が表示されます。

トリップメーター（キロ単位またはマイル単位の）をリセットするには：

- ◆ 上記の手順に従って区間走行距離を表示させます。
- ◆ SET ボタン(1)を3秒以上押します。セグメント(2)がゼロに戻ります。

**重要：**バッテリーを取り外した場合はトリップメーターがゼロにリセットされます。



燃料計と気温計との表示切り替え

#### デジタルディスプレイ右側

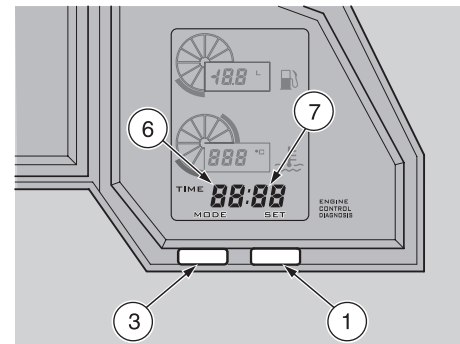
- ◆ MODE ボタン(3)を短く押します。ディスプレイに燃料計(4)または気温計(5)が表示されます（数値表示のみ）。

**重要：**イグニッションスイッチを“○”の位置に回したときは、常に燃料計(4)が表示されます。

#### デジタルクロックの設定（時および分）

**重要：**デジタルクロックの設定は停車した状態でなければなりません。

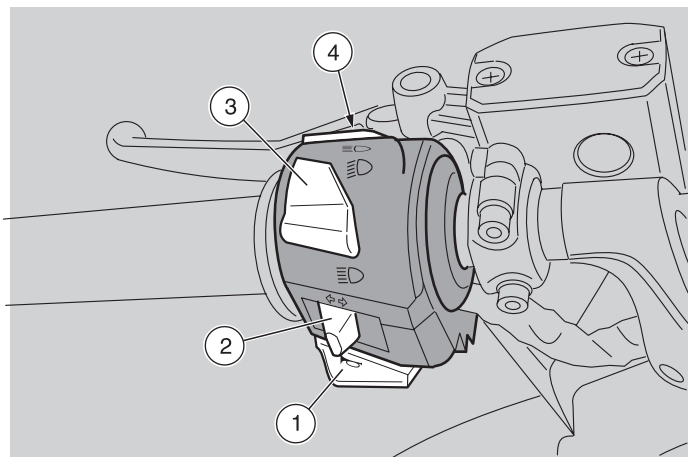
- ◆ MODE ボタン(3)を3秒以上押します。“時”のセグメント(6)が点滅します。



**重要：**SET ボタン(1)を短く押すと、その度に値が1ずつ変化します。SET ボタン(1)を押し続けると、値が高速にスクロールします。

- ◆ SET ボタン(1)を使って“時”を目的の値に設定します。
- ◆ “時”の設定をメモリーするためMODE ボタン(3)を短く押します。続いて“分”のセグメント(7)が点滅します。
- ◆ SET ボタン(1)を使って“分”を目的の値に設定します。
- ◆ “分”の設定をメモリーするためMODE ボタン(3)を短く押します。

**重要：**バッテリーを取り外した場合はデジタルクロックがゼロにリセットされます。



## 左側ハンドルグリップ

**重要：**インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが“○”の位置にないと機能しません。

- 1) **警告ホーンボタン** (ト)  
このボタンを押すと警告ホーンが鳴ります。
- 2) **ウィンカーライトスイッチ** (◀▶)  
左側にターンする時は左へスイッチします。右側にターンする時は右へスイッチします。ウィンカーを停止するにはこのスイッチを押します。
- 3) **ディマースイッチ** (☾ - ☽)  
ライトスイッチが“☼”の位置にある時：このディマースイッチが“☽”の位置にある時はハイビームライトが、“☾”の位置にある時はロービームライトが点灯します。
- 3) **ディマースイッチ** (☾ - ☽) **ASD**  
“☽”の位置にある時は常にパーキングライト、メーターパネルライト、ロービームライトが点灯しています。  
“☾”の位置にある時はハイビームライトが点灯します。
- 4) **パッシングライトボタン** (☽)  
緊急時や合図が必要な時にこのボタンを押すとハイビームライトが点滅します。  
ライトスイッチ (☼ - ☽☾ - ●) の位置に関わらず、ボタンを押すとハイビームが点灯します。  
**重要：**ボタンを放すと、ハイビームが消灯します。

## 右側ハンドルグリップ

**重要：**インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが“○”の位置にないと機能しません。

### 1) エンジンキルスイッチ (○ - ☒)

#### ▲ 危険

走行中には絶対にこのエンジンキルスイッチ“○ - ☒”を操作しないでください。

このスイッチは安全のため、または緊急時に使用します。パーキングスイッチが“○”の位置にあるときはエンジンを始動できます。“☒”の位置に押しすとエンジンが停止します。

#### ▲ 注意

エンジンが停止していてもイグニッションスイッチが“○”の位置にあるとバッテリーが放電します。エンジン停止後はイグニッションスイッチを“☒”の位置に戻してください。

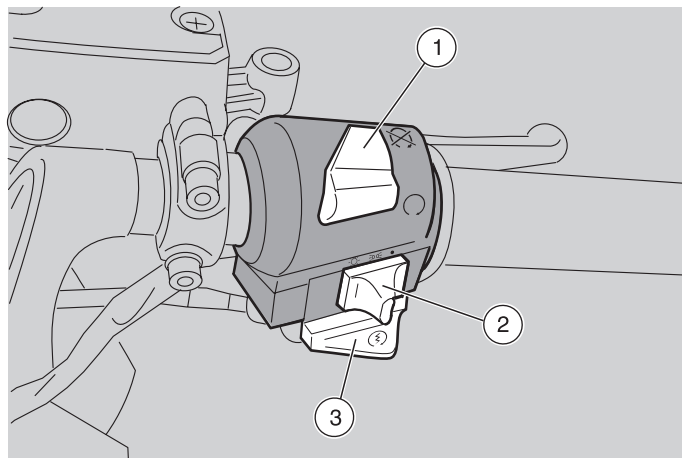
### 2) ライトスイッチ (☼ - ☞☞ - ●) (ASD仕様車にはありません)

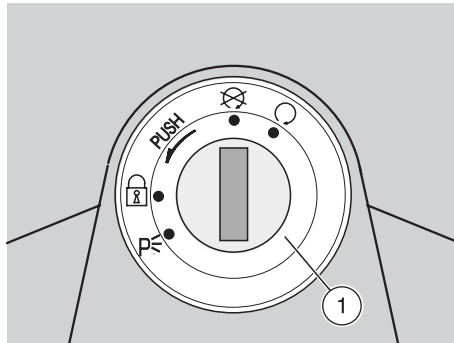
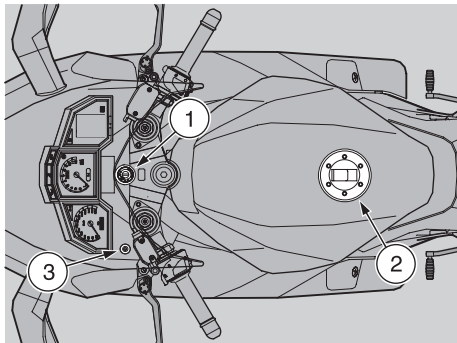
このスイッチが“●”の位置にある時はすべてのライトが消えています。“☞☞”の位置にある時はパーキングライトとメーターパネルライトが点灯します。“☼”の位置にある時はパーキングライト、メーターパネルライト、ロービームライトが点灯します。

ディマースイッチによりハイビームに切り替えが可能です。

### 3) スターターボタン (㊟)

このスターターボタン“㊟”を押すと、スターターモーターが作動しエンジンを始動させます。エンジン始動の手順については48頁(エンジンの始動)参照。





### イグニッションスイッチ





イグニッションスイッチ (1) は両ハンドルバーの中央部に位置しています。

**重要：**イグニッションキーはイグニッションスイッチ／ステアリングロックの他に、燃料タンクキャップ (2)、シート (3) ロックのキーも兼ねています。

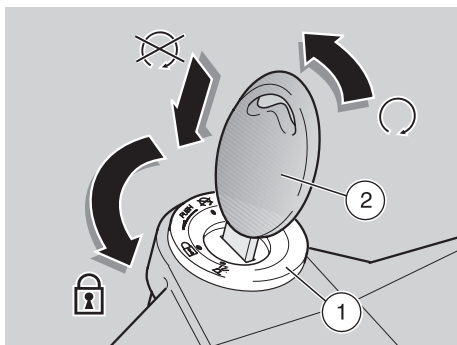
納車時には計 2 本のキー (1 本はスペアキー) がついています。

納車時には計 2 本のキー (1 本はスペアキー) がついています。

**重要：**スペアキーは車両と別の場所に保管してください。

キー位置	機能	キーの抜取り
 ステアリングロック	ステアリングがロックされ、エンジン、ライト共機能しない。	抜取り可能。
	エンジン、ライト共機能しない。	抜取り可能。
	エンジン、ライト共機能できる。	抜取り不可能。
	パーキングライトが点灯。	キー抜取り可能。





## ステアリングロック

### ⚠ 危険

走行中は絶対にキーを“🔒”の位置に回さないでください。車体のコントロールを失う危険があります。

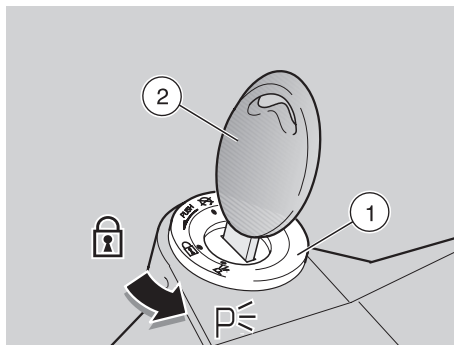
### 機能

ステアリングロックは次の手順で行なってください：

- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。
- ◆ キーを“🔒”の位置に回します。
- ◆ キーを押しながら“🔒”の位置に回します。

**重要：**パーキングライトを点灯する必要がある場合は、25 頁（パーキングライト）を参照してください。

- ◆ キーを引き抜きます。



## パーキングライト

この車両はフロントパーキングライトおよびリアパーキングライトを装備しています。駐車場や照明のある場所に駐車することが本来望ましいのですが、暗い場所やむなく駐車する場合にも、車両を目立たせるためにパーキングライトが役立ちます。

### 機能

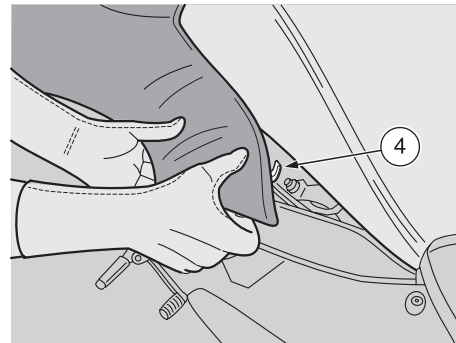
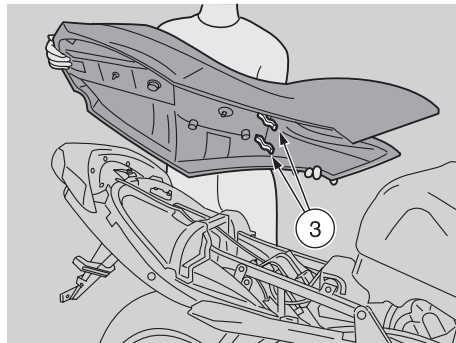
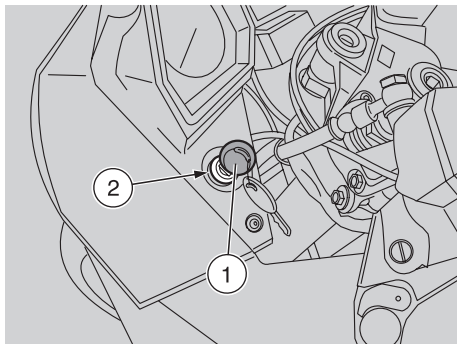
パーキングライトを点灯させるには：

- ◆ ステアリングロックをかけます。キー(2)は抜かないでください。25 頁（ステアリングロック）参照。
- ◆ キー(2)を“P”（パーキング）の位置に回します。
- ◆ 両方のパーキングライト（フロントおよびリア）が正しく点灯しているか確認します。
- ◆ キー(2)を引き抜きます。



### ⚠ 注意

パーキングライトを点灯したまま長時間放置するとバッテリーを消耗しますのでおやめください。バッテリーが完全に消耗するとエンジンを始動できなくなります。



### シートロック/ロック解除

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ キー(1)をシートロックの鍵穴(2)に差し込みます。
- ◆ キー(1)を時計回りに回してシートロックを解除してからシートを持ち上げて取り外します。

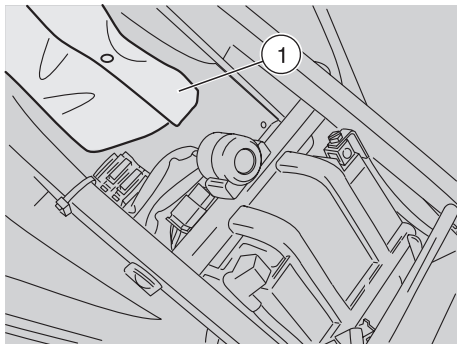
**重要：**シートを元に戻してロックする前にキーを手袋/工具格納室に置き忘れないように注意してください。

### シートをロックするには：

- ◆ 突起(3)を所定の位置に合わせ、カチッとほまり込むまでシートを押し下げます。
- ◆ ★シートの前部を掴み、フック(4)を燃料タンクにかけます。

### ▲ 危険

車から離れる前にシートが確実にロックされているかどうか確かめてください。



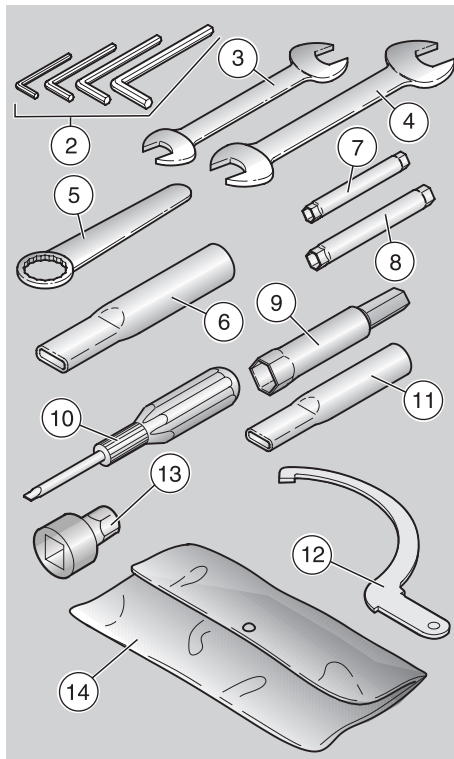
## 書類／工具入れ

### 書類／工具キット入れを開くには：

- ◆シートを取り外します。26 頁（シートロック／ロック解除）参照。

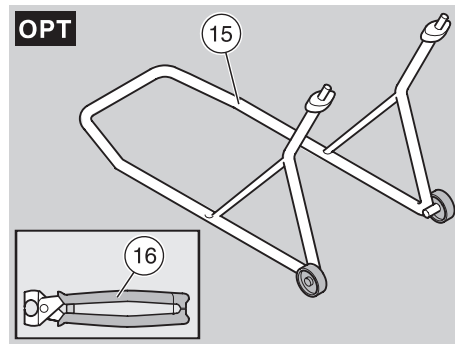
### 工具キット(1)の内容は以下のとおりです：

- 六角レンチ 3, 4, 5, 6 mm (2);
- スパナ 8-10 mm (3);
- スパナ 11-13 mm (4);
- メガネレンチ 22 mm (5);
- メガネレンチ用継ぎ手 (6);
- ソケットレンチ 6-7 mm (7);
- ソケットレンチ 8-10 mm (8);
- スパークプラグ用 16 mm ソケットレンチ (9);
- +／-ドライバー (10);
- フックレンチ用継ぎ手 (11)



- ホイールハブ用フックレンチ (12)
- ソケット 22 mm (13)
- ツールバッグ (14)。

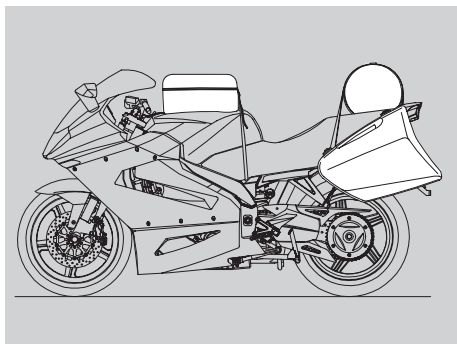
許容重量：1.5 kg。



## 特殊工具 OPT

いくつかのメンテナンス項目には以下の特殊工具が必要です（aprilia 正規ディーラーにてお求めください）：

工具	作業項目
作業用フロントスタンド (15)。68 頁（作業用フロントスタンド使用法 OPT）参照。	フロントホイールの取り外し。
クリック固定輪取り付け用ペンチ (16)、62 頁（クリック固定輪）参照。	クリック固定輪取り付け。



### アクセサリ

次のアクセサリが取り付け可能です (aprilia 正規ディーラーにてお求めください) :

- サイドバッグ **OPT**、
- タンクバッグ **OPT**、
- リアセンターバッグ **OPT**。

### ⚠ 危険

サイドバッグは車体のバランスを保つよう設計されています。サイドバッグに荷物や物を固定することは禁止されています。必ず両方のサイドバッグを取り付け、積荷は左右均等に配分してください。



### ⚠ 危険

**aprilia** 純正のサイドバッグ以外は、いかなるバッグや物入れも車体後部に取り付けしないでください。

### ⚠ 危険

上記の規則を守らない場合 :

- 車体のバランスが失われ、運転中やパーキングまたは停止の際に転倒する危険があります ;
- 車体の構造部材に過剰な荷重がかかり変形や破損することがあります ;
- 保証が失効します。

## 主要構成要素

### 燃料

### ⚠ 危険

内燃機関用の燃料は大変引火しやすく、時には爆発することもあります。燃料補給やメンテナンスは換気のよい場所でエンジンを止めた状態で行なってください。燃料補給中や燃料ガスが残っている場所では絶対に煙草を吸わないでください。引火や爆発を避けるため、火気、火花、熱源などに燃料を近づけないでください。

### ⚠ 危険

また、給油の際には注入口から燃料をこぼさないように注意してください。こぼれた燃料が熱いエンジン外壁に触れると引火する危険があります。

万一燃料が少しでもこぼれた場合には、エンジンを始動させる前にその部分を完全に乾かしてください。

燃料は暑さや太陽熱で膨張します。決してタンクから溢れそうなほど一杯には入れないでください。

## ▲ 危険

燃料補給後は燃料タンクキャップをしっかり締めてください。燃料が皮膚についたり、ガスを吸いこんだり、飲み込んだりしないように注意してください。また、ホースなどを使って容器を移し換えることもやめてください。

環境保護のため燃料は適切に処理してください。

燃料は子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料は DIN 51 607 基準適合品、最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) 及び 85 (N.O.M.M.) の無鉛ガソリンのみ使用してください。

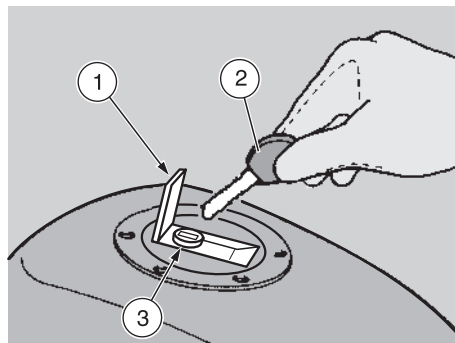
燃料補給は次の手順で行なってください：

- ◆ 突起部 (1) を持ち上げます。
- ◆ キー(2)を燃料タンクキャップ(3)に挿し込みます。
- ◆ キーを時計回りに回し、跳ね上げ蓋を引いてキャップを開けます。

燃料タンク容量

(リザーブタンク含む)：21 リットル

リザーブタンク容量：4 ± 1 リットル



## ▲ 注意

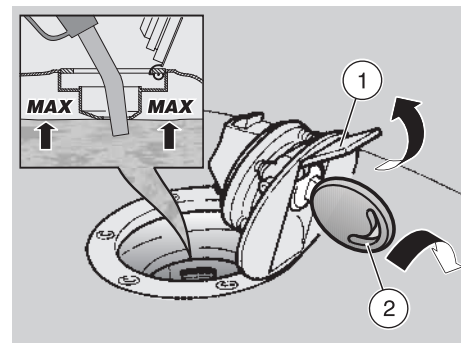
オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

## ▲ 危険

燃料タンクを充滿させないで下さい。オイルの最大レベルは、口の最も下の縁を超えないようにして下さい (図参照)。

## ▲ 注意

給油の際はガソリンポンプで燃料タンク内部を損傷しないよう注意してください。



- ◆ 注入を行います。

注入を行う際：

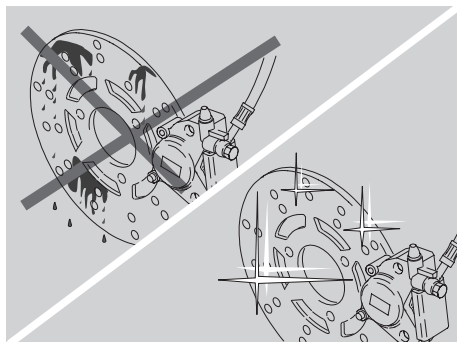
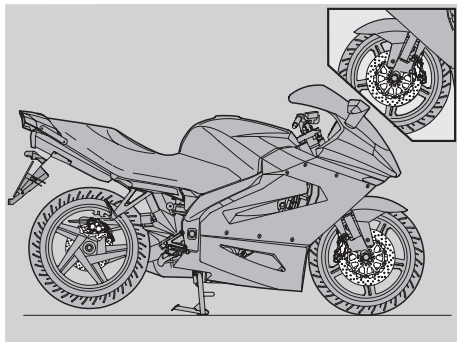
**重要**：蓋を閉める際は、キー (2) を入れたまま行います。

- ◆ キー (2) を入れたまま、蓋を押しながら閉めます。

## ▲ 危険

蓋が正しく閉まっていることを確認して下さい。

- ◆ キー (2) を抜き取ります。
- ◆ 突起部 (1) を閉めます。



## ブレーキオイル - 注意事項

**重要**：このモーターサイクルはフロント、リアともそれぞれ独立した油圧システムによるディスクブレーキを装備しています。以下の説明は一つのブレーキシステムについてですが、内容はフロント、リア共に共通です。

### ⚠ 危険

突然ブレーキレバーの遊びが変わったり、重くなったりした時は、油圧システムに何らかの不具合が発生した可能性があります。

ブレーキシステムが正常に機能しているか疑問な時、通常の点検作業ができない時などは **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

### ⚠ 危険

ブレーキディスクにオイルやグリースが付着していないことを確認してください。特に整備、点検作業の後には注意が必要です。

また、ブレーキケーブルが振じれたり、損傷を受けていないか点検してください。油圧システムに水や埃が混入しないように注意してください。

油圧システムのメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお勧めします。

### ⚠ 危険

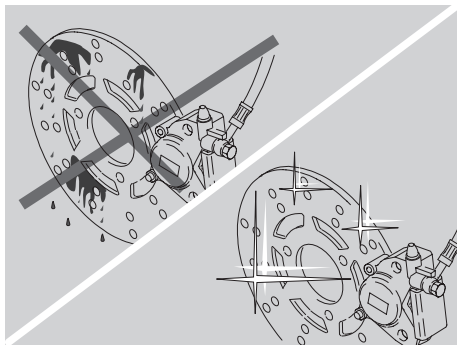
ブレーキオイルが皮膚に付いたり、眼に入ったりすると激しい炎症を起こすことがあります。ブレーキオイルが身体に付いた時は、その部分を丁寧に洗ってください。眼に入った場合は眼科医または医師の診察を受けてください。

環境保護のためブレーキオイルは適切に処理してください。

ブレーキオイルは子供の手の届かない場所に保管してください。

### ⚠ 注意

ブレーキオイルを扱うときはプラスチック部品や塗装部分にこぼすと損傷を与えますので注意してください。



## ディスクブレーキ

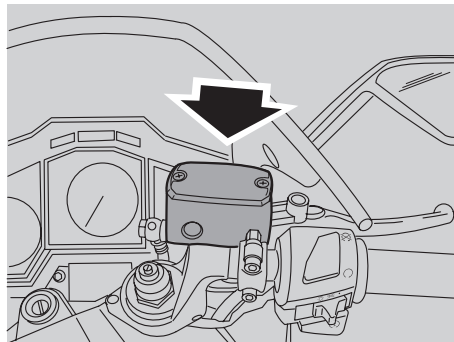
### ▲ 危険

ブレーキはライダーの安全を守る装置ですから、常に確実に作動するようメンテナンスする必要があります。また、走行の前には必ず点検してください。

ディスクが汚れているとブレーキパッドも汚れてしまい、結果として制動力の低下をまねきます。汚れたブレーキパッドは交換し、ディスクの汚れは高品質の油落としを使って拭き取ってください。

aprilia 正規ディーラーに依頼して、2年ごとにブレーキオイルの交換を行ってください。

必ず指定油脂類表に指定されたタイプのブレーキオイルを使用してください。109頁（指定油脂類表）参照。



**重要：**本車体は、フロント、リアとも、それぞれ独立した油圧システムによる二つのブレーキシステムの、ディスクブレーキを装備しています。

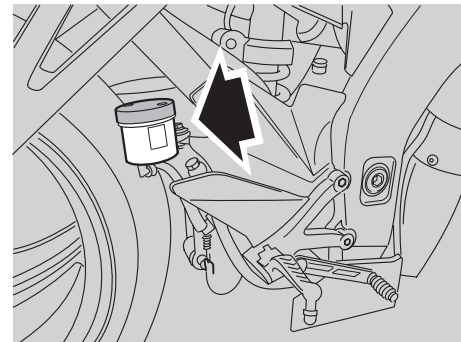
フロントのブレーキシシステムは、二重ディスクブレーキ（右側及び左側）、リアのブレーキシシステムは、単独ディスクブレーキ（右側のみ）です。

以下の説明は一つのブレーキシシステムについてですが、内容はフロント、リア共に共通です。

ブレーキパッドが摩耗すると、摩耗した分を補うためにブレーキオイルが減ります。

フロントブレーキオイルタンクは右側ハンドルバー上、フロントブレーキレバーの根元にあります。

リアブレーキオイルタンクは車体右側、リアブレーキペダルの近くにあります。



**重要：**メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 7500 km (4687 mi) 走行ごとに、ブレーキディスクの点検を aprilia 正規ディーラーに依頼してください。

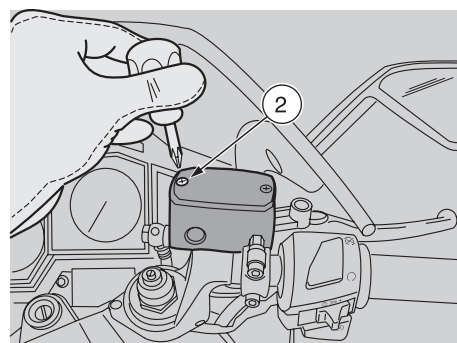
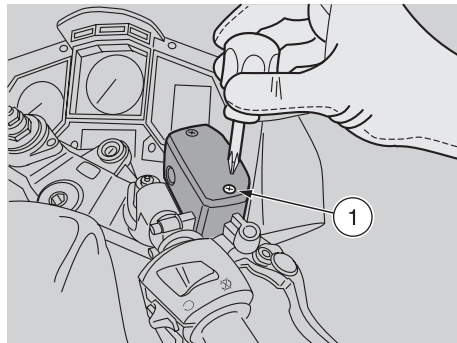
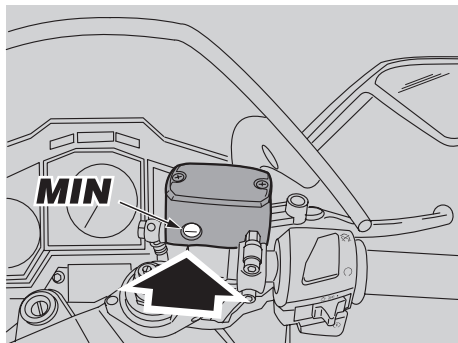
発進の前に各タンク内のブレーキオイルの量を点検してください。32 頁（フロントブレーキ）、34 頁（リアブレーキ）参照。また、ブレーキパッドの摩耗も点検してください。84 頁（ブレーキパッドの摩耗の点検）参照。

aprilia 正規ディーラーに依頼して、2年ごとにブレーキオイルの交換を行ってください。

### ▲ 危険

ブレーキシシステムからのオイル漏れが見られる場合は車体を使用しないでください。





## フロントブレーキ

### ブレーキオイルの点検

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁（スタンドの立て方）参照。
- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。
- ◆ タンク内のオイル液面が“MIN” マークより上にあることを確認します。

MIN = 最低レベル

オイルの液面が“MIN” マークの線より下の場合：

### ▲ 注意

ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

- ◆ ブレーキパッドの摩耗を点検します。84 頁（ブレーキパッドの摩耗の点検）ディスクの摩耗も点検します。
- ブレーキパッドまたは / 及びディスクを交換する必要がなければ、補充を行って下さい。

### ブレーキオイルの補充

30 頁（ブレーキオイル - 注意事項）をよく読んでください。

### ▲ 注意

ブレーキオイルがタンクから溢れ出す危険があります。ネジ (1) (2) を緩めている状態やタンクキャップを外した状態では、決してフロントブレーキレバーを操作しないでください。

### ▲ 注意

ブレーキオイルが漏れた場合に備えて、ブレーキオイルタンクの下に布を敷いておいてください。

- ◆ ハンドルを右側いっぱいに切ります。
- ◆ 短いプラスドライバーを使ってネジ (1) を緩めます。

### ▲ 注意

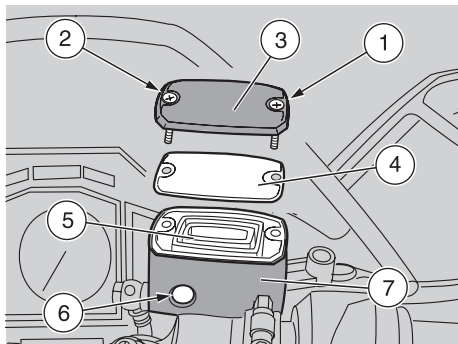
ハンドルを右に切った状態でネジ (2) を緩めないでください。ブレーキオイルが漏れ出すおそれがあります。

- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。
- ◆ ネジ (2) を緩めます。

### ▲ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないように注意してください。ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。オイル補充のため必要な場合のみ、タンクキャップを開けるようにしてください。





- ◆ ネジ(1)および(2)ごと、カバー(3)を取り外します。
- ◆ カバーガイド(4)を取り出します。
- ◆ ガasket(5)を取り外します。

### ▲ 注意

オイルをこぼさないよう、補充中は車体を揺らさないでください。

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

**重要：**目安として、タンクの縁が地面と平行になるよう車体を保持し、確認窓(6)が完全に覆われるまでオイルを入れた状態が“MAX”の液量になります。



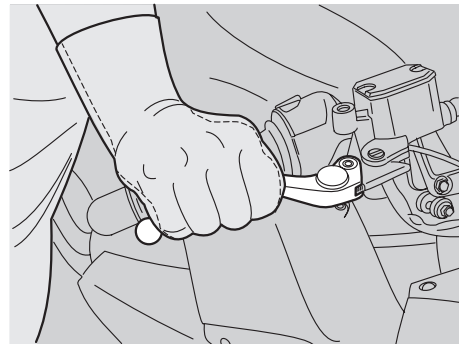
- ◆ ブレーキオイルを補充します(7)。109 頁（指定油脂類表）参照。

### ▲ 注意

補充の際は液面が“MAX”レベルを超えないようにしてください。

“MAX”レベルまで入れるのはブレーキパッドが新品の場合だけにしてください。

ブレーキパッドが摩耗しているときはブレーキオイルを“MAX”レベルまで入れないでください。新品のパッドに交換した際にブレーキオイルが溢れ出す危険があります。

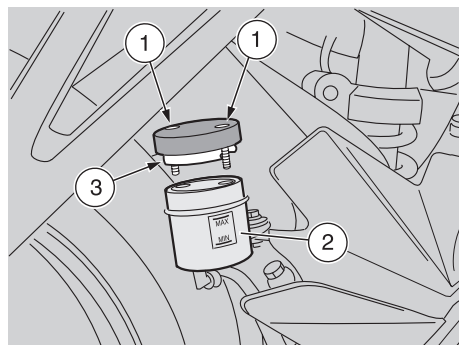
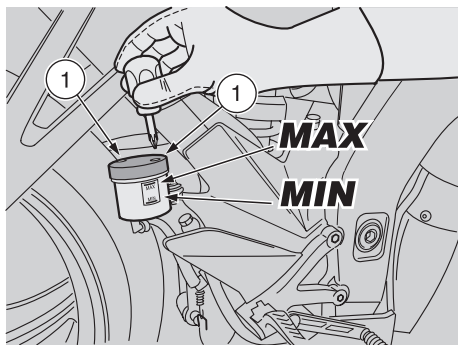


- ◆ ガasket(5)を元どおり取り付けます。
- ◆ カバーガイド(4)を元どおり取り付けます。
- ◆ カバー(3)を元どおり取り付けます。
- ◆ ネジ(2)を締めます。
- ◆ ハンドルを右側いっぱいに切ります。
- ◆ ネジ(1)を締めます。

### ▲ 危険

ブレーキの効き具合を点検してください。

ブレーキレバーの作動範囲が極端に大きかったり、ブレーキの制動力が落ちたときなどは、エア抜き作業が必要な場合がありますので **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。



## リアブレーキ

### ブレーキオイルの点検

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ タンク内のオイル液面が“MIN” マークより上にあることを確認します。

MIN = 最低レベル

MAX = 最大レベル

オイルの液面が“MIN” マークの線より下の場合：

### ▲ 注意

ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

- ◆ ブレーキパッドの摩耗を点検します。84 頁(ブレーキパッドの摩耗の点検)ディスクの摩耗も点検します。

ブレーキパッドまたは / 及びディスクを交換する必要がある場合は、補充を行って下さい。

### ブレーキオイルの補充

30 頁(ブレーキオイル - 注意事項)をよく読んでください。

### ▲ 注意

ブレーキオイルがタンクから溢れ出す危険があります。ネジ (1) を緩めている状態やタンクキャップを外した状態では、決してリアブレーキペダルを操作しないでください。

### ▲ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないように注意してください。ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。オイル補充のため必要な場合のみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

- ◆ 短いプラスドライバーを使用し、ブレーキオイルタンク (2) の 2 本のネジ (1) を緩めます。
- ◆ ネジ (1) およびオイルシール (3) ごと、タ

ンクキャップを取り外します。

### ▲ 注意

オイルをこぼさないよう、補充中はオイル液面とタンクの縁が平行 (水平) を保つようにしてください。オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

しょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

- ◆ 109 頁 (指定油脂類表) に指定されたブレーキオイルを、液面がタンク (2) の“MIN” と“MAX” マークの間に来るまで補充します。

### ▲ 注意

“MAX” レベルまで入れるのはブレーキパッドが新品の場合だけにしてください。ブレーキパッドが摩耗しているときはブレーキオイルを“MAX” レベルまで入れないでください。新品のパッドに交換した際にブレーキオイルが溢れ出す危険があります。

ブレーキの効き具合を点検してください。

ブレーキレバーの作動範囲が極端に大きかったり、ブレーキの制動力が落ちたときなどは、エア抜き作業が必要な場合がありますので **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。



### クラッチオイル - 注意事項

**重要**：このモーターサイクルは油圧式クラッチを装備しています。

### ⚠ 注意

突然クラッチレバーの遊びが変わったり、重くなったりした時は、油圧系統に何らかの不具合が発生した可能性があります。クラッチ系統が正常に機能しているか疑問な時、通常の点検作業ができない時などは **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

### ⚠ 注意

クラッチケーブルが振じれたり、損傷を受けていないか点検してください。油圧系統に水や埃が混入しないように注意してください。

油圧系統のメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお勧めします。

クラッチオイルが皮膚に付いたり、眼に入ったりすると激しい炎症を起こすことがあります。クラッチオイルが身体に付いた時は、その部分を丁寧に洗ってください。眼に入った場合は眼科医または医師の診察を受けてください。

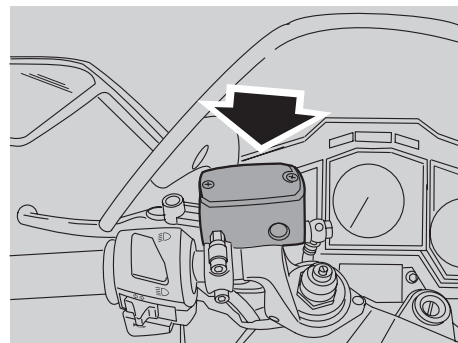
環境保護のためクラッチオイルは適切に処理してください。

クラッチオイルは子供の手の届かない場所に保管してください。

クラッチオイルを扱うときはプラスチック部品や塗装部分にこぼすと損傷を与えますので注意してください。

クラッチ制御装置オイルは、**aprilia** 正規ディーラー元で2年ごとに交換を行ってください。

必ず指定油脂類表に指定されたタイプのクラッチオイルを使用してください。109頁（指定油脂類表）参照。



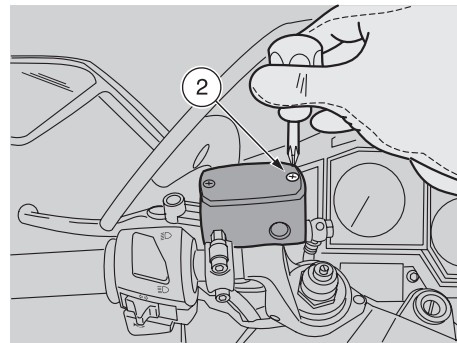
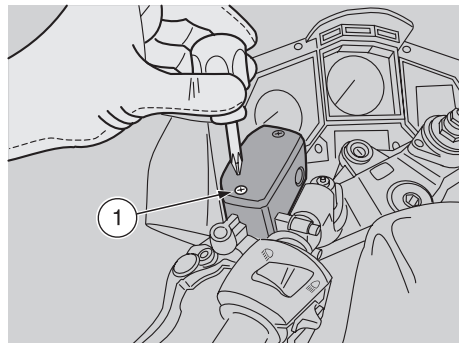
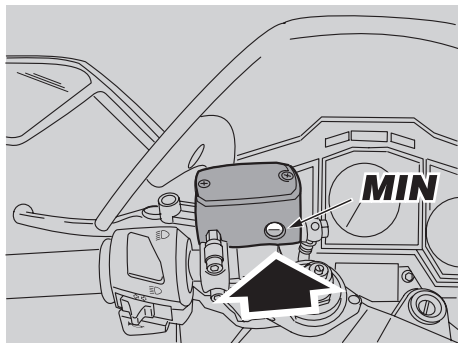
クラッチオイルタンクは左側ハンドルバー上、クラッチレバーの根元にあります。

**重要**：メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

走行前に、タンク内のオイルレベルを確認して下さい。36頁（クラッチ）参照。クラッチ制御装置オイルは、**aprilia** 正規ディーラーに依頼して2年ごとに交換を行って下さい。

### ⚠ 危険

クラッチ制御装置からオイル漏れが見られる場合は、車体を使用しないで下さい。



## クラッチ

**重要：**メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

7500 km (4687 mi) 走行ごとに、クラッチの点検を **aprilia** 正規ディーラーに依頼して下さい。

競技的な走行をすることが多い場合は：

3750 km (2343 mi) 走行ごとに、クラッチの点検を **aprilia** 正規ディーラーに依頼して下さい。

**重要：**このモーターサイクルのエンジンには油圧制御式クラッチが装備されており、切り換え時に後輪が飛び跳ねるのを防ぎます。この PPC (Pneumatic Power Clutch) には当社が特許を専有しています。

## クラッチオイルの点検

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁 (スタンドの立て方) 参照。
- ◆ ハンドルを完全に右に回します。
- ◆ タンク内のオイル液面が“MIN” マークより上にあることを確認します。

**MIN** = 最低レベル

- ◆ 液面が“MIN” マークに達していない場合はクラッチオイルを補充して下さい。

## クラッチオイルの補充

35 頁 (クラッチオイル - 注意事項) をよく読んでください。

## ⚠ 注意

クラッチオイルがタンクから溢れ出す危険があります。タンクキャップを緩めたり外した状態では、決してクラッチレバーを操作しないでください。

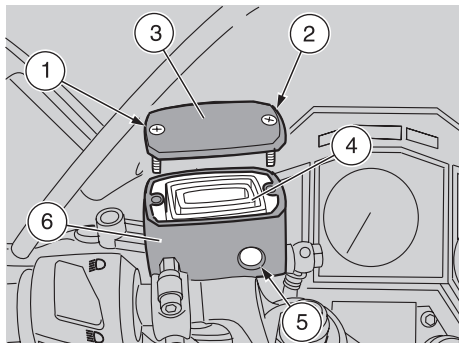
## ⚠ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないように注意してください。ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。オイル補充のため必要な場合のみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

## ⚠ 注意

ブレーキオイルが漏れた場合に備えて、ブレーキオイルタンクの下に布を敷いておいてください。

- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。
- ◆ 短いプラスドライバーを使ってネジ (1) を緩めます。



### ⚠ 注意

ハンドルを右に切った状態でネジ (2) を緩めないでください。ブレーキオイルが漏れ出すおそれがあります。

- ◆ ハンドルを右側いっぱいに切ります。
- ◆ ネジ (2) を緩めます。

### ⚠ 注意

オイルをこぼさないよう、補充中は車体を揺らさないでください。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

- ◆ ネジ (1) および (2) ごと、カバー (3) を取り外します。
- ◆ ガasket (4) を取り外します。



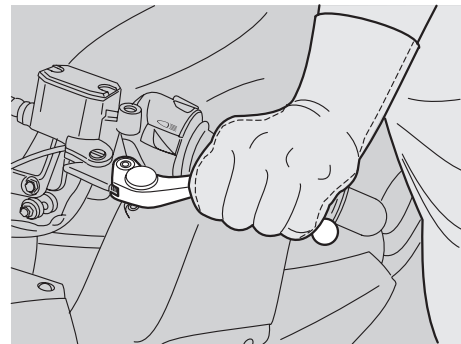
**重要：**目安として、クラッチオイルタンクの縁が地面と平行になるよう車体を保持し、確認窓 (5) が完全に覆われるまでオイルを入れた状態が“MAX”の液量になります。

- ◆ 109 頁 (指定油脂類表) に指定されたクラッチオイルをタンク (6) に適正レベルまで補充します。

### ⚠ 注意

補充の際は液面が“MAX”レベルを超えないようにしてください。

- ◆ ガasket (4) を元どおり取り付けます。
- ◆ ネジ (2) を締めます。
- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。
- ◆ ネジ (1) を締めます。



### ⚠ 危険

クラッチの性能の点検を行って下さい。

クラッチ制御ハンドルの過剰な回転、またはクラッチが正常に機能しなくなった場合には、**aprilia** 正規ディーラーにお問い合わせ下さい。クラッチから余分な空気を抜く必要がある場合があります。

## 冷却液

### ▲ 注意

冷却液の量が規定レベル (LOW) 以下の時はモーターサイクルを使用しないでください。

**重要**：メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

発進の前に冷却液の量を点検してください。39 頁（冷却液の点検と補充）参照。また、2年に一度は **aprilia** 正規ディーラーにて交換してください。

### ▲ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。また、皮膚に付いたり眼に入ると炎症の原因になります。

冷却液が皮膚に付いたり、眼に入ったりした時は、流水で十分に洗い落とし医師の診察を受けてください。誤って飲み込んだ場合には吐き出してから喉、口を水で十分に洗浄し、直ちに医師の診察を受けてください。

冷却液は子供の手の届かない場所に保管してください。

環境保護のため冷却液は適切に処理してください。



熱くなっているエンジンに冷却液をこぼさないよう注意してください。目にみえない炎を発生し火災の原因になります。

冷却液のメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお勧めします。

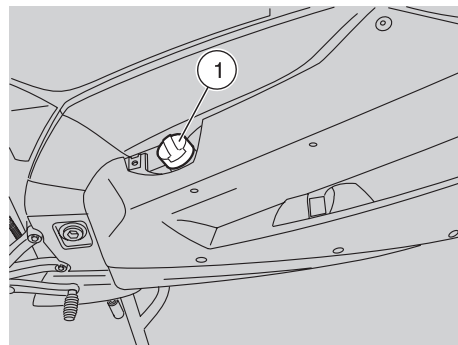
### ▲ 注意

冷却液の交換は **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。

冷却液は水 50%と不凍液 50%で作られています。

この混合率の冷却液は通常の使用温度範囲において最適であり、また防錆効果も良好です。

この混合率の冷却液は蒸発による減少が小さく、したがって補充回数も少なくてすみますので、夏季も含めて一年中この混合率を維持するようお勧めします。



また、蒸発によってラジエーターの中に残るミネラル結晶の発生も少なくなるため、冷却システムの性能を維持することができます。

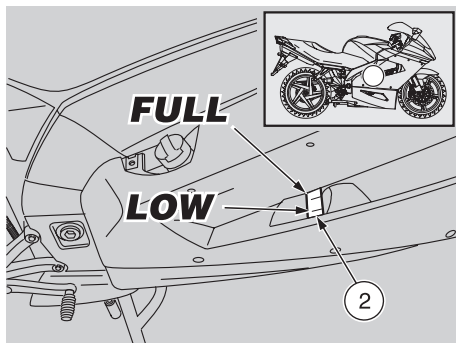
外気温が 0 °C 以下になる場合は頻繁に冷却システムの点検を行なってください。必要ならば不凍液の混合率を（最大 60% まで）上げてかまいません。

エンジンに損傷を与えないよう、冷却液の水は蒸留水のみ使用してください。

### ▲ 危険

エンジンが熱い間は冷却液が加圧されており液温も高いのでエキスパンションタンクの栓(1)を決して外さないでください。冷却液が皮膚や衣服につくとひどい火傷や衣類の損傷をおこすことがあります。





### 冷却液の点検と補充

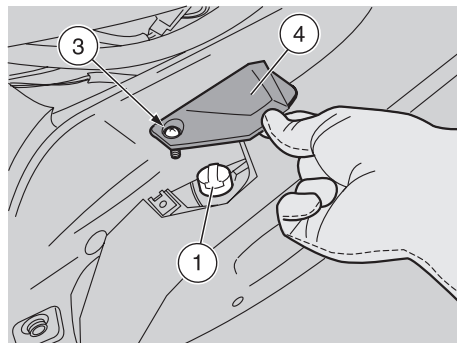
#### ▲ 危険

冷却液の点検や補充はエンジンが冷えている時に行なってください。

- ◆ エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。
- ◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。
- ◆ エキスパンションタンク (2) 内の冷却液の液面が“FULL”と“LOW”マークの間にあることを (右側サイドフェアリングの確認窓から) 確認します。

FULL= 最大レベル

LOW= 最低レベル



### 液面が“MIN”マークの近くか下の場合：

- ◆ ネジ (3) を回して取り外します。
- ◆ カバー (4) を取り外します。
- ◆ キャップ (1) を緩めて外します。

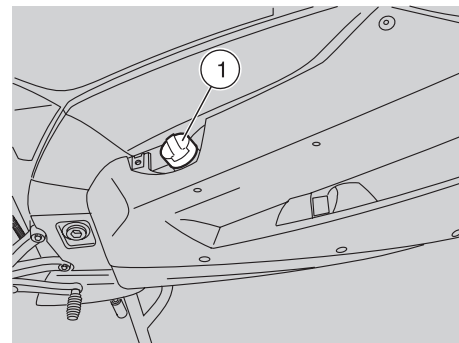
#### ▲ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。また、皮膚に付いたり眼に入ると炎症の原因になります。冷却液の有無をみるために、指や他の物品を挿入しないでください。

#### ▲ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。



- ◆ 109 頁 (指定油脂類表) に指定された冷却液を、液面が“FULL”マークに近づくまで補充します。ただしこのマークを超えないよう注意してください。エンジンを始動したときに冷却液がタンクから溢れ出す危険があります。

- ◆ 注入口のキャップ (1) を元どおり締めます。
- ◆ カバー (4) を元の位置に取り付けます。
- ◆ ネジ (3) を締め付けます。

#### ▲ 注意

冷却液の減りかたが激しかったり、エキスパンションタンクが空になったりする場合は、冷却液のパイプラインに液漏れがないか点検してください。修理が必要な場合は **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。

## タイヤ

このモーターサイクルは、チューブレスタ  
イプのタイヤを装備しています。

**重要**：メンテナンス作業を行う頻度は、  
車体を以下のような場所で使用される場  
合、2倍に増加して下さい：雨の多い地域、  
埃っぽい場所、舗装されていない路上、ま  
たはスポーツ運転の実行時。

### ▲ 危険

室温でのタイヤ空気圧を 15 日ごとに点検  
してください。

1000 km (625 mi) 走行ごとに、タイヤの状  
態と室温での空気圧を点検してください。  
105 頁 (テクニカルデータ) 参照。

### ▲ 危険

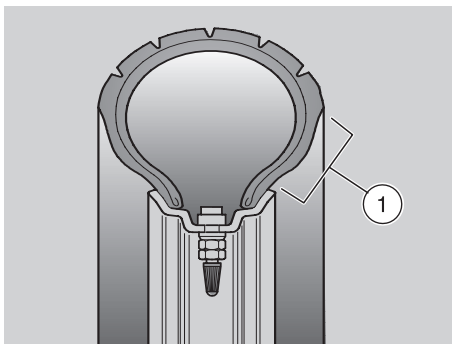
室温でのタイヤの空気圧を定期的に点検  
してください。105 頁 (テクニカルデータ  
) 参照。

タイヤが熱くなっている時には正確な測  
定はできません。

特にロングツーリングの前後には必ず空  
気圧を測定してください。

空気圧が高すぎると、路面の凹凸のショッ  
クが吸収されずハンドルに直接伝わるた  
め、走行の快適さやカーブでの安定性を失  
います。

また逆に空気圧が低すぎると、タイヤの側  
面 (1) に負荷がかかり、リムからずれたり  
浮き上がったりして車体のコントロール  
を失う危険があります。



特に急ブレーキの際にはリムから外れる  
危険もあります。  
さらに、カーブでは車体の横滑りを起こし  
やすくなります。

タイヤの状態が悪いと路面グリップ力や  
操縦性を損ないますので、タイヤの接地面  
や側面の状態、および摩耗を常に点検し  
てください。

### ▲ 危険

全体が摩耗していたり、トレッドに 5 mm  
以上の亀裂があるような場合は、タイヤを  
交換してください。

本車体用に保安基準認定を受けたタイヤ  
のうち、種類によっては摩耗度の表示を備  
えたものがあります。

摩耗度の表示にはいろいろな種類があり  
ますので、お買い上げになったディーラ  
ーまで摩耗度の検査についてお問い合わせ  
下さい。

タイヤの修理を受けた後は必ずホイール  
バランスの点検を受けてください。

全体が摩耗していたり、トレッドに 5 mm  
以上の亀裂があるような場合は、タイヤの  
交換を依頼してください。

タイヤの修理を受けた後は必ずホイール  
バランスの点検を受けてください。

### ▲ 危険

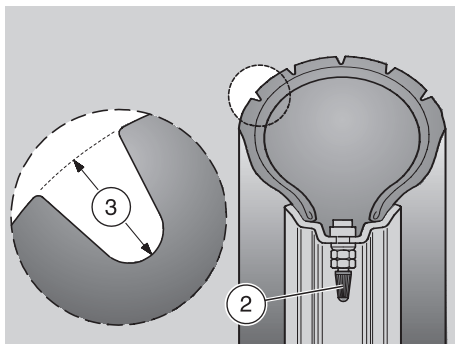
タイヤは、メーカーの推奨する型式のもの  
のみ、交換を行って下さい。105 頁 (テ  
クニカルデータ) 参照。推奨されている型  
以外のタイヤを使用すると、車体の走行性  
に悪影響をもたらします。

チューブ入りタイヤ用のリムにチューブ  
レスタイヤを取り付けたり、逆にチューブ  
レスタイヤ用のリムにチューブ入りタイ  
ヤを取り付けたりしないでください。

空気漏れを防ぐため、常にバルブキャップ  
(2) を使用してください。

タイヤの交換、修理、メンテナンス、ホ  
イールバランスは非常に重要な作業  
のため、適切な設備と熟練が必要です。





### ▲ 危険

上記の理由から、タイヤに関する作業は **aprilia** 正規ディーラーまたは有名タイヤショップにご相談ください。タイヤが新しい場合は表面が滑りやすい保護ワックスで被われていますので注意して運転してください。タイヤ表面に不適当な液体やオイルなどを塗らないでください。タイヤは古くなると硬化し、たとえ摩耗していなくても路面のグリップ力が落ちます。このような時には新品と交換してください。

タイヤ摩耗限界・溝の深さ (3) :

フロント及びリア 2 mm

いずれの場合にも、車体を使用する国の、現行の法規定により定められている値を下回らないこと。

## エンジンオイル

### ▲ 危険

エンジンオイルを毎日、かつ長期間扱っていると皮膚に重大な損傷を与えることがあります。

エンジンオイルを扱った後は手をきれいに洗ってください。


燃料は子供の手の届かない場所に保管してください。

環境保護のためエンジンオイルは適切に処理してください。

使用済みのオイルは密閉容器に入れ、行きつけのガソリンスタンド、オイル処理施設等へ持参して処理を依頼してください。

メンテナンス作業の際はゴム手袋の着用をお薦めします。

### ▲ 注意

走行中など、エンジン稼働中にエンジンオイル警告灯“”が点灯した場合は、エンジンオイル系統内のオイルが不足していることを示します。

この場合には、エンジンオイルのレベルを確認して下さい。63 頁 (エンジンオイル量の点検と補充) 参照。正しいレベルでない場合は、直ちにエンジンを止め、**aprilia** 正規ディーラーまでお問い合わせ下さい。



### ▲ 注意

慎重に作業してください。

オイルを撒き散らさないようにしてください！

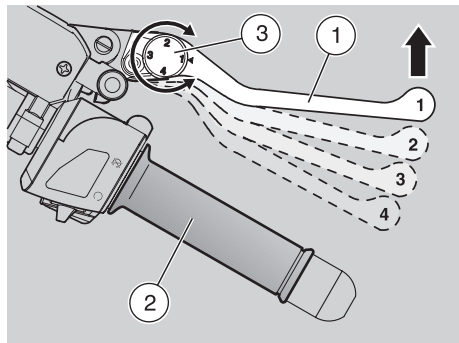
部品や作業している場所、その周囲などを汚さないよう注意してください。オイルが付着した場合は丁寧に拭き取ってください。

液漏れや正常に機能しない場合は、**aprilia** 正規ディーラーまでご相談ください。

エンジンオイルのレベルは、定期的な点検を行って下さい。63 頁 (エンジンオイル量の点検と補充) 参照。

エンジンオイルの交換方法については、60 頁 (定期点検整備表) および 64 頁 (エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターの交換) 参照。

**重要** : 粘度 15W-50 の高品質のオイルのみ使用してください。109 頁 (指定油脂類表) 参照。



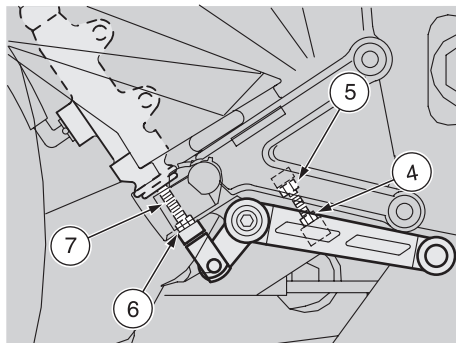
### フロントブレーキレバーおよびクラッチレバーの調整

レバー(1)とハンドルグリップ(2)の間隔は、アジャスター(3)を回すことで調整可能です。

アジャスターの目盛り“1”および“4”が、レバーの先端とハンドルグリップの間隔、約105および85mmに相当します。

目盛り“2”および“3”は中間のポジションです。

- ◆★レバー(1)を前方に押しながらアジャスター(3)を回し、好みの間隔になるよう目盛りを三角指針に合わせます。

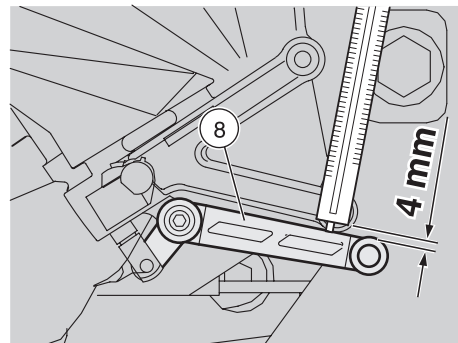


### リアブレーキペダルの遊びの調整

リアブレーキペダルは、モーターサイクル生産の際、人体工学的に見て最適な位置に取り付けられています。

必要な場合はリアブレーキペダルの遊びを調整することも可能です：

- ◆ロックナット(4)を緩めます。
- ◆ブレーキアジャスター(5)を完全に取り外します。
- ◆ロックナット(6)でポンプコントロールロッド(7)を完全にネジ留めします。
- ◆一旦ポンプコントロールロッド(7)を最後までねじ込み、その後3～4回転分緩めます。
- ◆ブレーキペダルが希望の高さになるまでブレーキアジャスター(5)をねじ込みます。
- ◆ロックナット(4)ブレーキアジャスター(5)を固定します。
- ◆ポンプコントロールロッド(7)をポンプピistonに当たるまで緩めます。



- ◆ポンプコントロールロッド(7)とポンプピiston間の隙間が最低0.5～1mmになるようにロッドをねじ込みます。

### ▲ 注意

ブレーキペダル(8)の遊びを確認してください。遊びがないと、ブレーキが解除されずブレーキパッドやディスクが早く摩耗します。

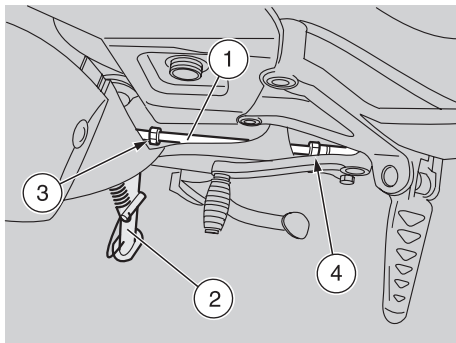
ブレーキペダル(8)の遊び：4mm(ペダルの先端にて)。

- ◆ポンプコントロールロッド(7)をロックナット(6)で固定します。

### ▲ 注意

調整後、ブレーキを解除した時にリアホイールが自由に回転することを確認してください。

ブレーキの効き具合を点検してください。必要な場合は **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。



### シフトペダルの調整

シフトコントロールロッド(1)により、シフトペダルの位置を調整することができます。以下の手順で行なってください：

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ 作業しやすいよう、サイドスタンド(2)を下げます。
- ◆ ナット(3)(4)を緩めます。
- ◆ シフトペダルが好みの高さになるよう、シフトコントロールロッドを回します。
- ◆ ナット(3)(4)を元どおり締めます。

### 自動点灯装置仕様車 ASD

自動点灯装置を搭載したモデルでは、イグニッションスイッチを“○”の位置に回したとき自動的にライト類が点灯します。

このためライトスイッチはありません。

ライト類はイグニッションスイッチを“⊗”の位置に回したときに消灯します。

エンジンを始動する前に、ディマースイッチが“D”の位置(ヘッドライトはロービーム)になっていることを確認してください。

### 触媒マフラー

#### ▲ 危険

触媒コンバーター仕様車のマフラーは使用中にかなりの高温になりますので、乾燥した茂みの近くや子供が近づける場所には駐車しないでください。完全に冷えるまでマフラーには何も触れないように充分注意してください。

触媒コンバーター仕様車には“二価白金ロジウム”タイプの金属触媒コンバーターを使用したマフラーが搭載されています。

この装置は排気中に含まれる CO (一酸化炭素) と HC (不燃成炭化水素) を酸化させ、それぞれ二酸化炭素と水蒸気に変換して排出します。

#### ▲ 注意

有鉛ガソリンは触媒コンバーター破損の原因となりますので、決して使用しないでください。

### マフラー / 排気マフラー

#### ▲ 危険

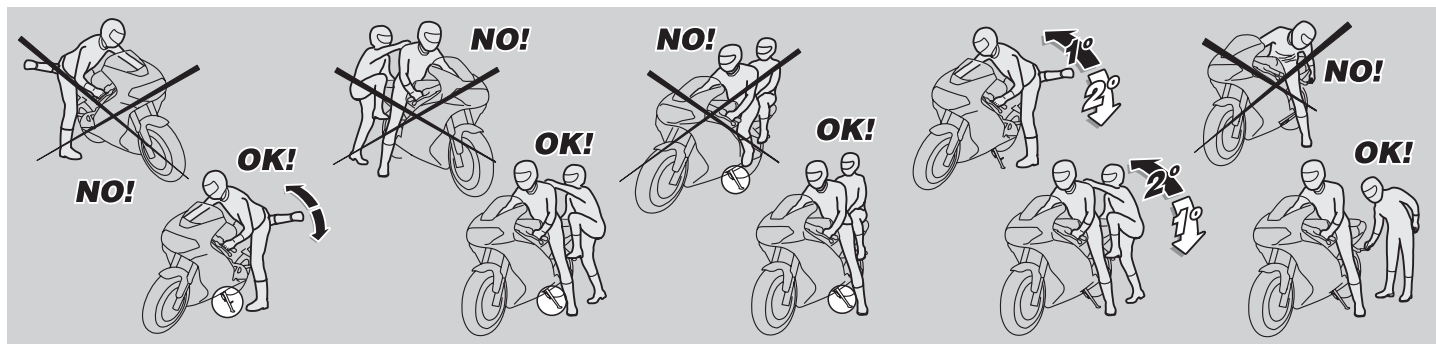
騒音制御装置に勝手に変更を加えることは禁止されています。

車体のオーナーは、以下の内容が法律で禁止され得ることを認識してください：

- メンテナンス、修理もしくは備品交換目的以外で、新車に内蔵されている構成装置もしくは要素を取り外したり作動できなくして、車体の最終購入者への販売または納品前や車体の起動中に、騒音の放出を点検すること
- 上記の構成装置もしくは要素を、取り外したり作動できなくしてから車体を使用すること。

マフラー / 排気マフラー及びマフラー管を点検して、さびの兆候や穴がないこと、排気装置が正しく操作していることを確認してください。

排気装置が発する騒音が増大する場合には、即刻 **aprilia** 正規ディーラーまでご相談ください。



### 車両への乗り降り

次の安全のための注意事項は特に注意してお読みください。ドライバーやパッセンジャーが車両から転落したり、車両が転倒したりすることによる、人身傷害や器物および車両への損傷を防ぐためのものです。

#### ▲ 危険

転落や転倒の危険があります。慎重に行なってください。

車両への乗り降りは、自由に身動きが取れ、また両手に何も（物や着用していないヘルメット、グローブ、眼鏡など）持たない状態で行なってください。

この車両は次の2つのスタンドを装備しています：センタースタンド、サイドスタンド。

#### ▲ 注意

センタースタンドを立てた状態でエンジンを始動しないでください。ギアが入った際に車体のコントロールを失う危険があります。

センタースタンドを立てた状態ではライダーもパッセンジャーも乗車しないでください。乗車したままセンタースタンドを立てようとしてはいけません。

車両への乗り降りは、必ず車体の左側から、また必ずサイドスタンドを降ろした状態で行なってください。

#### ▲ 注意

サイドスタンドにはご自分の体重やパッセンジャーの体重をかけないようにしてください。

サイドスタンドは車体重量とわずかな重量の積荷を支えられるよう設計されています。ライダーやパッセンジャーの体重は含まれていません。

サイドスタンドを立てた状態で乗車するのは、転落や転倒の危険を防ぐことのみが目的です。サイドスタンドにはライダーやパッセンジャーの体重をかけないでください。

乗り降りの際、車体重量のためバランスを失い、その結果転落や転倒する危険があります。

**重要**：必ずライダーが先に乗り、後で降りるようにしてください。パッセンジャーが乗り降りする間は、ライダーがバランスを取り安定を確保します。

一方、パッセンジャーは車体やライダーのバランスを崩さないよう、慎重に乗り降りしてください。

**重要**：乗り降りの方法をパッセンジャーに指示するのはライダーの役割です。

車両にはパッセンジャーの乗り降りのためのパッセンジャーフットレストが備えられています。パッセンジャーは乗り降りの際必ず左側のフットレストを使用してください。

飛び降りようとしたり、地面まで直接足を伸ばして降りようとしたりすることはやめてください。このような行為はどちらも車体のバランスを崩し安定を失う原因となります。

**重要**：車体後方の積荷や取り付け物などが乗り降りの妨げとなる場合があります。

いずれの場合にも、車体のバランスを崩さないよう慎重に右足を動かして車体後部（テール部または積荷）の上を通します。

#### 乗り方

◆ ハンドルを正しく握り、サイドスタンドに体重をかけないように注意しながら乗ります。

**重要**：両足とも地面に着けることが無理な場合は、右足を着けておき（バランスを崩しても左側はサイドスタンドで“守られて”います）、左足はすぐに着けられるようにしておきます。

◆ 両足を地面に着け、車体を走行時の状態にまっすぐ起こしてバランスを保ちます。

**重要**：運転姿勢を取っているライダーがパッセンジャーフットレストを引き出すそうとしてはいけません。車体のバランスを崩し安定を失う原因となります。

◆ パッセンジャーに指示して両側のパッセンジャーフットレストを引き出させます。

◆ パッセンジャーに乗り方を指示します。

◆ 左足でサイドスタンドを操作して完全に格納します。

#### 降り方

◆ 駐車する場所を選びます。55 頁（パーキング）参照。

◆ 車両を停止させます。55 頁（停止）参照。

### ▲ 危険

障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

◆ 左足のかかたでサイドスタンドを操作して完全に開きます。

**重要**：両足とも地面に着けることが無理な場合は、右足を着けておき（バランスを崩しても左側はサイドスタンドで“守られて”います）、左足はすぐに着けられるようにしておきます。

◆ 両足を地面に着け、車体は走行時の状態に起こしたままバランスを保ちます。

◆ パッセンジャーに降り方を指示します。

### ▲ 注意

転落や転倒の危険があります。パッセンジャーが降りてしまったことを確認してください。

サイドスタンドに体重をかけないようにしてください。

◆ サイドスタンドが地面に着くまで車体を傾けます。

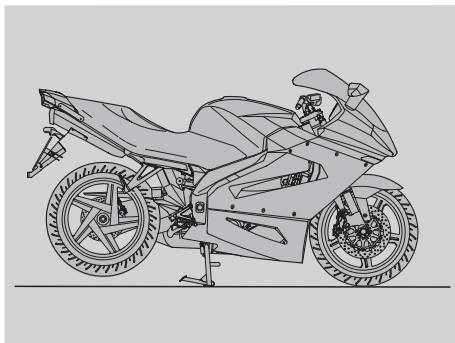
◆ ハンドルを正しく握って降ります。

◆ ハンドルを左側いっぱいに切ります。

◆ パッセンジャーフットレストを格納します。

### ▲ 注意

車体が安定しているか確認してください。



## 走行前の点検

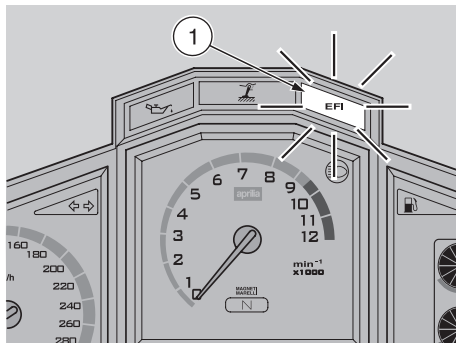
### ▲ 危険

走行を始める前には必ず予備点検を行ない、モーターサイクルが確実に機能することを確認してください。右表（走行前の点検）参照。

この作業をしないで走行した場合には重大な人身傷害やモーターサイクルの損傷を引き起こす危険があります。

各部装置の機能が良く解らない時や、何らかの異常を感じた時はお気軽に **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

走行前の点検はライダーの安全のためにとっても重要です。短い時間でできますので必ず実施してください。



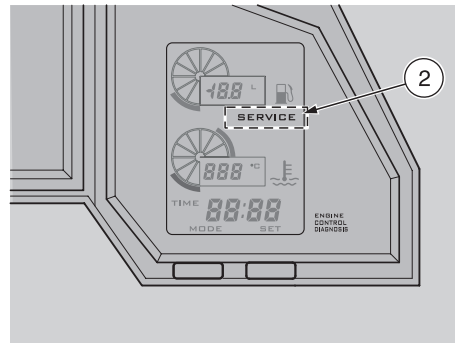
**重要**：このモーターサイクルにはコンピューターボックスが装備されており、異常動作などをリアルタイムに発見しメモリーします。

イグニッションスイッチを“○”の位置に回したとき、約3秒間メーターパネルに自動診断インジケーター“EFI”（1）が点灯します。

### ▲ 注意

自動診断インジケーター“EFI”（1）が始動時に点滅する場合、またはエンジン稼働中に点滅を始めた場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。

たいていの場合エンジンは動作し続けませんが性能は制限されます。直ちに **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。



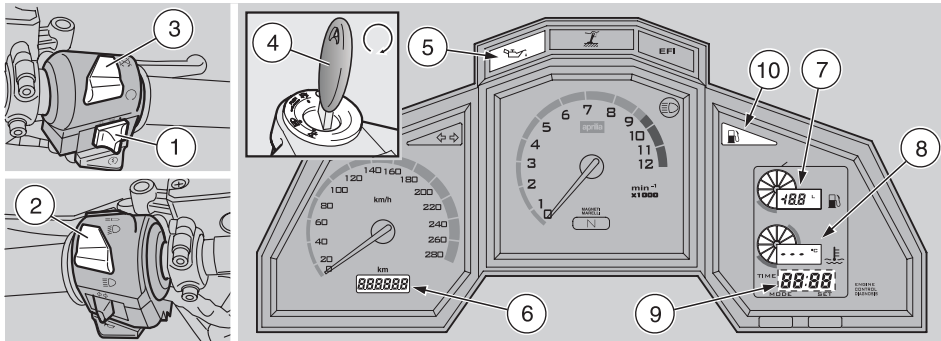
### ▲ 注意

最初は 1000 km (625 mi)、その後は 7500 km (4687 mi) ごとに、右側ディスプレイに“SERVICE”（2）と表示されます。その際は定められた定期点検を **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。60 頁（定期点検整備表）参照。

## 走行前の点検

点検箇所	点検内容	参照頁
フロントおよびリアディスクブレーキ	ブレーキの効き具合、ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊び、ブレーキオイル量、オイル漏れの有無を点検。 ブレーキパッドの摩耗を点検。 必要な場合はブレーキオイルを補充。	30 頁(ブレーキオイル - 注意事項), 31 頁(ディスクブレーキ), 32 頁(フロントブレーキ), 34 頁(リアブレーキ), 84 頁(ブレーキパッドの摩耗の点検)
スロットル	ハンドルの角度に関わらずスロットルグリップが全開から全閉までスムーズに回転することを確認。必要な場合は調整や潤滑。	85 頁(スロットルケーブルの調整)
エンジンオイル	エンジンオイル量を点検。必要な場合は補充。	41 頁(エンジンオイル), 63 頁(エンジンオイル量の点検と補充)
ホイール/タイヤ	タイヤ表面の状態、空気圧、摩耗度、損傷などを点検。タイヤのトレッドのうねに異物がはまった場合は、取り除いて下さい。	40 頁(タイヤ)
ブレーキレバーおよびブレーキペダル	スムーズに動作することを確認。必要ならばジョイント部の潤滑や作動ストロークの調整。	42 頁(リアブレーキペダルの遊びの調整)
クラッチ	クラッチの動作、クラッチレバーの遊び、クラッチオイル量、液漏れの有無を点検。必要な場合はクラッチオイルを補充。スムーズかつ滑らずに動作すること。	35 頁(クラッチオイル - 注意事項), 36 頁(クラッチ)
ステアリング	回転が均一かつスムーズであること、がたつきや緩みがないことを確認。	—
サイドスタンド センタースタンド	スムーズに動作し、開閉の際に引っかかりなどが無いこと、スプリングにより正しい格納ポジションに戻ることを確認。 必要な場合はジョイント部を潤滑。 サイドスタンドの安全マイクロスイッチが正常に動作することを確認。	87 頁(サイドスタンドの点検), 93 頁(マイクロスイッチ類の点検)
組み付け部品	全ての組み付け部分がかかりと固定されていることを確認。必要な場合は調整、締め直し。	—
ドライブチェーン	チェーンテンションを点検。	74 頁(ドライブチェーン), 75 頁(チェーンの清掃と潤滑)
燃料タンク	ガソリン量を点検。必要な場合は補充。 燃料供給系統に漏れや閉塞がないことを確認。 燃料タンクキャップがしっかり閉じていることを確認。	28 頁(燃料), 76 頁(燃料タンクの起こし方)
冷却液	エキスパンションタンク内の冷却液の液面が“LOW”と“FULL”マークの間にあることを確認。	38 頁(冷却液), 39 頁(冷却液の点検と補充)
エンジンキルスイッチ (○ - ☒)	正常に動作することを確認。	23 [エンジンキルスイッチ (○ - ☒)]
ライト類、インジケータ LED、警告ホーン、リアブレーキ・マイクロスイッチ、その他の電装パーツ	すべての装置が正常に作動することを確認。必要な場合はバルブの交換や故障部分の修理。	90 頁(バッテリー) ~ 100 頁(テールライトバルブの交換)





## エンジンの始動

### ▲ 危険

このモーターサイクルは多大な出力を持っていますので、運転に慣れるに従って徐々に出力を上げるようにし、常に慎重に運転してください。

スクリーンの内側（ハンドルとメーターパネルの間）には何も置かないでください。ハンドルの回転やメーターパネルの視界を妨げないためです。

**重要：**エンジンを始動する前に“安全運転のために”の章を注意深くお読みください。5頁（安全運転のために）参照。

### ▲ 危険

排気中には吸引すると大変危険な一酸化炭素が含まれています。閉め切った室内や換気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。この注意を守らないと酸素欠乏のため意

識不明になったり、最悪の場合は死亡する危険があります。

**重要：**サイドスタンドが降りた状態では、ギアがニュートラルポジションにある時だけエンジンをかけることができます。この場合、ギアをニュートラル以外のポジションに入れようとするとエンジンが停止します。サイドスタンドが格納されている状態では、ギアがニュートラルポジションの時、もしくはクラッチが切つてあればこのポジションでも、エンジンをかけることができます。

- ◆ ライダーシートにまたがります。44頁（車両への乗り降り）参照。
- ◆ サイドスタンドが完全に格納されているか確認してください。
- ◆ **ASD仕様車にはありません。**ライトスイッチ(1)を“●”の位置にします。
- ◆ ディマースイッチ(2)を“■”の位置にします。


- ◆ エンジンキルスイッチ(3)を“○”側に押しします。
- ◆ イグニッションキー(4)を“○”の位置に回します。

するとメーターパネルに次の表示が3秒間点灯します：

- すべてのインジケーターLED
- すべてのバックライトLED
- デジタルディスプレイ左側の全セグメント
- デジタルディスプレイ右側の全セグメントと表記
- メーター類の針はスケール上の最小値を指します。


このようにしてLED、表記、セグメント、およびメーター類の動作が点検されます。

燃料供給系統に燃料を送り出すポンプの作動音が約3秒間聞こえるはずですが、

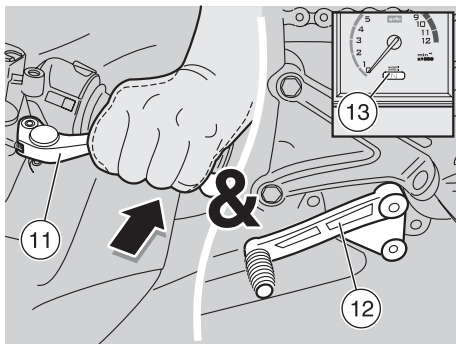
3秒後、メーターパネル上のエンジンオイル警告灯“” (5) は点灯したままとなります（エンジンを始動するまで点灯し続けます）。デジタルディスプレイには次の値が表示されます：

- 積算走行距離(6)
- ガソリン量(7)
- 冷却液温度(8) [35°C (97°F) までは“—”と表示されます。]
- 時刻(9)

### ▲ 注意

メーターパネル上の燃料警告灯“” (10) が点灯した場合は、できるだけ速やかに燃料を補充してください。28頁（燃料）参照。



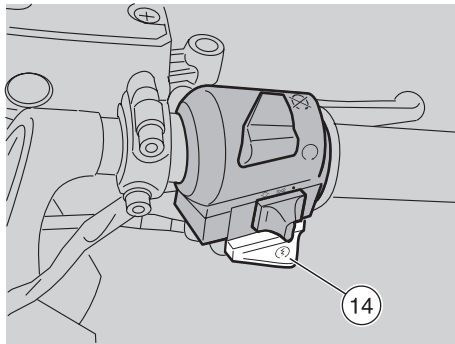


- ◆ フロントブレーキレバーをいっばいに引きます。
- ◆ クラッチレバー(11)をいっばいに引いてクラッチを切り、シフトペダル(12)をニュートラルにします [グリーンのインジケータ “N” LED (13) が点灯]。

**重要**：外気温が低い (0°C - 32°F またはそれ以下) 場合の始動手順については、50頁 (寒冷時のエンジンの始動) を参照してください。

### ⚠ 注意


バッテリーの消耗を避けるため、スターターボタン “③” は 15 秒以上押し続けしないでください。  
この間にエンジンが始動しない場合は、10 秒間待ってから再度スターターボタン “③” を押します。



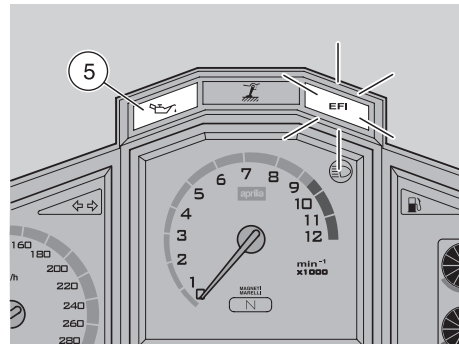
- ◆ スロットルグリップを戻した状態でスターターボタン “③” (14) を押します。エンジンが始動したら直ぐに離してください。

### ⚠ 注意

エンジンが始動した後はスターターボタン “③” (14) を押さないでください。スターターモーターを損傷します。

エンジン始動後もエンジンオイル警告灯 “” (5) が消灯しなかったり、走行中に点灯するような場合は、エンジンオイルが不足していることを示しています。この場合は直ちにエンジンを停止し、**aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

- ◆ 発進させるまではスロットルグリップを回さないでください。また、少なくとも一方のブレーキをかけておいてください。



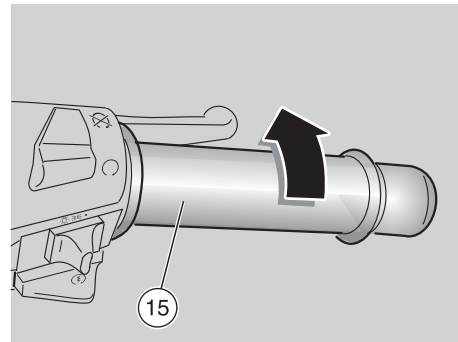
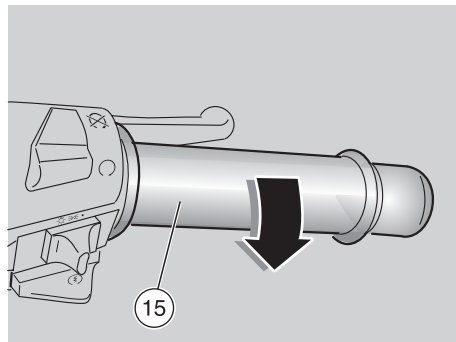
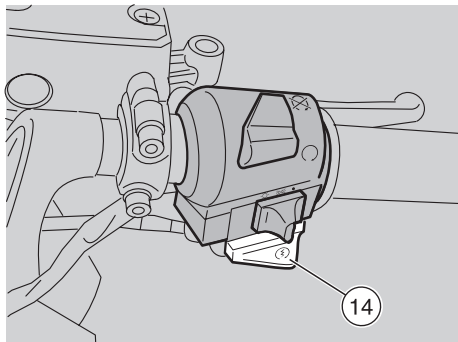
### ⚠ 注意

エンジンが暖機されていない状態では急激な発進をしないでください。汚染物質の排出と燃料消費を抑えるため、最初の数キロは低速で走行しエンジンを温めるようにしてください。

### ⚠ 注意

自動診断インジケータ “EFI” が始動時に点滅する場合、またはエンジン稼働中に点滅を始めた場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。

たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。



### 寒冷時のエンジンの始動

外気温が低いときは(0℃ / 32°F またはそれ以下)、エンジンを一度で始動させるのが難しくなります。

そのような時には：

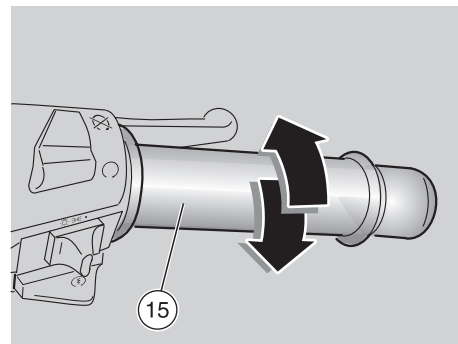
- ◆ スロットルグリップ(15)を少し回しながら、スターターボタン“Ⓢ”(14)を少なくとも 10 秒程度押し続けます。

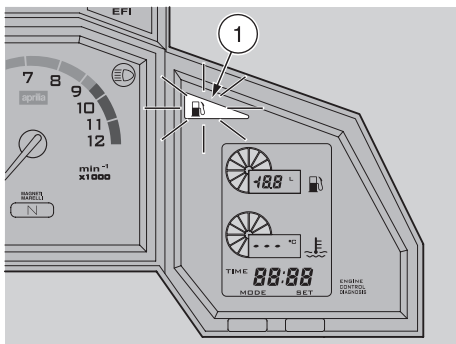
### エンジンが始動した場合。

- ◆ スターターボタン“Ⓢ”(14)およびスロットルグリップ(15)を離します。
- ◆ エンジンのアイドリングが不安定な時はスロットルグリップ(15)を数回小刻みに回してください。

### エンジンが始動しない場合。

数秒間待って、寒冷時のエンジンの始動の手順を再度行います。





## 発進と走行

### ▲ 危険

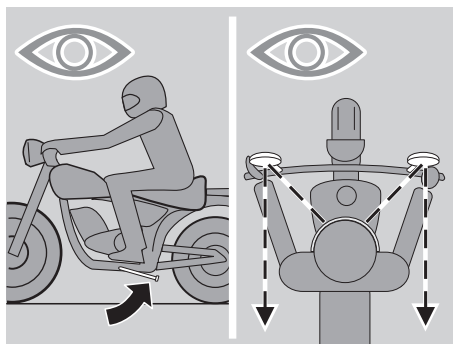
このモーターサイクルは多大な出力を持っていますので、運転に慣れるに従って徐々に出力を上げるようにし、常に慎重に運転してください。

スクリーンの内側（ハンドルとメーターパネルの間）には何も置かないください。ハンドルの回転やメーターパネルの視界を妨げないためです。

**重要：**発進の前に“安全運転のために”の章をよく読んでください。5 頁（安全運転のために）参照。

### ▲ 注意

走行中に、メーターパネル上に燃料リザーブライトが点灯すると、まだ 4.5±1 リットルの燃料が残っていることを示します (1)。なるべく早く、燃料の補充を行ってください。28 頁（燃料）参照。



### ▲ 危険

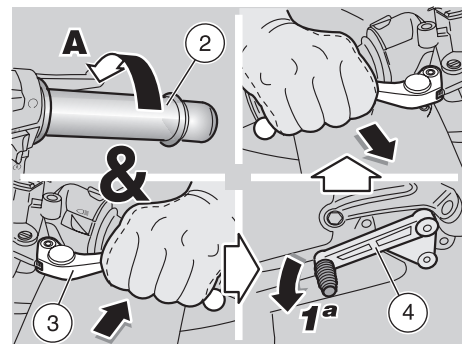
パッセンジャーがいない場合は、パッセンジャー用フットレストが閉じていることを確認してください。また運転中は常に両手でハンドルをしっかり握り、両足はフットレストに乗せておいてください。

決して変則的な姿勢で運転しないでください。

### ▲ 危険

パッセンジャーが乗る場合には、運転中にライダーのハンドル操作を妨げないように注意を促してください。

発進の前に、スタンドが完全に通常の位置に戻っているか確認して下さい。



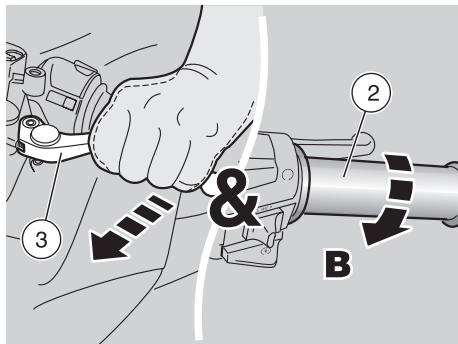
## 発進の方法：

- ◆ エンジンを始動します。48 頁（エンジンの始動）参照。
- ◆ バックミラーの向きを正しく調整します。86 頁（バックミラー）参照。

### ▲ 注意

停止した状態でバックミラーの使用法に慣れてください。ミラーの表面は凸面になっているため、対象物までの距離が実際よりも遠く見えます。“広角視界”のこのミラーで、後方から来る車両との距離を正確に判断するには経験が必要です。

- ◆ スロットルグリップ(2)を戻し(Aの方向)、エンジンをアイドルにした状態で、クラッチレバー(3)を一杯に引きクラッチを切ります。
- ◆ シフトペダル(4)を踏み込んでギアを1速に入れます。
- ◆ (エンジン始動の際に) かけておいたブレーキを離します。



### ▲ 危険

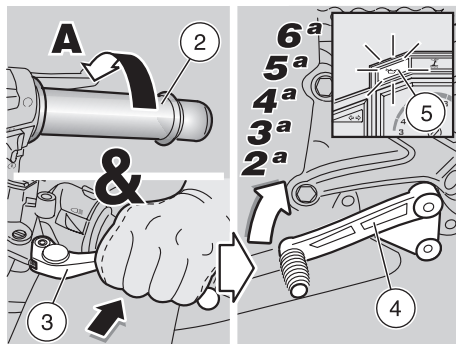
発進の際、クラッチレバーを急に離すとエンジンや車体の振動を起こす原因になります。

クラッチレバーを離す時は、スロットルグリップを急激に回したり、回し過ぎないようにしてください。(クラッチレバーをゆっくり離れた場合は)クラッチが“滑る”現象を起こしたり、(クラッチレバーを急に離した場合は)前輪が浮き上がったりする原因になります。

- ◆ クラッチレバー (3) をゆっくり離しながらスロットルグリップ (2) を徐々に回します (B の方向)。

モーターサイクルが発進を始めます。

- ◆ 最初の数キロは低速で走行しエンジンを温めるようにしてください。



### ▲ 注意

エンジン回転数を推奨値以上に上げないでください。54 頁 (慣らし運転) 参照。

- ◆ スロットルグリップ (2) を徐々に回して (B の方向) 加速します。ただしエンジン回転数を推奨値以上に上げないでください。54 頁 (慣らし運転) 参照。


2 速へのギアチェンジ：

### ▲ 注意

ギアチェンジは速やかに行なってください。低すぎる回転数で走行しないでください。

- ◆ スロットルグリップ (2) を戻し (A の方向)、クラッチレバー (3) を引いてからシフトペダル (4) をつま先でかき上げ、クラッチレバー (3) を戻してから加速します。
- ◆ 前記 2 項目の操作を繰り返すことでギアのシフトアップができます。

### ▲ 注意

エンジン稼働中にエンジンオイル警告灯“” (5) が点灯するような場合は、エンジンオイルが不足していることを示しています。

この場合は直ちにエンジンを停止し、**aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

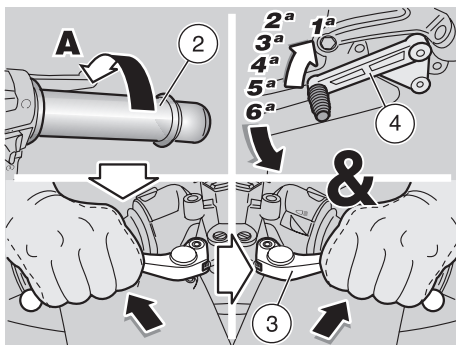
ギアの“シフトダウン”は以下のような場合に必要です：

- ◆ 下り坂の走行やブレーキをかける際に、エンジンブレーキを併用することで制動効果をより高めたい時。
- ◆ 上り坂の走行で、現在のギアポジションが走行速度に適切でなく (ギアポジションに対して走行速度が低すぎる)、エンジン回転数が落ち始めた時。

### ▲ 注意

シフトダウンは一段ずつ行なってください。一度に 2 段以上シフトダウンすると、エンジンが許容回転数“レッドゾーン”を超えてしまう危険があります。


“シフトダウン”の前およびシフトダウン中は、スロットルグリップを戻し速度を落としてください。エンジンが許容回転数“レッドゾーン”を超えてしまう危険があります。



“シフトダウン”は次の手順で行ないます：

- ◆ スロットルグリップ(2)を戻します(Aの方向)。
- ◆ 必要な場合は、ゆっくりと両輪のブレーキをかけて速度を落とします。
- ◆ クラッチレバー(3)を引いてクラッチを切り、シフトペダル(4)を踏み下げてギアをシフトダウンします。
- ◆ ブレーキをかけていた場合は、ブレーキを解除します。
- ◆ クラッチレバーを戻してからゆっくりと加速します。

### ▲ 注意

デジタルディスプレイ右側に126～135℃(259～275°F)の範囲の温度が表示され、スケール表示の最後の2セグメントが点滅する場合は、直ちに停車し、約2分間エンジンをアイドルにして冷却液を冷却系統にまんべんなく循環させます。その後エンジンキルスイッチを“”側に押し、

冷却液の量を点検してください。38頁(冷却液)参照。

冷却液の点検後もメーターパネルの状態が変化しない場合には、エンジンを始動せず、**aprilia** 正規ディーラーにご連絡ください。

自動診断インジケーター“EFI”が始動時に点滅する場合、またはエンジン稼働中に点滅を始めた場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。

たいていの場合エンジンは動作し続けませんが性能は制限されます。直ちに **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

クラッチの過熱を防ぐため、エンジン稼働中に車体停止のままギアを挿入しクラッチレバーを稼働させることは、できるだけ避けて下さい。

### ▲ 危険

スロットルグリップを続けて何度も開閉させることは避けてください。車体のコントロールを失う危険があります。ブレーキ操作の際は、先ずスロットルを閉じ、安定した均一な制動力を得るよう両輪のブレーキを適切に操作してください。

フロントまたはリアどちらか一方のブレーキしか使用しない場合には、制動力がかなり弱くなり、また車輪がロックしてスリップする危険があります。

上り坂で停止する際は、スロットルを完全に閉じ、両輪のブレーキを使用して車体を保持してください。

ブレーキを使用せずに、車体が後退しないようにエンジンをふかし続けると、クラッチが過熱し損傷を受けます。

カーブに入る前には充分に減速し、ハンドルを切っている間は一定の速度を保つか、逆に少し加速してください。限界までブレーキをかけることは避けてください。スリップする危険が高くなります。

下り坂でブレーキを連続的に使うとブレーキパッドが過熱し、制動力が弱まります。下り坂では必ずエンジンブレーキを活用し、フロントおよびリアブレーキは断続的に併用してください。

下り坂をエンジンを停めて走行することは絶対にやめてください。

視界の悪い状態で走行する際は、たとえ昼間でもヘッドライトを点灯してモーターサイクルが見えやすいようにしてください。濡れた路面や滑りやすい条件ではゆっくりと走行し、スリップや転倒の原因となる急ハンドル、急ブレーキを避けてください。

## ▲ 危険

路上の障害物や路面状態の変化には最大限の注意を払ってください。

荒れた路面、鉄道のレール、マンホールの蓋、路上の塗装表示、工事現場の鉄板などは雨に濡れるとスリップしやすく危険です。このような場所では急なハンドル操作をせず、また車体をなるべく傾けずに走行してください。

車線変更や方向転換の際には早めにウインカーライトで意志表示をし、急なハンドル操作や危険な運転を避けてください。車線変更、方向転換した後は直ちにウインカーライトを消灯してください。

他の車両を追い越したり、また、追い越されたりする間は、最大限の注意を払ってください。

雨天走行時は大型車両からの水煙で見通しが悪くなります。また圧力差による横風で車体のコントロールを失う危険がありますので充分注意してください。

## 慣らし運転

エンジンの慣らし運転は、エンジンを長持ちさせ、正しい性能を引き出すためにとても重要です。

できればカーブや起伏の多い道を選んで走行するとエンジン、サスペンション、ブレーキなどがより効果的に慣らし運転されます。

慣らし運転中はさまざまな速度で走行するようにしてください。このことにより、エンジンの各パーツへ“負荷”を与えたり、逆に“無負荷”にして冷ましたりします。ただし、エンジンへ負荷を与えることは重要ですが、限度を超えないよう注意してください。

**重要：**1500 km (937 mi) の慣らし運転を終えないとエンジンの最高性能を引き出すことはできません。

以下の注意事項を守ってください：

- ◆ エンジンが低速回転中に、急激にスロットルを開けたり全開にしたりしないでください。慣らし運転期間、慣らし運転終了後ともこの注意を守ってください。
- ◆ 最初の 100 km (62 mi) まではブレーキ操作は慎重に行ない、急ブレーキや長いブレーキ操作は避けてください。ブレーキディスクとパッドを正しく馴染ませるために重要です。
- ◆ 最初の 1000 km (625 mi) までは決して 6000 回転/分 (rpm) を超えないようにしてください。

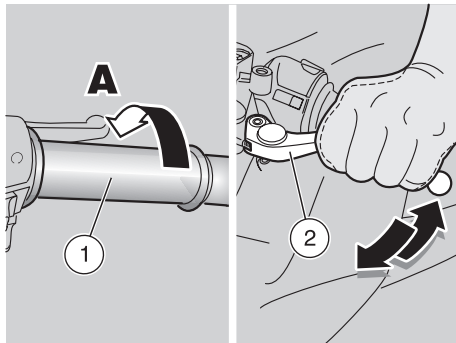
## ▲ 危険

ライダー自身を含む人身事故や車両の損傷を防ぐため、積算走行距離が 1000 km (625 mi) に達したら **aprilia** 正規ディーラーにて定期点検を行なってください。60 頁（定期点検整備表）の“慣らし運転後”の項参照。

- ◆ 走行距離が 1000 km (625 mi) ~ 1500 km (937 mi) の間は、各パーツを馴染ませるためそれまでよりももう少しラフに乗り回し、速度を変化させたり、無理のない範囲でスロットル開度を大きくしたりなどして、高い回転域を徐々に使うようにします。ただし、この期間は最高回転数が 7500 回転/分 (rpm) を超えないようにしてください（下表参照）。
- ◆ 走行距離が 1500 km (937 mi) を超えると、エンジンの最高性能を引き出せませんが、その際でも許容回転数 (10500 回転/分 (rpm)) を超えないように注意してください。

慣らし運転期間中の エンジン許容回転数	
積算走行距離 km (mi)	回転/分 (rpm)
0 ~ 1000 (0 ~ 625)	6000
1000 ~ 1500 (625 ~ 937)	7500
1500 (937) 以降	10500





## 停止

### ▲ 危険

急ブレーキ、急停止、限界までのブレーキなどはできるだけ避けてください。

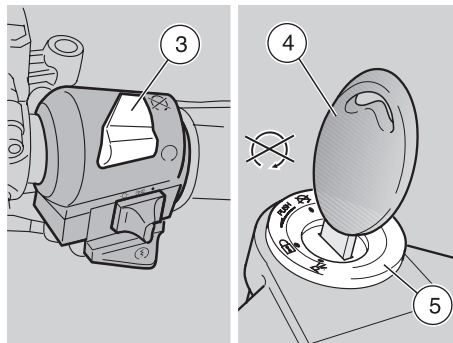
- ◆ 速度を落とすには、スロットルグリップ (1) を戻し (A の方向)、両輪のブレーキを徐々にかけ、同時にギアを“シフトダウン”します。51 頁 (発進と走行) 参照。

速度が落ちてきたらモーターサイクルを完全に停止させる前に：

- ◆ エンストを防止するためクラッチレバー (2) を引きます。

モーターサイクルが停止したら：

- ◆ シフトペダルをニュートラルにします (グリーンインジケーター “N” 点灯)。
- ◆ クラッチレバー (2) を離します。
- ◆ 一時停止中は、フロントまたはリア、少なくとも一方のブレーキをかけておきます。



## パーキング

駐車場所の選択は大変重要です。交通標識を遵守し下記の注意事項をお守りください。

### ▲ 危険

転倒を防ぐため、堅く水平な場所に駐車してください。車体を壁などに立てかけたり、地面に寝かせて置いたりしないでください。

車体、特に熱くなっている部分が周囲の人々や子供にとって危険にならないよう注意してください。エンジンがかかった状態や、イグニッションスイッチにキーを挿し込んだ状態で放置しないでください。

たとえ止まっても冷却ファンには近づかないでください。急に回り始めて衣服の端や髪の毛などを巻き込む危険があります。

### ▲ 危険



転倒や車体の傾きすぎは燃料流出の原因となります。

内燃機関用の燃料は大変引火しやすく、時には爆発することもあります。

### ▲ 注意

サイドスタンドにはご自分の体重やパッセンジャーの体重をかけないようにしてください。

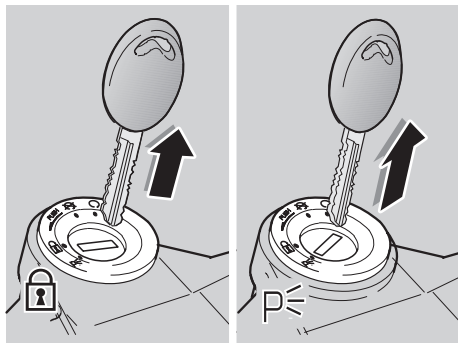
パーキング方法：

- ◆ 駐車場所を選びます。
- ◆ モーターサイクルを停止させます。55 頁 (停止) 参照。
- ◆ エンジンキルスイッチ (3) を “” 側に押しします。
- ◆ キー (4) を回してイグニッションスイッチ (5) を “” の位置に回します。

### ▲ 危険

車両への乗り降りの際の手順を必ずお守りください。44 頁 (車両への乗り降り) 参照。

- ◆ 手順に従って、(パッセンジャーがいる場合は) パッセンジャーを先に降りさせてから、ライダーが降ります。
- ◆ ステアリングロックをかけます。25 頁 (ステアリングロック) 参照。キーを抜き取ります。

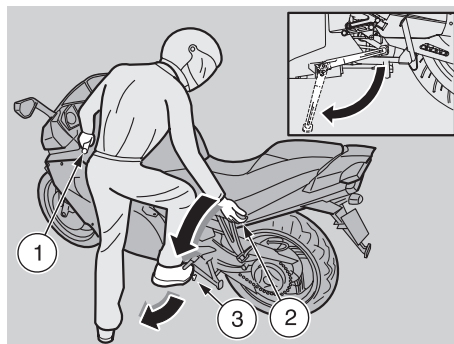


### ▲ 危険

車体が安定しているか確認してください。

この車両はフロントパーキングライトおよびリアパーキングライトを装備しています。駐車場や照明のある場所に駐車することが本来望ましいのですが、暗い場所やむなく駐車する場合にも、車両を目立たせるためにパーキングライトが役立ちます。

パーキングライトの点灯手順については、25頁(パーキングライト)を参照してください。



### スタンドの立て方

#### サイドスタンド

運転姿勢からサイドスタンドを使って車体を立てる手順については、44頁(車両への乗り降り)を参照してください。

何らかの操作(たとえば車両の移動)のためにスタンドを格納する必要があった場合は、次の手順で再びスタンドを立ててください：

### ▲ 危険

障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

- ◆ 駐車する場所を選びます。55頁(パーキング)参照。
- ◆ 左側ハンドルグリップ(1)と手すり(2)を握ります。

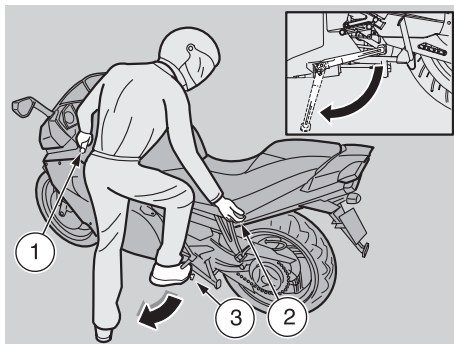


- ◆ 右足でサイドスタンド(3)を完全に開くまで踏み下げます。
- ◆ サイドスタンドが地面に着くまで車体を傾けます。
- ◆ ハンドルを左側いっぱいに切っておきます。

### ▲ 危険

車体が安定しているか確認してください。





### センタースタンド

#### ▲ 危険

乗車したままセンタースタンドを立てようとしてはけません。

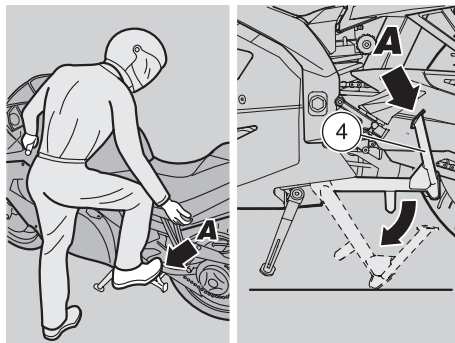
#### ▲ 危険

障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

- ◆ 駐車する場所を選びます。55 頁（パーキング）参照。
- ◆ 左側ハンドルグリップ(1)と手すり(2)を握ります。

#### ▲ 注意

サイドスタンドを開くのは、車体のバランスを失った場合にも転倒を防ぐことが目的です。

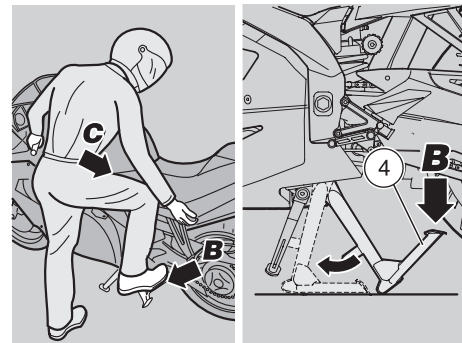


**重要：**サイドスタンドは地面に着けず、車体をまっすぐ起こして保持します。

- ◆ 右足でサイドスタンド(3)を完全に開くまで踏み下げます。
- ◆ センタースタンドのレバー(4)を踏み下げ(Aの位置)、スタンドを地面に着けます。

#### ▲ 注意

作業は慎重に行なってください。かなりの車体重量があるためセンタースタンドを立てるのは難しい作業かも知れません。スタンドを確実に立てた後に初めて、左側ハンドルグリップ(1)と手すり(2)を放すようにしてください。

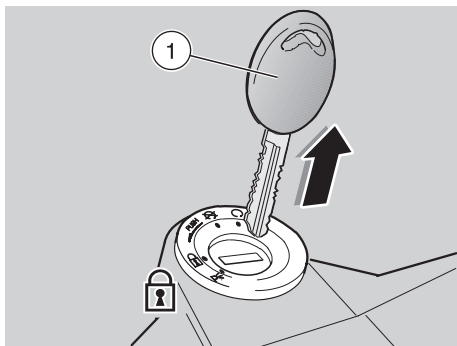


- ◆ センタースタンドのレバー(4)(Bの位置)に体重をかけながら、車体後部(Cの位置)へ向かって体の重心を移動します。

#### ▲ 危険

車体が安定しているか確認してください。

- ◆ サイドスタンドを格納します。



### 盗難防止のために

イグニッションスイッチにキーを挿し込んだままにしないでください。また常にステアリングロックをかけてください。

ガレージや監視人のいる確かな場所を選んで駐車してください。

なるべく何らかの盗難防止器具を使用してください。

関係書類に手落ちがないか、また税金は納入済みか確認してください。



下の欄に必要な事項を記入しておく、盗難車が発見された場合の所有者確認に役立ちます。

姓： .....

名： .....

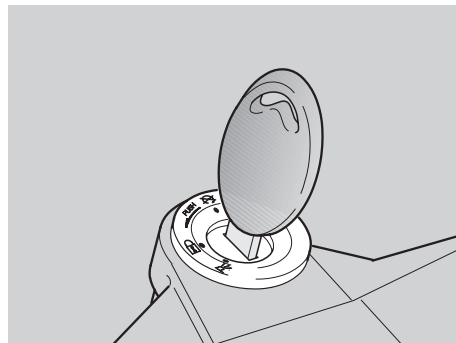
住所： .....

.....

電話番号： .....

**重要：**このマニュアルに記入された事項で盗難車が確認されるケースがよくあります。

## メンテナンス



2 頁(安全に関するお知らせ)、(インフォメーション)、(警告 - 注意 - 一般的注意事項)をよく読んでください。

### ▲ 危険

火災の危険があります。

電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

点検整備を始める前には必ずエンジンを止め、キーをイグニッションスイッチから抜いて、エンジンと排気系統が完全に冷えるのを待ちます。できれば作業用スタンドなどを用い車体を持ち上げ、堅く水平な床面に置きます。

## ⚠ 危険

作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。

火傷の危険がありますので、熱くなっているエンジンや排気系統に触れないよう充分注意してください。

車両のいかなるメカ部品やパーツも口にくわえないでください。部品には食べてよいものはないばかりか、健康を害するものや有毒なものもあります。

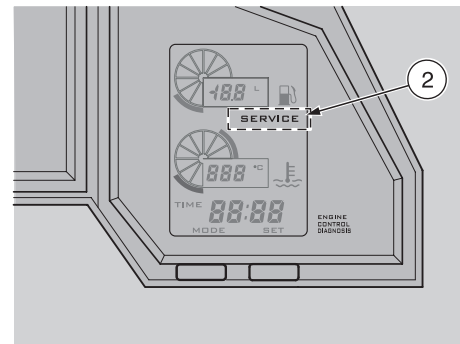
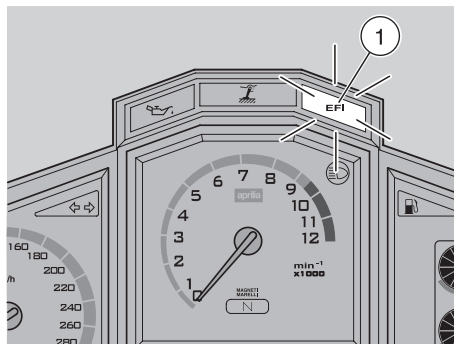
## ⚠ 注意

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外しの逆の手順で行なってください。

メンテナンス作業の際はゴム手袋の着用をお勧めします。

通常のメンテナンスはユーザーでも行なえますが、中には特殊工具や技術的知識を必要とするものもあります。そういった際や、定期点検、アシスタンスサービス、技術的アドバイスなどが必要な場合は、お気軽に **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

修理や定期点検整備の後には路上での走行テストを **aprilia** 正規ディーラーに依頼されるようお勧めします。



ただし、メンテナンス作業の後にはご自分でも必ず予備点検を行なってください。47頁（走行前の点検）参照。

**重要：**このモーターサイクルにはコンピューターボックスが装備されており、異常動作などをリアルタイムに発見しメモリーします。

イグニッションスイッチを“○”の位置に回したとき、約3秒間メーターパネルに自動診断インジケーター“EFI”(1)が点灯します。

## ⚠ 注意

自動診断インジケーター“EFI”(1)が始動時に点滅する場合、またはエンジン稼働中に点滅を始めた場合は、コンピューターボックスが何らかの異常を発見したことを示しています。

たいていの場合エンジンは動作し続けますが性能は制限されます。直ちに **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

## ⚠ 注意

最初は 1000 km (625 mi)、その後は 7500 km (4687 mi) ごとに、右側ディスプレイに“SERVICE”(2)と表示されます。その際は定められた定期点検を **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。60 頁（定期点検整備表）参照。

## 定期点検整備表

aprilia 正規ディーラーにて行なう作業（ユーザーでも実施可能なもの）

### 各部名称

① = 点検。必要な場合は清掃、調整、潤滑、交換など。

② = 清掃。

③ = 交換。

④ = 調整。

**重要：**メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

(\*) = 競技的な走行をすることが多い場合は 3750 km (2343 mi) ごとに交換してください。

(\*\*) = 15 日ごとまたは指定期間ごとに点検してください。

点検箇所	慣らし運転後 [1000 km (625 mi)]	7500 km (4687 mi) または 12ヶ月ごと	15000 km (9375 mi) または 24ヶ月ごと
スパークプラグ (*)	-	①	③
バッテリー - 電極の締め付け	①	-	-
エアクリナー	-	①	③
エンジンオイルフィルター (*)	③	③	-
エンジンオイルフィルター (タンク上)	②	-	②
フロントフォーク	①	-	①
ライト類の動作/向き	-	①	-
ライト系統	①	①	-
マイクロスイッチ類			
クラッチオイル	-	①	-
ブレーキオイル	-	①	-
冷却液	-	-	①
エンジンオイル	③	③ (*)	-
タイヤ	①	1000 km (625 mi) 走行ごと：①	
タイヤ空気圧 (**)	④	1000 km (625 mi) 走行ごと：④	
エンジンオイル警告灯	エンジン始動のつど：①		
ドライブチェーンのテンション、潤滑	1000 km (625 mi) 走行ごと：①		
ブレーキパッド摩耗度	①	走行前に毎回、および 2000 km (1250 mi) 走行ごと：①	

必ず **aprilia** 正規ディーラーにて行なう作業

各部名称

① = 点検。必要な場合は清掃、調整、潤滑、交換など。

② = 清掃。

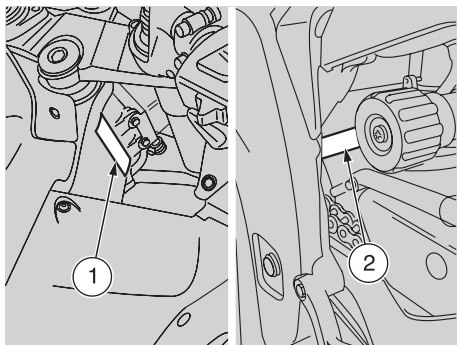
③ = 交換。

④ = 調整。

**重要：**メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

(\*) = 競技的な走行をすることが多い場合は 3750 km (2343 mi) ごとに点検してください。

点検箇所	慣らし運転後 [1000 km (625 mi)]	7500 km (4687 mi) または 12ヶ月 ごと	15000 km (9375 mi) または 24ヶ月 ごと
リアショックアブソーバー	-	-	①
バッテリー - 電極の締め付け	①	-	-
トランスミッションおよび制御系統のケーブル	①	①	-
リアサスペンション接続部ベアリング	-	-	①
ステアリング、ステアリングベアリング	①	①	-
ホイールベアリング	-	①	-
ブレーキディスク	①	①	-
車両の動作具合一般			
バルブの遊びの調整	④	-	④
ブレーキ系統	①	①	-
冷却系統	-	①	-
クラッチオイル	2年ごと：③		
ブレーキオイル			
冷却液			
フォークオイル	初回は 7500 km (4687 mi) 走行後、その後は 22500 km (14000 mi) 走行ごと：③		
フォークオイルよけ	初回は 30000 km (18750 mi) 走行後、その後は 22500 km (14000 mi) 走行ごと：③		
ブレーキパッド	摩耗している場合：③		
ホイール / タイヤ	①	①	-
ナット、ボルト、ネジ類の締め付け			
各シリンダーの同期	①	①	
サスペンション、車体セッティング	①	-	①
最終トランスミッション(チェーン、リアおよびフロントスプロケット)	-	①	-
燃料パイプ	-	①	4年ごと：③
クラッチ摩耗度(*)	-	①	-



## 車体認識番号

フレームナンバーおよびエンジンナンバーをこのページに控えておくようお薦めします。

フレームナンバーはスペアパーツをオーダーする際に必要な場合があります。

**重要：**これらの認識番号を改ざんすることは重い刑事処罰および行政処罰の対象になります。特にフレームナンバーを改ざんした場合は正規保証外の扱いになります。

### フレームナンバー

フレームナンバー(1)はステアリングカラー右側に刻印されています。

フレームナンバー \_\_\_\_\_

### エンジンナンバー

エンジンナンバー(2)はクランクケース後方、フロントスプロケットの近くに刻印されています。

エンジンナンバー \_\_\_\_\_

## クリック固定輪と管締め用ネジによるジョイント

### ▲ 注意

メンテナンスの一環としてのみ、指定の固定輪を外すことができます。以下の説明は車体に装備されている固定輪を任意に取り外すことを許可するものではありません。

### ▲ 危険

固定輪を取り外す前に、取り外しにより液漏れの恐れがないことを確認してください。必要であれば漏れを防ぐ処置を行い、特にジョイント部を保護してください。

### クリック固定輪

取り外しの際は通常のペンチを使用できますが、取り付けの際は特別の装具が必要となります(下記参照)。

取り外す前に、再度正しく取り付けるために必要な用具を備えてください。

**重要：**指定の特別装具 **OPT** を準備します：

- 固定輪取り付け用ペンチ、27 頁(特殊工具 **OPT**) 参照。

### ▲ 注意

再度取り付けの際、取り外したクリック固定輪を必ず同サイズの新品と交換してください。新品は **aprilia** 正規ディーラーまでお問い合わせ下さい。

取り外したクリック固定輪を再度取り付けようとししないでください。取り外したクリック固定輪の再使用はできません。

取り外したクリック固定輪を管締め用ネジまたは他の固定輪で代用しないでください。

### ▲ 注意

操作は慎重に行い、ジョイント部の部品を破損しないように注意してください。

- ◆ ペンチでクリック固定輪の頭部を外れるまで動かしてください。

### 管締め用ネジ

取り外しおよび取り付けは通常のドライバーで行います。

### ▲ 注意

ネジの状態を確認し、必要ならば同種・同サイズのネジと交換してください。部品は **aprilia** 正規ディーラーまでお問い合わせ下さい。

ネジ締め付けの際は、ジョイント部の固定具合を確認してください。

## エンジンオイル量の点検と補充

41 頁(エンジンオイル)、58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。


定期的にエンジンオイル量を点検してください。また初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 7500 km (4687 mi) 走行または 12ヶ月ごとにエンジンオイルを交換してください。64 頁(エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターの交換)参照。

競技的な走行をすることが多い場合は 3750 km (2343 mi) ごとにエンジンオイルを交換してください。

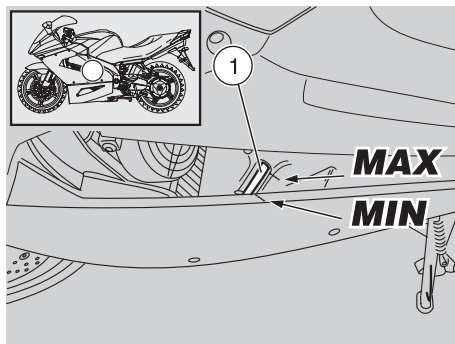
エンジンオイルの点検は次の手順で行なってください：

### ▲ 注意

エンジンオイル量の点検はエンジンが温まった状態で行なう必要があります。エンジンが冷えている状態でエンジンオイル量を点検すると、一時的にオイルの液面が“MIN”レベルよりも下がる場合があります。

この場合でもエンジンオイル警告灯“”が点灯しなければ問題ありません。16 頁(メーターおよびインジケーター一覽)参照。

**重要：**エンジンの暖機を行ないエンジンオイルを動作温度まで温めるには、停止した状態でアイドリングを行なうのではなく、郊外の道路を約 15 km (10 mi) 走行するのが正しい方法です(エンジンオイルが動作温度になるまで)。



- ◆ エンジンを停止します。55 頁(停止)参照。
- ◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。
- ◆ 左側サイドフェアリングの確認窓から、透明チューブ(1)内のエンジンオイルの液面を確認します。

**MAX** = 最大レベル。

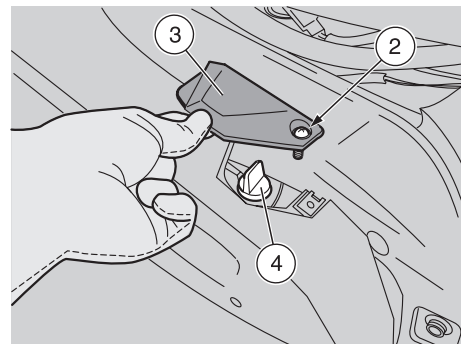
**MIN** = 最低レベル。

“MAX”と“MIN”の液量差は約 500 cmC です。

- ◆ 液面が“MAX”マーク近くまで達していれば適量です。

### ▲ 注意

液面が“MAX”マークを超えないようにしてください。また決して“MIN”マーク以下にならないよう注意してください。エンジンに重大な損傷を与える危険があります。



必要な場合は次の手順でエンジンオイルを補充してください：

- ◆ ネジ(2)を回して取り外します。
- ◆ カバー(3)を取り外します。
- ◆ 注入口のキャップ(4)を回して取り外します。

### ▲ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

**重要：**粘度 15W-50 の高品質のオイルのみ使用してください。109 頁(指定油脂類表)参照。

- ◆ 適量になるまでタンクにエンジンオイルを補充します。109 頁(指定油脂類表)参照。

## エンジンオイルおよびエンジンオイル フィルターの交換

### ▲ 注意

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターの交換は、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。

必要な場合は **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

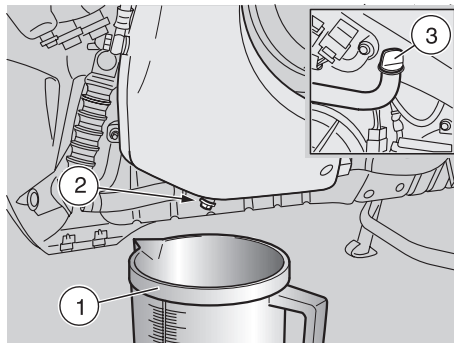
41 頁(エンジンオイル)、58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

**重要**：メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

エンジンオイルのレベルを定期的に確認してください。63 頁(エンジンオイル量の点検と補充)参照。オイルは初行 1000 km(625 mi)走行後、その後は 7500 km(4687 mi)毎または 12ヶ月毎に交換してください。

### ▲ 注意

競技的な走行をすることが多い場合は 3750 km (2343 mi) ごとにエンジンオイルを交換してください。



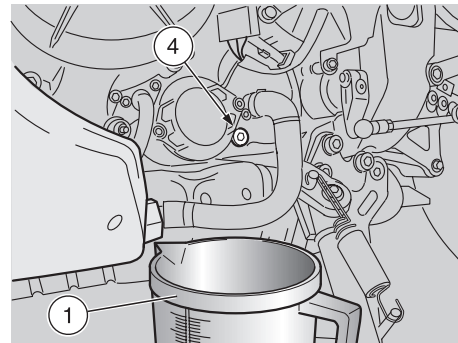
埃の多い場所を走行した場合は、より頻繁にエンジンオイルを交換してください。

### ▲ 危険

火傷の危険がありますので、以下の作業はエンジンおよびマフラーが常温に戻ってから行なってください。

交換の手順：

- ◆ 左側サイドフェアリングを取り外します。77 頁(左側サイドフェアリングの取り外し)参照。
- ◆ 左側アンダーフェアリングを取り外します。77 頁(左側アンダーフェアリングの取り外し)参照。
- ◆ エンジンオイルタンクのドレンプラグ(2)の下に 4000 cm<sup>3</sup> 以上の容量の容器(1)を置きます。



- ◆ ドレンプラグ(2)を回して取り外します。
- ◆ 注入口のキャップ(3)を回して取り外します。
- ◆ 数分間そのままにし、容器(1)の中へエンジンオイルを完全に排出させます。
- ◆ ドレンプラグ(2)のパッキンの状態を点検し必要ならば交換します。
- ◆ ドレンプラグ(2)を元どおり締めます。

ドレンプラグ(2) 規定締め付けトルク：  
15 Nm (1.5 kgm)。

- ◆ 容器(1)をエンジンベースの下、エンジンのドレンプラグ(4)の下に移します。
- ◆ ドレンプラグ(4)を回して取り外します。
- ◆ 数分間そのままにし、容器(1)の中へエンジンオイルを完全に排出させます。



## ▲ 注意

環境保護のためエンジンオイルは適切に処理してください。使用済みのオイルは密閉容器に入れ、行きつけのガソリンスタンド、オイル処理施設等へ持参して処理を依頼してください。

- ◆ ドレンプラグ (4) のマグネットに付着した金属片を取り除きます。
- ◆ ドレンプラグ (4) を元どおり締めます。  
ドレンプラグ (4) 規定締め付けトルク：  
12 Nm (1.2 kgm)。
- ◆ オイルで汚れた部分を布で拭き取ります。

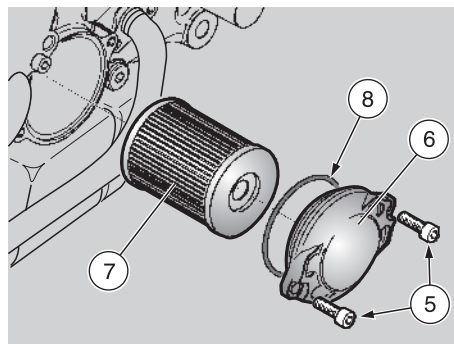
### エンジンオイルフィルターの交換

エンジンオイルフィルターの交換は、初行 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 7500 km (4687 mi) 毎または 12ヶ月毎に行ってください (エンジンオイル交換毎)。

- ◆ 2本のネジ (5) を回して取り外し、フィルターのカバー (6) を取り外します。
- ◆ エンジンオイルフィルター (7) を取り外します。

## ▲ 注意

既に使用済みのフィルターを、再使用することは避けて下さい。

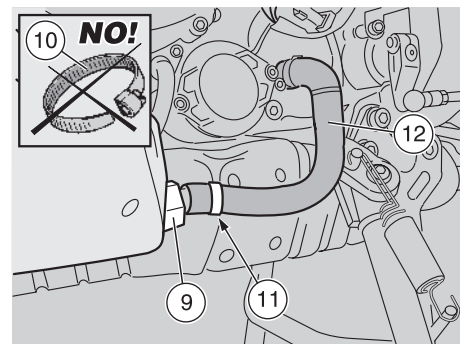


- ◆ 新しいエンジンオイルフィルターのパッキン (8) に薄くオイルを塗ります。
- ◆ 新しいエンジンオイルフィルターを取り付けます。
- ◆ カバー (6) を元どおり取り付け、2本のネジ (5) を締めます。

### タンクフィルターの清掃

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 15000 km (9375 mi) 走行ごとに (またはエンジンオイルの交換 2 回ごとに)、タンクフィルター (9) を清掃してください。

**重要：**指定の特別装具 **OPT** を準備します：  
- 固定輪取り付け用ペンチ、27 頁 (特殊工具 **OPT**) 参照。



## ▲ 注意

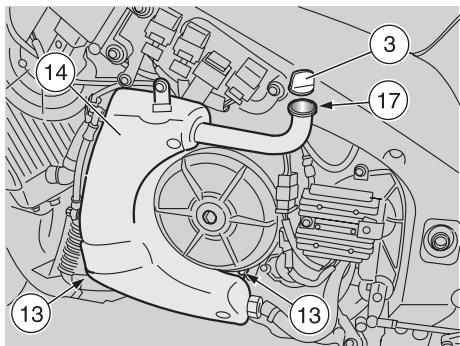
再度取り付けの際、取り外したクリック固定輪を必ず同サイズの新品と交換してください。新品は **aprilia** 正規ディーラーまでお問い合わせ下さい。

取り外したクリック固定輪を再度取り付けようとしないでください。取り外したクリック固定輪の再使用はできません。

取り外したクリック固定輪を管締め用ネジ (10) または他の固定輪で代用しないでください。

- ◆ クリック固定輪 (11) を外します。
- ◆ 管 (12) を外します。
- ◆ タンクフィルター (9) を取り外します。

**重要：**タンクフィルターを抜き取るにはエンジンオイルタンクをずらす必要があります。



- ◆ 2本のネジ(13)を回して取り外します。
- ◆ エンジンオイルタンク(14)を外側へ向かって途中までずらします。
- ◆ タンクフィルター(9)を抜き取り、圧縮空気を吹き付けて汚れを取り除きます。

### ▲ 注意

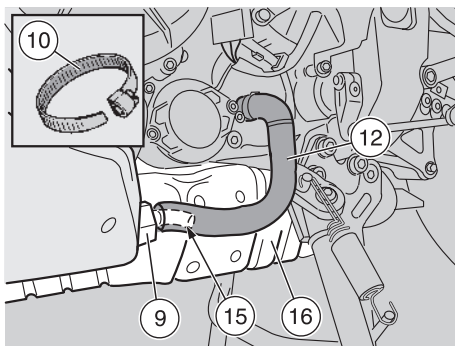
再取り付けの際は、タンクフィルター(9)の連結部(15)を必ず外側へ向けてください。

ホース(12)が排気補正器(16)に触れないようにしてください。

- ◆ タンクフィルター(9)のパッキンの状態を点検した後、フィルターを元どおりタンクに取り付けます。

**タンクフィルター(9)規定締め付けトルク:  
30 Nm (3.0 kgm)。**

- ◆ 2本のネジ(13)を元どおり締めます。
- ◆ 管(12)を接続し、新しいクリック固定輪を取り付けます。



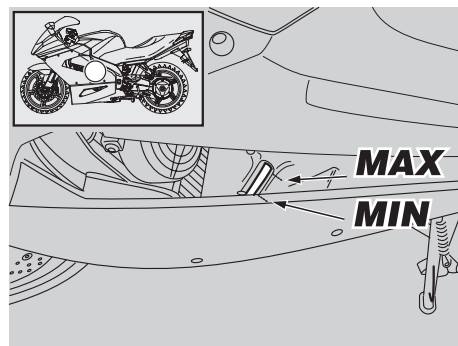
### ▲ 注意

オイルには、添加物やその他の物質を混ぜないで下さい。

じょうご等を使用する場合には、清潔なものであることを確かめてから使用して下さい。

**重要：**粘度 15W-50 の高品質のオイルのみ使用してください。109 頁(指定油脂類表)参照。

- ◆ 注入口(17)から約 3500 cm<sup>3</sup> のエンジンオイルを注ぎ入れます。109 頁(指定油脂類表)参照。
- ◆ 注入口のキャップ(3)を元どおり締めます。
- ◆ 左側アンダーフェアリングを元どおり取り付けます。77 頁(左側アンダーフェアリングの取り外し)参照。
- ◆ 左側サイドフェアリングを元どおり取り付けます。77 頁(左側サイドフェアリングの取り外し)参照。



- ◆ エンジンを始動します。48 頁(エンジンの始動)参照。そのまま約 1 分間アイドルリングさせ、エンジンオイル系統にオイルを行き渡らせます。

- ◆ エンジンオイル量を点検し、必要な場合は補充します。63 頁(エンジンオイル量の点検と補充)参照。

### エアクリナー

エアクリナーは 7500 km (4687 mi) 走行、または 12ヶ月ごとに点検してください。また、15000 km (9375 mi) 走行ごとに交換してください。埃の多い路面や濡れた路面を走行した場合にはさらに頻りにメンテナンスを行ってください。

そのような路面を走行した後は、エアクリナーを部分的に清掃するようお薦めします。

### ▲ 注意

ただし、エアクリナーを部分的に清掃し

た場合でも、規定の交換時期には必ず交換してください。

エアクリナーを取り外した状態では決してエンジンを始動しないでください。エアクリナーの洗浄にガソリンや可燃性溶剤を使わないでください。燃料供給系統に火災を起こす原因となり大変危険です。

環境保護のため汚染物質やパーツは適切に処理してください。

7500 km (4687 mi) 走行ごと：

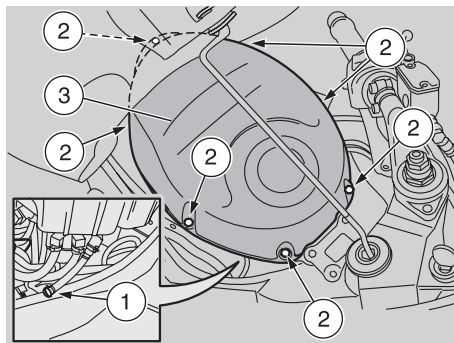
- ◆ 燃料タンクを起こします。76 頁（燃料タンクの起こし方）参照。
- ◆ キャップ(1)を取り外します。
- ◆ 中身を容器に移し、最寄りの収集所にて回収を依頼して下さい。

エアクリナーの取り外し

- ◆ 燃料タンクを起こします。76 頁（燃料タンクの起こし方）参照。
- ◆ エアクリナーケースのカバー(3)を固定している7本のネジ(2)を回して取り外します。
- ◆ エアクリナーケースのカバー(3)を取り外します。
- ◆ エアクリナー(4)を取り出します。
- ◆ パッキン(5)の状態を点検し、損傷している場合は交換します。

### ▲ 注意

開口部を清潔な布で覆って、異物が通風管に入らないようにして下さい。



エアクリナーケースのカバー(3)を取り付ける前に、エアクリナーケース(6)の内部に布やその他の物が残っていないか確認してください。

全ての空気が必ずエアクリナーを通して進むよう、エアクリナーを正しい位置に挿入してください。

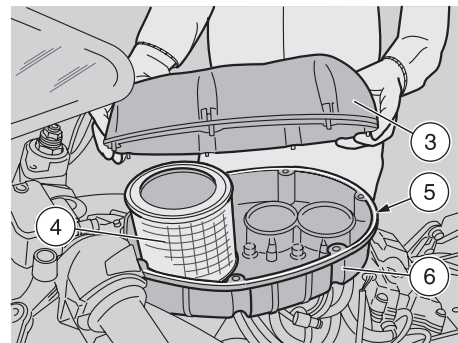
エアクリナーが損傷していたり、正しい位置に挿入されていない場合は、ピストンやシリンダーの各部品が早く摩耗する原因となりますので注意してください。

エアクリナーの部分的な清掃

### ▲ 注意

エアクリナー(4)の金網は押しつぶしたりぶついたりしないよう注意してください。エアクリナーを傷つけますので、ドライバーなどの器具は使用しないでください。

- ◆ エアクリナー(4)を垂直に持ち、きれいな台の上に数回叩きつけます。



- ◆ 必要な場合は、エアクリナー(4)に圧縮空気を（内側から外側へ向かって）吹き付けて汚れを取り除きます。

### ▲ 注意

エアクリナーの清掃の際、裂け目、損傷などがなければ確認し、必要な場合は交換してください。

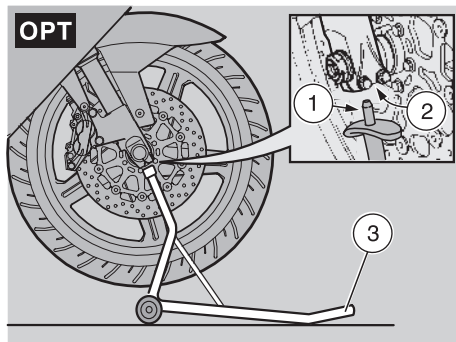
- ◆ エアクリナー(4)の外側をきれいな布で拭きます。

エアクリナーの交換

### ▲ 注意

既に使用済みのフィルターを、再使用することは避けて下さい。

- ◆ エアクリナー(4)を同じタイプの新品と交換します。



### 作業用フロントスタンド使用法 OPT

#### ▲ 危険

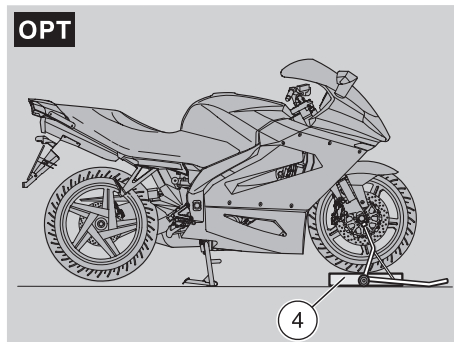
障害物のない堅く水平な場所に駐車してください。

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ 左右のフロントフォーク末端にあるホルダー穴(2)に、フロントスタンド(1)の左右のホルダー部先端を同時に挿入します。
- ◆ フロントスタンド(3)の前部端に片足を乗せます。
- ◆ 床面に着くまでフロントスタンド(3)を押し下げます。

#### ▲ 危険

車体が安定しているか確認してください。

燃料は子供の手の届かない場所に保管してください。



### フロントホイール

#### ▲ 注意

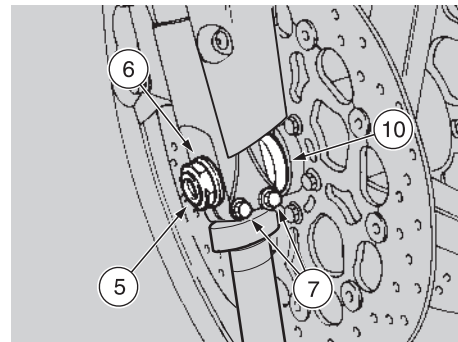
フロントホイールの取り外しや取り付けは、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。必要な場合は **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

フロントホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

#### ▲ 危険

ホイールが損傷した状態で走行すると、ライダー自身や他の人々、また車両の安全を損なうおそれがあります。



ホイールの状態を点検し、損傷している場合は交換を依頼してください。

#### 取り外し

- ◆ フロントブレーキキャリアを取り外します。71 頁(フロントブレーキキャリア)参照。
- ◆ フロントホイールを外した際にそのままの位置に保持するため、適当な保持台(4)をタイヤの下に置きます。

#### ▲ 注意

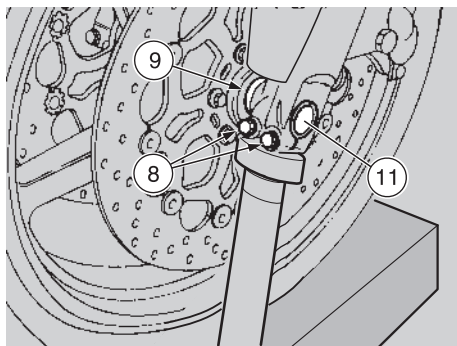
車体が安定していることを確認してください。

- ◆ ハンドルが動かないように走行時の位置に保持しておいてもらいます。

アクスルシャフトナット(5) 規定締め付けトルク：80 Nm (8 kgm)。

- ◆ アクスルシャフトナット(5)を緩めて取り外し、ワッシャー(6)も外します。

アクスルシャフト固定ネジの規定締め付けトルク：22 Nm (2.2 kgm)



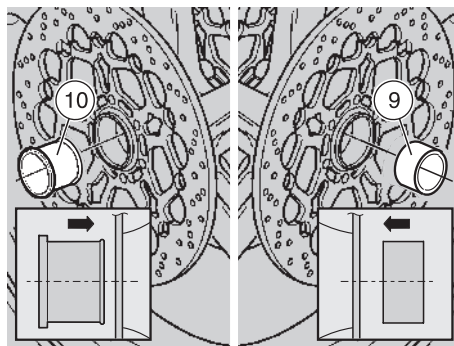
- ◆ 2本のアクスルシャフト固定ネジ(7)(右側)を途中まで緩めます。
- ◆ 2本のアクスルシャフト固定ネジ(8)(左側)を途中まで緩めます。

**重要：**左スペーサーリング(9)および右スペーサーリング(10)の取り付け位置を確認しておいてください。再取り付けの際に参考になります。

**重要：**アクスルシャフトナットを楽に抜き取るには、ホイールを軽く持ち上げるようにしてください。

- ◆ アクスルシャフト(11)を抜き取るため、まず末端の方から慎重に少しだけ押しします。必要な場合はゴムハンマーなどを使ってください。
- ◆ フロントホイールを支えながらアクスルシャフト(11)を手で抜き取ります。
- ◆ フロントホイールを前方へ引き抜きながら外します。

**重要：**左側スペーサーリング(9)および



右側スペーサーリング(10)はホイールに取り付いたままです。もしも外れてしまった場合は正しく取り付けなおしてください。(「フロントホイールの取り付け」を参照)。

#### フロントホイールの取り付け

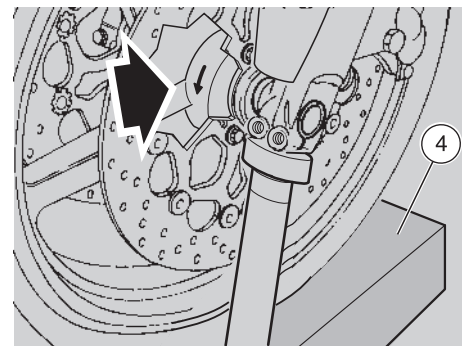
- ◆ アクスルシャフト(11)の全長にわたって、薄くグリースを塗布します。109頁(指定油脂類表)参照。

#### ▲ 注意

ホイール取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないよう注意してください。

**重要：**以下の作業はスペーサーリング(10)が外れてしまった場合にのみ行ないます。

- ◆ スペーサーリング(10)を直径の大きい側が車体の外側に向くように挿入してください。



#### ▲ 注意

ホイールハブには回転方向を示す矢印が付いています。

ホイール取り付けの際はこの表示が車体左側に来るように注意してください。

- ◆ 保持台(4)の上にホイールを乗せ、両側のフォークロッドの間に差し込みます。

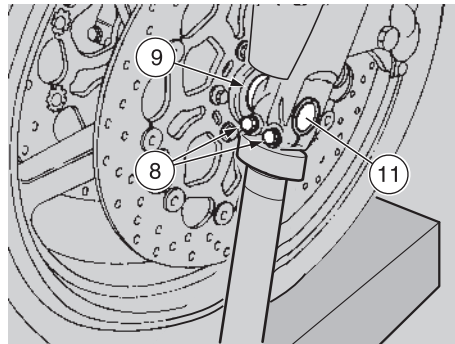
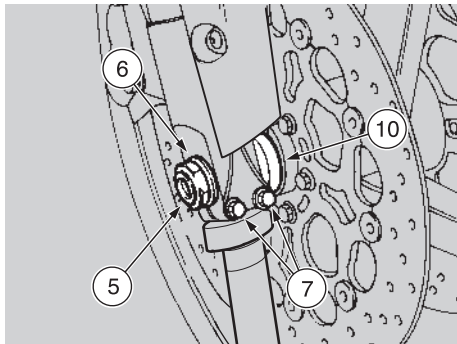
#### ▲ 危険

ケガをするおそれがありますので、指を使って穴の位置出しをすることは避けてください。

- ◆ フロントホイールの中心をフロントフォークの穴に一致させます。
- ◆ 左側からアクスルシャフト(11)を完全に挿入します。

**重要：**アクスルシャフト(11)が最後まで完全に挿入されているか確認してください。





- ◆ ワッシャー(6)を元どおりに取り付け、アクスルシャフトナット(5)を手で仮締めします。

**重要：**この仮締めの段階では、2本のアクスルシャフト固定ネジ(8)(左側)を規定の締め付けトルクまで締める必要はありません(いっぱいには締め付けてはいけません)。

- ◆ アクスルシャフト(11)が回らないよう、2本のアクスルシャフト固定ネジ(8)(左側)を必要なだけ締めます。
- ◆ アクスルシャフトナット(5)を最後まで締め付けます。

アクスルシャフトナット(5) 規定締め付けトルク：80 Nm (8 kgm)

- ◆ 2本のアクスルシャフト固定ネジ(7)(右側)を締め付けます。

アクスルシャフト固定ネジ規定締め付けトルク：22 Nm (2.2 kgm)

- ◆ 2本のアクスルシャフト固定ネジ(8)(左側)を緩めます。

- ◆ フロントブレーキキャリパーを再び取り付けます。71頁(フロントブレーキキャリパー)参照。

- ◆ フロントブレーキレバーを引いた状態で、繰り返しハンドルバーを押し下げてフロントフォークを押し込みます。こうすることでフォークロッドが正しくセットされます。

- ◆ スタンドを使って車体を立てます。56頁(スタンドの立て方)参照。

- ◆ ★ 2本のアクスルシャフト固定ネジ(8)を締め付けます(左側)。

アクスルシャフト固定ネジ(8) 規定締め付けトルク：22 Nm (2.2 kgm)。

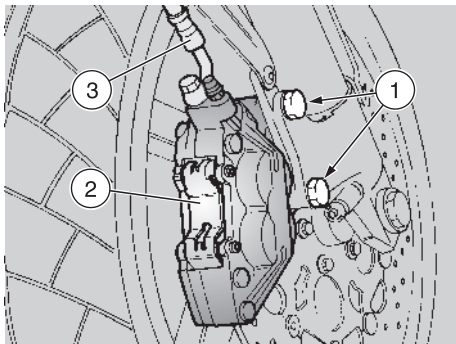
- ◆ 以下の部品に汚れがないことを確かめて下さい：

- タイヤ、
- ホイール、
- ブレーキディスク。

### ⚠ 危険

フロントホイールの取り付け後は、フロントブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。

各部の締め付けトルク、ホイールのセンターリング、ホイールバランスの点検は **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。これらの不具合はライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があります。



## フロントブレーキキャリパー

58 頁 (メンテナンス) をよく読んでください。

### ▲ 危険

ディスクが汚れているとブレーキパッドも汚れてしまい、結果として制動力の低下をまねきます。汚れたブレーキパッドは交換し、ディスクの汚れは高品質の油落としを使って拭き取ってください。

### ▲ 注意

フロントホイールの取り外しや再取り付けの際は、ブレーキパイプ、ディスク、パッド等に損傷を与えないように注意してください。

**重要：**フロントブレーキキャリパーを取り外すには、作業用フロントスタンド **OPT** が必要です。

## フロントホイールの取り外し

◆ 次に作業用フロントスタンドに前輪を乗せず。68 頁 (作業用フロントスタンド使用法 **OPT**) 参照。

### ▲ 注意

車体が安定していることを確認してください。

- ◆ タイヤを手で回して、ホイールの二つのやの間のスペースがブレーキキャリパーの位置にくるようにします。
- ◆ ハンドルが動かないように走行時の位置に保持しておいてもらいます。

ブレーキキャリパー固定ネジ (1) 規定締め付けトルク：50 Nm (5 kgm)。

- ◆ \* 2本のブレーキキャリパー固定ネジ (1) を回して取り外します。

### ▲ 注意

ブレーキキャリパーを取り外してから、ブレーキレバーを操作しないで下さい。キャリパーのピストンの位置がずれて、ブレーキオイルの漏れにつながります。そのような場合には **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。適切な整備を行います。

- ◆ \* ブレーキホース (3) はつけたまま、ブレーキキャリパー (2) をディスクから抜き取ります。

2 つ目のブレーキキャリパーについては：

- ◆ \* 印の作業を繰り返します。

## フロントホイールの取り付け

### ▲ 注意

ブレーキパッド等に損傷を与えないよう、次の作業は慎重に行なってください。

- ◆ \* ブレーキキャリパー (2) をディスクに組ませ、取り付け部の穴に一致するよう位置決めします。

### ▲ 危険

ブレーキキャリパーの再取り付けの際は、2本のブレーキキャリパー固定ネジ (1) を同じタイプの新品と交換してください。

- ◆ \* 2本のブレーキキャリパー固定ネジ (1) を締め付けます。

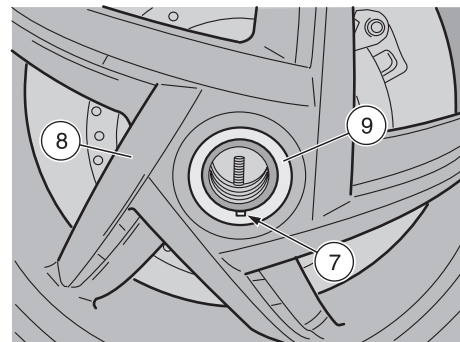
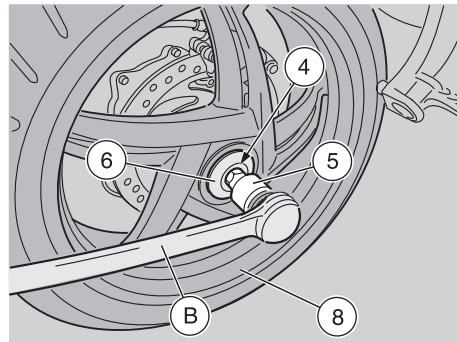
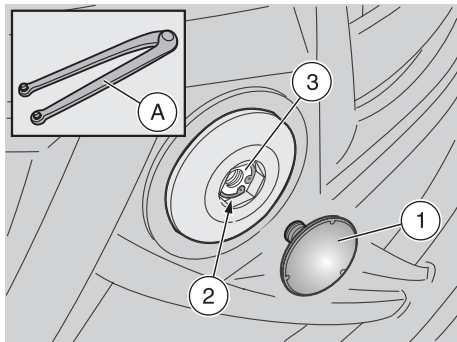
ブレーキキャリパー固定ネジ規定締め付けトルク：50 Nm (5 kgm)。

2 つ目のブレーキキャリパーについては：

- ◆ \* 印の作業を繰り返します。
- ◆ 作業用フロントスタンド **OPT** を取り外します。68 頁 (作業用フロントスタンド使用法 **OPT**) 参照。

### ▲ 危険

フロントホイールの取り付け後は、フロントブレーキレバーを繰り返し引いてみてブレーキ系統が正しく動作することを確認してください。



## リアホイール

### ▲ 注意

リアホイールの取り外しや取り付けは、経験のない人には複雑で難しい作業かも知れません。

必要な場合は **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

ご自分で行なう場合は以下の指示に従ってください。

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

### ▲ 注意

火傷の危険がありますので、以下の作業はエンジンおよびマフラーが常温に戻ってから行なってください。

### ▲ 危険

ホイールが損傷した状態で走行すると、ライダー自身や他の人々、また車両の安全を損なうおそれがあります。ホイールの状態を点検し、損傷している場合は交換を依頼してください。

**重要：**リアホイールを取り外すには、コンパスレンチ (A) とトルクレンチ (B) が必要です。

### リアホイールの取り外し

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ コンパスレンチを使ってキャップ (1) を回して取り外します。
- ◆ シーガー (2) を取り外します。
- ◆ 緩み防止用ナット (3) を抜き取ります。
- ◆ ホイールが回転しないよう、ギアを 1 速に入れます。

- ◆ 工具キットにあるソケット (5) をネジ穴 (4) に差し込みます。

- ◆ ソケット (5) の六角穴にトルクレンチを差し込みます。

ホイール固定ネジ規定締め付けトルク：  
170 Nm (17.0 kgm)

- ◆ ホイール固定ネジ (6) を回して取り外します。

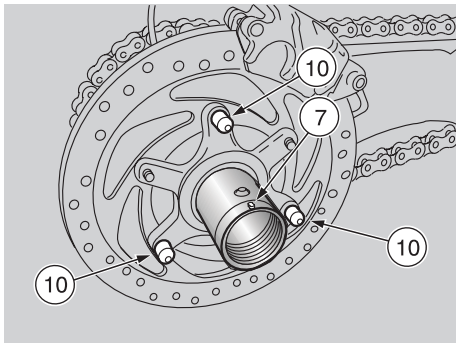
### ▲ 注意

トランスミッションシャフトには小さな嵌合キー (7) が取り付けられています。ホイール取り外しの際にこの嵌合キー (7) が抜けやすいように注意してください。

もしも抜けてしまった場合は：

- ◆ シフトペダルをニュートラルにします。
- ◆ 嵌合キー (7) が下に来るようにホイールを回します。
- ◆ リアホイール (8) を完全に取り外し、センターリングワッシャー (9) も取り外します。



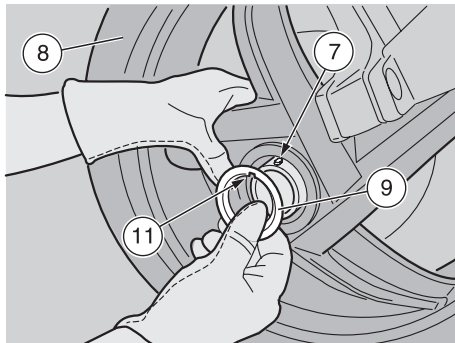


## リアホイールの取り付け

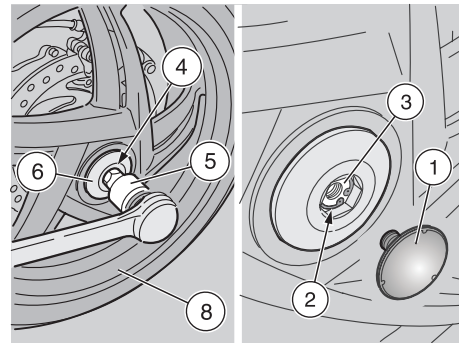
### ▲ 危険

リアホイールの取り付けを始める前に、嵌合キー(7)が正しい位置に取り付けられているか確認してください。もしも外れてしまった場合は必ず正しく取り付けなおしてください。

- ◆ トランスミッションシャフトを回し、嵌合キー(7)が上に来るようにします。
- ◆ リアホイール(9)をトランスミッションシャフトに取り付けます。この際、3本の駆動ピン(10)がホイールの所定の位置に正しく挿入されているか確認してください。
- ◆ ホイールが回転しないよう、ギアを1速に入れます。



- ◆ 嵌合キー(7)がトランスミッションシャフトに取り付けられているか確認します。
- ◆ 切り欠き部分(11)を嵌合キー(7)に合わせながらセンタリングワッシャー(8)を取り付けます。
- ◆ ホイール固定ネジ(6)のネジ山部分に薄くグリスを塗布します。
- ◆ ホイール固定ネジ(6)を手で仮締めします。
- ◆ ソケット(5)をネジ穴(4)に差し込みます。
- ◆ ソケット(5)の六角穴にトルクレンチを差し込みます。



### ▲ 危険

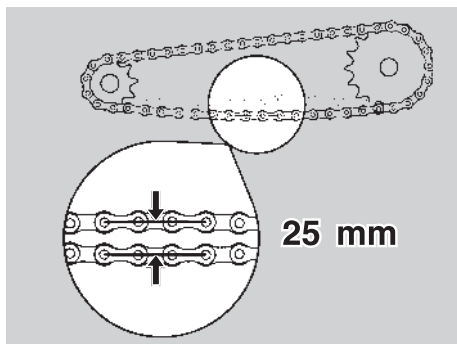
ホイール固定ネジ(6)は必ず規定どおりのトルクで締め付けてください。

ホイール固定ネジ規定締め付けトルク：  
170 Nm (17.0 kgm)

- ◆ ホイール固定ネジ(6)を締め付けます。
- ◆ ネジ穴(4)に緩み防止用ナット(3)を挿入します。この際、正しい向きを探して完全にはめ込んでください。
- ◆ シーガー(2)を正しく取り付けます。
- ◆ キャップ(1)を締めます。

### ▲ 注意

各部の締め付けトルク、ホイールのセンタリング、ホイールバランスの点検は **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。これらの不具合はライダー自身も含めた重大な人身事故につながる危険があります。



## ドライブチェーン

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

このモーターサイクルはジョイントリンクのない、エンドレスタイプのチェーンを装備しています。

## ▲ 注意

ドライブチェーンが弛み過ぎると、騒音を起こしたり、チェーンが振動衝突した結果チェーンテンショナーやチェーンガイドを摩耗させるおそれがあります。定期的にチェーンテンションを点検し、必要な場合は調整してください。74 頁(チェーンテンションの調整)参照。チェーンの交換は必ず **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。迅速で適確なサービスをお約束します。

整備が正しく行なわれていないと、チェーンの摩耗を早めるだけでなく、フロントスプロケットおよびリアスプロケットに損傷を与えます。

## ▲ 注意

メンテナンス作業を行う頻度は、車体を以下のような場所で使用される場合、2 倍に増加して下さい：雨の多い地域、埃っぽい場所、舗装されていない路上、またはスポーツ運転の実行時。

## チェーンテンションの点検

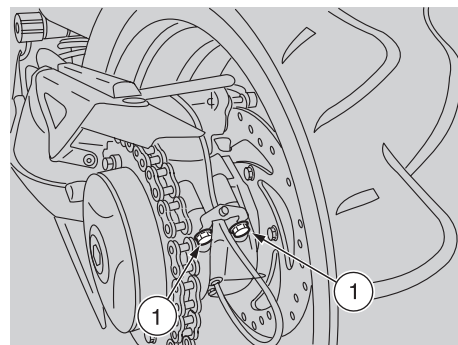
チェーンテンションの点検は以下の手順で行なってください：

- ◆ エンジンを停止します。55 頁(停止)参照。
- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ シフトペダルをニュートラルにします。
- ◆ フロントスプロケットとリアスプロケットの中間部で、下側のチェーンの振幅が約 **25 mm** であることを確認します。
- ◆ モーターサイクルを少しずつ前に進めながら、ホイールがどの位置に回転してもチェーンの振幅が常に一定であることを確認します。

## ▲ 注意

ホイールの回転位置によって大きな弛みが見られる場合は、リンクが潰れているか固着しています。この場合は **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。また、リンクの固着を防止するためにチェーンの潤滑を頻繁に行なってください。75 頁(チェーンの清掃と潤滑)参照。

チェーンの振幅が一定であっても **25 mm** から大きく外れている場合は、チェーンテンションの調整をしてください。74 頁(チェーンテンションの調整)参照。



## チェーンテンションの調整

チェーンテンションを点検した結果、必要な場合は調整してください。振幅を増すにはチェーンを弛め、振幅を小さくするにはチェーンを張ります。

この車両にはチェーンテンション調整用のアジャスターリングがあります。

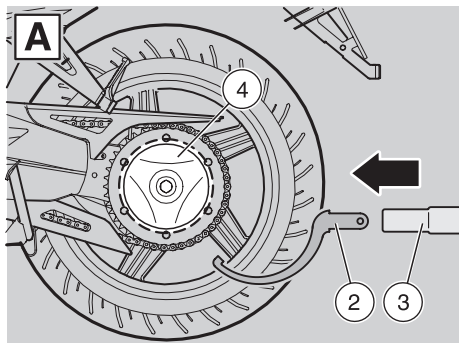
アジャスターリングを時計回りに回すとチェーンが張ります。アジャスターリングを反時計回りに回すとチェーンが弛みません。

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。

ナット(1)規定締め付けトルク: **30 Nm (3.0 kgm)**。

- ◆ ナット(1)を緩めます。

**重要**：この作業にはフックレンチ(2)および継ぎ手(3)が必要です。これらは工具キットにあります。



チェーンを弛めるには：

- ◆ 図(A)のようにフックレンチ(2)を差し込みます。

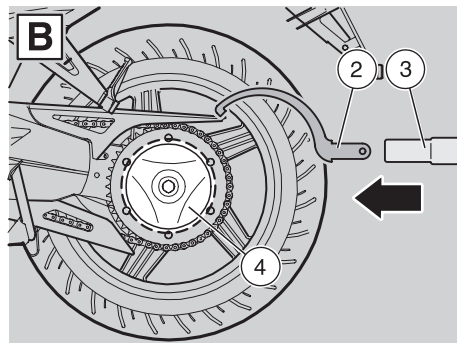
チェーンを張るには：

- ◆ 図(B)のようにフックレンチ(2)を差し込みます。

フックレンチ(2)を正しい向きに差し込みます：

- ◆ フックレンチ(2)をアジャスターリング(4)にかけます。
- ◆ フックレンチに継ぎ手(3)を取り付けます。
- ◆ フックレンチ(2)を動かしてチェーンテンションを調整します。
- ◆ チェーンテンションを点検します。74頁(ドライブチェーン)参照。
- ◆ 2個のナット(1)を締めます。

ナット(1)規定締め付けトルク：30 Nm (3.0 kgm)。



チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケットの摩耗の点検

また、7500 km (4687 mi) 走行ごとに点検し、チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケットに以下の症状がないことを確認してください：

- ローラーの損傷。
- ピンの緩み。
- リンクのオイル切れ、錆び、潰れ、固着。
- 極端な摩耗。
- Oリングの欠如。
- 各スプロケットの歯の極端な摩耗、損傷。

### ▲ 注意

チェーンのローラーの損傷、ピンの緩み、Oリングの損傷・欠如等がある場合には、チェーンユニット全体(フロントスプロケット、リアスプロケット、チェーン)を交換する必要があります。

### ▲ 注意

頻繁にチェーンの潤滑を行なってください。オイル切れ、錆びなどが見られる場合は特に頻繁に実施してください。また、潰れたり固着した部分は、スムーズに動くよう潤滑と修理が必要です。修理が不可能な場合には **aprilia** 正規ディーラーにチェーンの交換をご依頼ください。

- ◆ 最後にスイングアームのチェーンプロテクターの状態も点検します。

チェーンの清掃と潤滑

### ▲ 注意

ドライブチェーンのリンク接合部にはOリングが使われ、グリースをチェーン内部に保持しています。

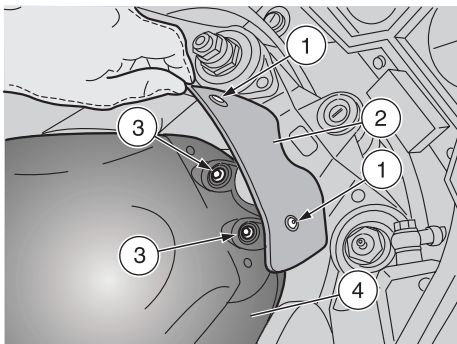
従って、チェーンの潤滑、清掃、交換などの作業の際は細心の注意が必要です。

チェーンを洗浄する際は、高圧水や蒸気のジェット、可燃性の溶剤などは絶対に使用しないでください。

- ◆ チェーンをナフタまたは灯油で洗浄します。早めに錆びてしまう場合はメンテナンスの頻度を上げてください。

チェーンの潤滑は 1000 km (625 mi) 走行ごと、また必要に応じてさらに頻繁に行なってください。

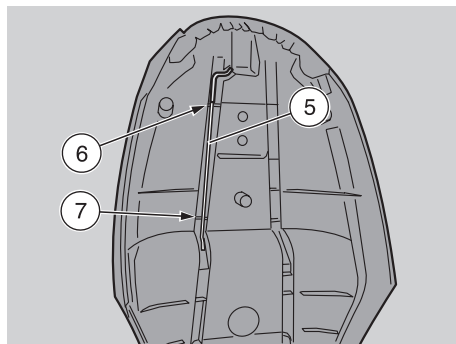
- ◆ 洗浄後は完全に乾かし、潤滑を行ないます。必ずOリング付きチェーンに対応したスプレーグリースを使用してください。109頁(指定油脂類表)参照。



### ▲ 注意

市販されているチェーン用グリスの中には、ゴム製のOリングに損傷を与える成分を含んだものもありますのでご注意ください。

**重要：**チェーンの潤滑を行なった直後はモーターサイクルを使用しないでください。遠心力によりグリスが飛び散り周囲を汚してしまいます。



### 燃料タンクの起こし方

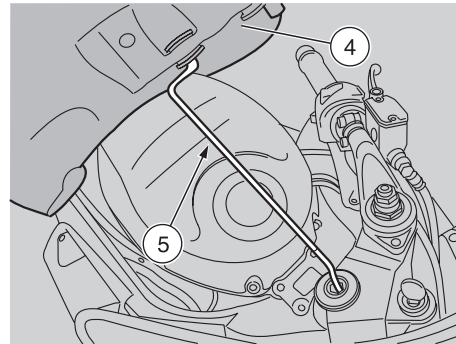
28 頁 (燃料)、58 頁 (メンテナンス) をよく読んでください。

### ▲ 危険

火災の危険があります。  
エンジンとマフラーが完全に冷えるまで待ってから作業を始めてください。

燃料の気化ガスは健康に有害です。  
作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。  
燃料の気化ガスを吸い込まないように注意してください。  
作業場では煙草を吸ったり裸火を扱ったりしないでください。

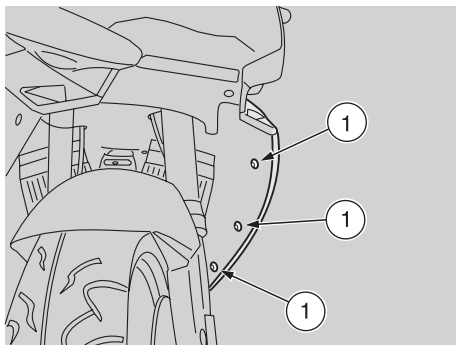
環境保護のため燃料は適切に処理してください。



- ◆ シートを取り外します。26 頁 (シートロック/ロック解除) 参照。
- ◆ 2 本のネジ (1) を回して取り外します。
- ◆ マスク (2) を取り外します。
- ◆ 燃料タンク (4) 前方の 2 本の固定ネジ (3) を回して取り外し、ワッシャーも外します。

**重要：**シートの下に固定の燃料タンク用支えを装備します。

- ◆ 燃料タンク保持用のポール (5) をフック (6) (7) から外します。
- (5) オイルゲージの、ゴムがついている先端部は、ハンドルのピンの中央の穴に挿入して下さい。
- ◆ 燃料タンク (4) の前方を持ち上げ、図のようにポール (5) を挿入して保持します。



### 左側サイドフェアリングの取り外し

58 頁 (メンテナンス) をよく読んでください。

#### ⚠ 危険

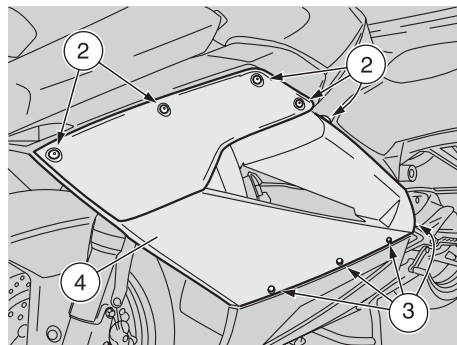
エンジンとマフラーが完全に冷えるまで待ってから作業を始めてください。

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁 (スタンドの立て方) 参照。
- ◆ 3 本のネジ (1) を回して取り外します。
- ◆ 上部の 5 本のネジ (2) を回して取り外します。
- ◆ 下部の 4 本のネジ (3) を回して取り外します。

#### ⚠ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

- ◆ サイドフェアリング (4) を取り外します。



### 左側アンダーフェアリングの取り外し

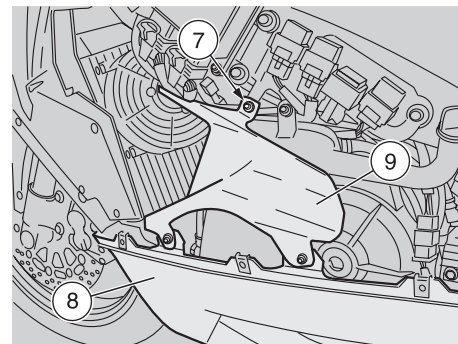
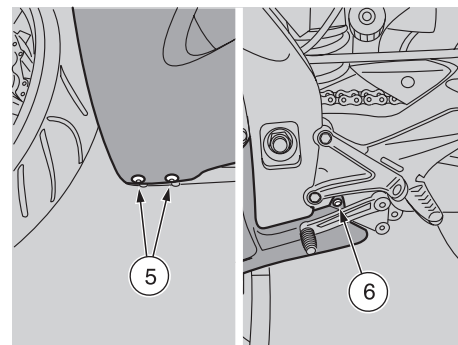
58 頁 (メンテナンス) をよく読んでください。

- ◆ 左側サイドフェアリングを取り外します。77 頁 (左側サイドフェアリングの取り外し) 参照。
- ◆ 下部の 2 本のネジ (5) を回して取り外します。
- ◆ サイドスタンドを開きます。
- ◆ 後部のネジ (6) を回して取り外します。
- ◆ ネジ (7) を回して取り外します。

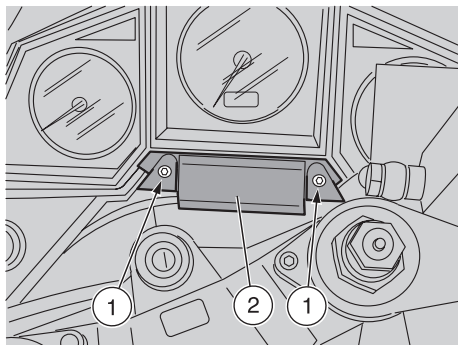
#### ⚠ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

- ◆ プロテクター (9) ごと、左側アンダーフェアリング (8) を取り外します。







### ヒューズケースカバーの取り外し

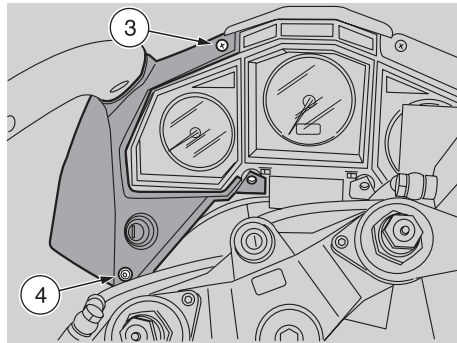
58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

- ◆ 2 本のネジ(1)を回して取り外します。

#### ▲ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

- ◆ ヒューズケース(2)のカバーを取り外し、ブッシュも外します。



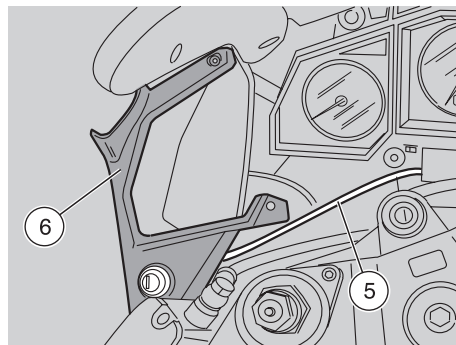
### メーターパネルカバーの取り外し

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

メーターパネルカバーは左右に2つあります。

**重要：**以下の説明は片方のカバーについてですが、内容は左右ともに共通です。

- ◆ ヒューズケースのカバーを取り外します。78 頁(ヒューズケースカバーの取り外し)参照。
- ◆ ネジ(3)を回して取り外します。
- ◆ ネジ(4)を回して取り外します。



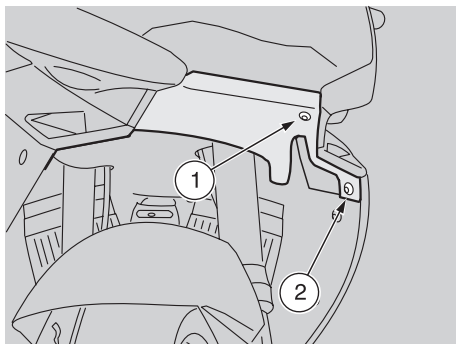
#### ▲ 注意

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

はめ込み用の突起およびスリットを損傷しないよう注意してください。

**重要：**左側メーターパネルカバーはシートロックケーブル(5)が取り付けられているため完全には取り外せません。途中まで外してください。

- ◆ メーターパネルカバー(6)を取り外します。



### ノーズ下カバーの取り外し

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

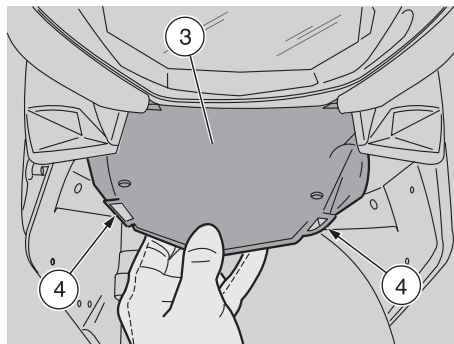
- ◆★ネジ(1)を回して取り外します。
- ◆★ネジ(2)を回して取り外します。

#### ▲ 注意

作業は慎重に行なってください。

はめ込み用の突起およびスリットを損傷しないよう注意してください。

プラスチック部品や塗装部品は、掻き傷をつけたり割ったりしないよう慎重に扱ってください。

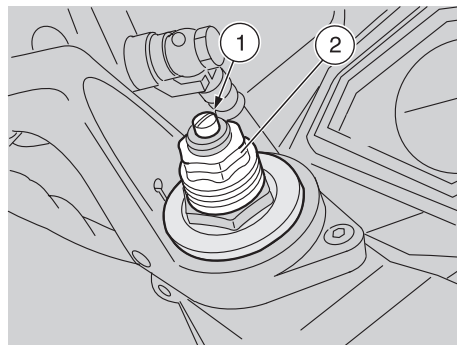
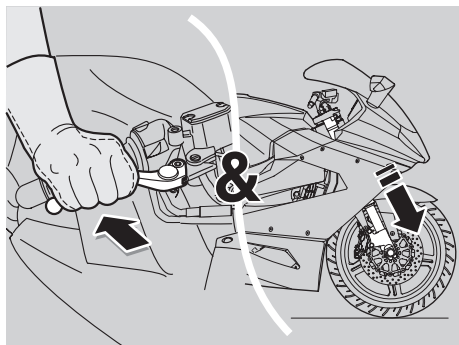


- ◆ ノーズ下カバー(3)を取り外します。

#### ▲ 注意

再取り付けの際は、嵌合用の突起(4)を元の位置に正しく挿入してください。





## サスペンションの点検

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

**重要：**フロントフォークのオイル交換は **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。正確で迅速なサービスをお約束します。

初回は 7500 km (4687 mi) 走行後、その後は 22500 km (14000 mi) 走行ごとにフォークオイルを交換してください。

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 15000 km (9375 mi) 走行ごとに、次の点検を行なってください：

- ◆ フロントブレーキレバーを引いた状態で、繰り返しハンドルバーを押し下げてフロントフォークを押し込んでみます。フォークがゆっくり滑らかに上下し、フォークロッドにオイルが漏れていなければ正常です。
- ◆ 全ての部品の取り付けに緩みがないか、フロントおよびリアサスペンションの連結部が正常に機能しているか、確認してください。

## ▲ 注意

動作になんらかの異常がある場合や専門技術者の手助けが必要な場合には、**aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

## フロントサスペンション

初回は 30000 km (18750 mi) 走行後、その後は 22500 km (14000 mi) 走行ごとに、フォークオイルよけの交換を **aprilia** 正規ディーラーに依頼してください。

フロントサスペンションは、2 枚のリンクプレートでステアリングカラーに接続された油圧式フォークで構成されています。

フロントフォークの各ロッドには、車体セッティングのため次の調整箇所があります：

- － リバウンドダンピングを調整する上部ネジ(1)；
- － スプリングプリロードを調整する上部ナット(2)。

## フロントフォークの調整

フロントフォークは、ライダーと荷物を乗せた状態で高速、低速いずれの場合でも広範囲な走行条件に適応するように標準設定されています。

ただし、モーターサイクルの使用目的に応じてフロントフォークを調整することも可能です。

**重要：**調整作業を始める前に、81 頁の表を参考にして適切なセッティングタイプを確認しておいてください。

## セッティングの種類

通常セッティング(標準)：

通常の積載量の場合(たとえば、ライダーと積荷)。

最大荷重での調整：

積載量が大きい場合(たとえば、パッセンジャー、ライダーと積荷)。

柔らかめのセッティング：

競技的でない走行の場合(ツーリング走行)。

硬めのセッティング：

競技的な走行の場合。

## ▲ 注意

調整ネジ(1)は無理に回さないでください。いずれかの方向にいっぱい回した状態からさらに回すと、ネジを損傷するおそれがあります。

左右の各ロッドは、スプリングプリロード、ダンピングとも、同じ条件に調整してください。左右で異なる調整をすると走行



時の安定性が悪くなります。

スプリングプリロードを大きくした場合はダンピングも大きくする必要があります。さもないと走行中に車体が急にはね上がることがあります。

### ▲ 注意

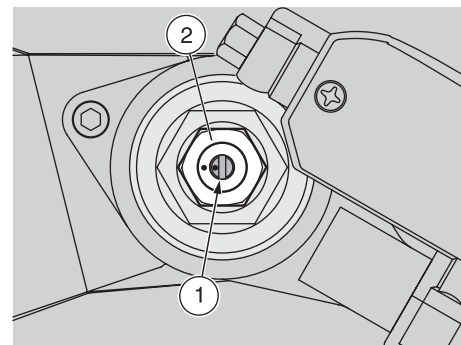
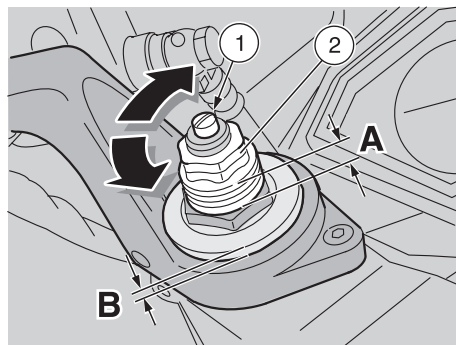
調整の際は、必ず最も硬めのセッティング [ 調整ネジ (1) を時計回りにいっぱいにした状態 ] から試すようにしてください。リバウンドダンピングを調整する場合は、調整ネジ (1) の溝を目安にしてください。調整ネジ (1) は一度につき 1/8 回転ずつ回してください。

こうして最適な調整が得られるまで繰り返し路上で試してみてください。

### ▲ 注意

ロッド突出部分 (B) は調整できません。この突出部分を調整して車体セッティングを行なうことは絶対にやめてください。ロッド突出部分 (B) は 1 山分になるよう標準調整されています。

この寸法からずれてしまった場合は必ず **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

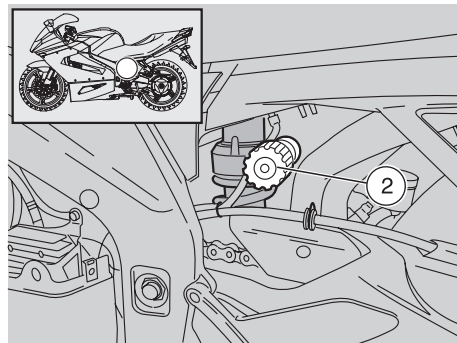
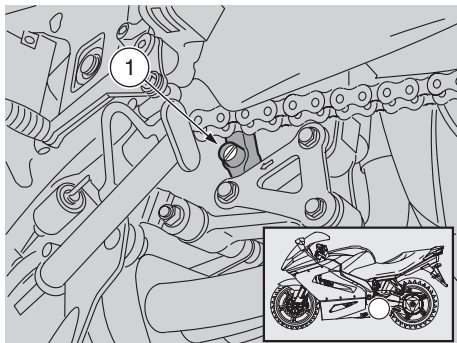


### フロントフォークの調整表

フロントサスペンション	通常セッティング (標準)	最大荷重での調整	柔らかめのセッティング	硬めのセッティング
リバウンド油圧調整、ネジ (1)	いっぱいに締めた状態 (*) から 1.25 回転開く (**)	いっぱいに締めた状態 (*) から 1.25 回転開く (**)	いっぱいに締めた状態 (*) から 1.5 回転開く (**)	いっぱいに締めた状態 (*) から 1 回転開く (**)
スプリングプリロード、調整ナット (2) [ 突出部分のネジ山 (A) を目安に ]	6 番目のネジ山	7 番目のネジ山	7 番目のネジ山	5 番目のネジ山

(\*) = 時計回り

(\*\*) = 反時計回り



## リアサスペンション

リアサスペンションは、ばね - ショック・アブソーバー式から成り、フレームにはユニボールを通じて、リアフォークにはレバー装置を通じて、接続されています。

車体セッティングのため、ショックアブソーバーには次の調整箇所があります：

- リバウンドダンピングの調整ネジ (1)；
- スプリングプリロード (3) の調整ノブ (2)。

## リアショック・アブソーバーの調整

15000 km (9375 mi) 走行ごとにリアショックアブソーバーを点検し、必要ならば調整します。

リアショックアブソーバーは、ライダーと荷物を乗せた状態で高速、低速いずれの場合でも広範囲な走行条件に適應するように標準設定されています。

各利用者が車体の各自の使用にあわせて、調整を行うことが可能です。

### ▲ 危険

エンジンとマフラーが完全に冷めるまで待ってから調整作業を始めてください。

## セッティングの種類

通常セッティング (標準)：

通常の積載量の場合 (たとえば、ライダーと積荷)。

最大荷重での調整：

積載量が大きい場合 (たとえば、パッセンジャー、ライダーと積荷)。

柔らかめのセッティング：

競技的でない走行の場合 (ツーリング走行)。

硬めのセッティング：

競技的な走行の場合。

### ▲ 注意

使用状況に応じてスプリングプリロードとリバウンドダンピングを調整してください。

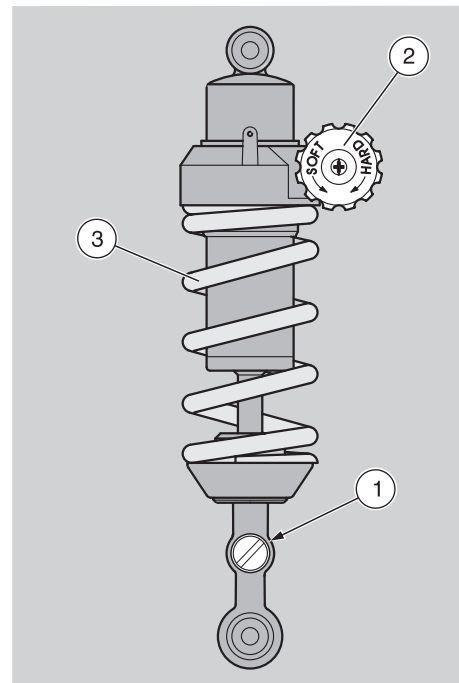
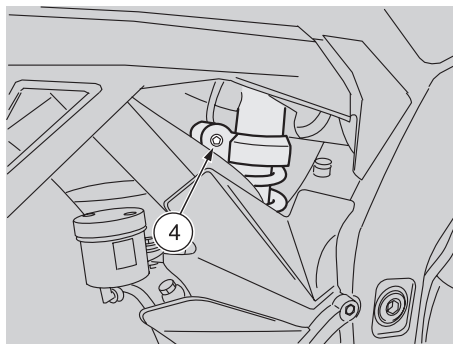
スプリングプリロードを大きくした場合はリバウンドダンピングも大きくする必要があります。さもないと走行中に車体が急にはね上がることがあります。

必要な場合は **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。

こうして最適な調整が得られるまで繰り返し路上で試してみてください。

## ▲ 注意

ショックアブソーバの正しい機能を持  
 するために、決してネジ(7)を緩めたり取  
 り外したりしないでください。窒素が漏れ  
 て、事故の原因となり危険です。

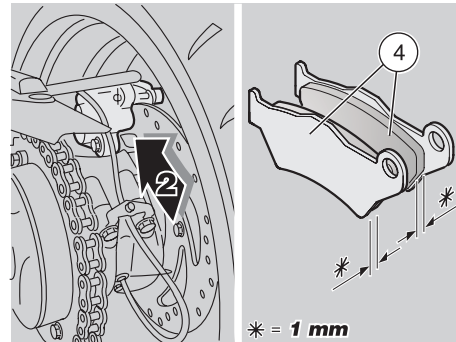
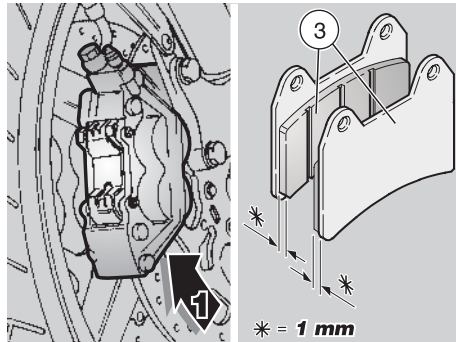
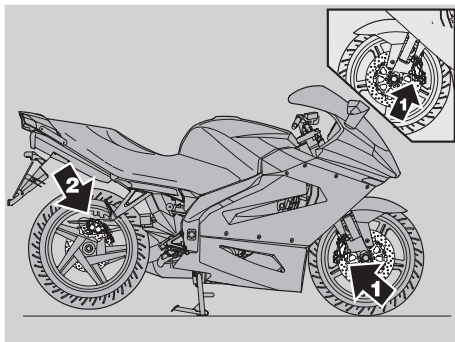


### リアショックアブソーバーの調整表

フロントサスペン ション	通常セッティ ング(標準)	最大荷重での 調整	柔らかめの セッティング	硬めのセッ ティング
リバウンド油圧調整、 ネジ(1)	完全に閉った 状態から(*) 15目盛り開け る(**)	完全に閉った 状態から(*) 13目盛り開け る(**)	完全に閉った 状態から(*) 16目盛り開け る(**)	完全に閉った 状態から(*) 14目盛り開け る(**)
スプリングプリロー ド、調整ノブ(2)	いっぱいの開 いた状態(**) から14目盛締 める(*)	いっぱいの開 いた状態(**) から34目盛締 める(*)	いっぱいの開 いた状態(**) から4目盛締 める(*)	いっぱいの開 いた状態(**) から22目盛締 める(*)

(\*) = 時計回り

(\*\*) = 反時計回り



### ブレーキパッドの摩耗の点検

30 頁 (ブレーキオイル - 注意事項)、31 頁 (ディスクブレーキ)、58 頁 (メンテナンス) をよく読んでください。

**重要：**以下の説明は一つのブレーキ系統についてですが、前後輪ともに共通です。

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 2000 km (1250 mi) 走行ごと、また走行前には毎回、ブレーキパッドの摩耗を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗は使用状況、運転の仕方、道路状態などによって変わります。

### ▲ 危険

走行前には毎回、必ずブレーキパッドの摩耗を点検してください。

ブレーキパッドの摩耗を簡単に点検するには：

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁 (スタンドの立て方) 参照。
- ◆ ブレーキキャリパーとパッドの間を覗いて摩擦面を目で点検します：
  - 前輪の場合はブレーキキャリパー(1)の下方から前方へ向かって。
  - 後輪の場合はブレーキキャリパー(2)の上方から後方へ向かって。

### ▲ 注意

摩擦材が限度以上に摩耗すると、ブレーキパッドの金属製ホルダーが直接ディスクに触れ、その結果ブレーキングの際に金属音や火花が発生します。また、制動力が弱まり危険な他、ディスクにも損傷を与えます。

摩擦材が(たとえフロント(3)またはリア(4)1個のパッドでも)1mm程度の厚さまでに摩耗している(もしくは摩耗の目安となる溝が1本でも見えなくなっている)場合は：

- フロントブレーキキャリパー(右および左)については、両方のすべてのブレーキパッドを交換します。
- リアブレーキキャリパーについては、ブレーキパッドを2つとも交換します。

### ▲ 危険

ブレーキパッドの交換は **aprilia** 正規ディーラーにご依頼ください。



### アイドリングの調整

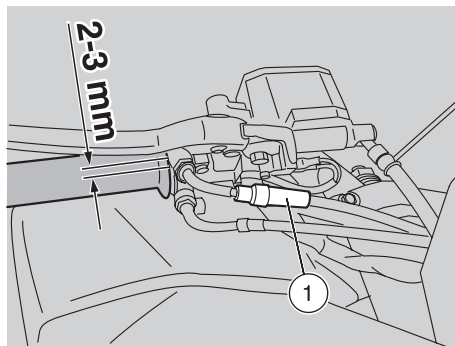
#### ▲ 注意

アイドリングの調整には特殊な技術的知識が必要です。aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。

### チョークレバーの調整 (1)

#### ▲ 注意

チョークレバー“1”の調整には特殊な技術的知識が必要です。aprilia 正規ディーラーにご依頼ください。



### スロットルケーブルの調整

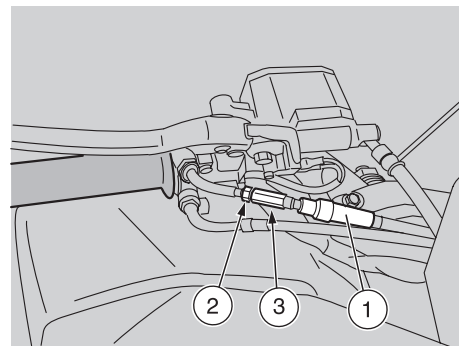
58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

初回は 1000 km (625 mi) 走行後、その後は 7500 km (4687 mi) 走行ごとに、スロットルケーブルの点検を aprilia 正規ディーラーに依頼してください。

スロットルケーブルの遊びはグリップ根元の周縁で測定して 2 ~ 3 mm が適当です。

遊びが適当でない場合は次の手順で調整してください：

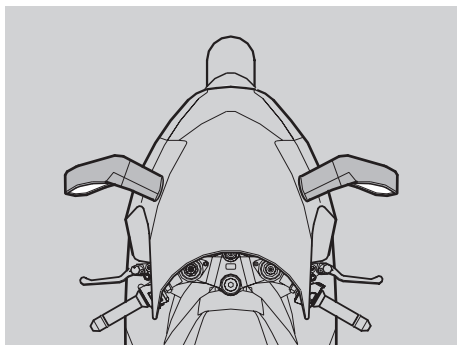
- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ 保護チューブ(1)をずらしません。
- ◆ ロックナット(2)を緩めます。



- ◆ 遊びが適正になるよう、アジャスター(3)を回して調整します。
- ◆ 調整後、ロックナット(2)を締め、再度スロットルケーブルの遊びを点検します。
- ◆ 保護チューブ(1)を元どおりかぶせます。

#### ▲ 注意

遊びを調整した後は、ハンドルをどの角度に回してもアイドリング回転数が常に一定であること、また、スロットルグリップは手を離すとスムーズに定位置に戻ることを確認してください。



### バックミラー

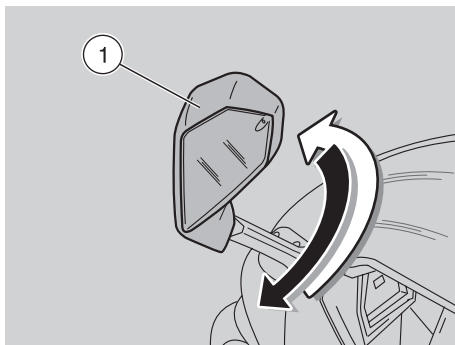
バックミラーにはフロントウィンカーライトが取り付けられています。バックミラーは幅を取らないよう上へ回転させることができます。

#### ▲ 危険

バックミラーを上へ回転させたまま運転しないでください。発進の前に必ずバックミラーが正しい角度に調整されているか確認してください。

#### ▲ 危険

バックミラーを調整する際は、反射面を汚さないよう、きれいな手袋または布を使用してください。反射面が汚れると視認性が悪くなり危険です。



### バックミラーの回転方法

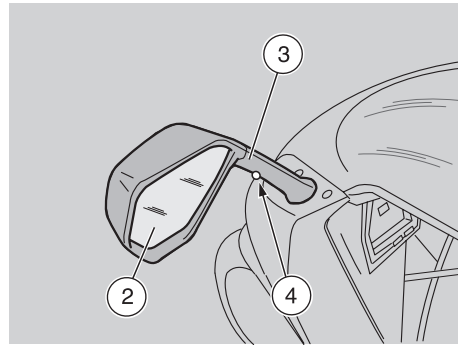
#### ▲ 注意

各部分は慎重に扱ってください。

- ◆ かちっと止まるまでバックミラー(1)を上へ回転させます。

#### ▲ 注意

バックミラー(1)を通常位置へ戻すには逆方向に回転させてください。上記以外の方向へは回さないでください。ウィンカーライトの配線ケーブルを損傷するおそれがあります。



### バックミラーの調整

- ◆ ライダーシートにまたがります。44 頁(車両への乗り降り)参照。

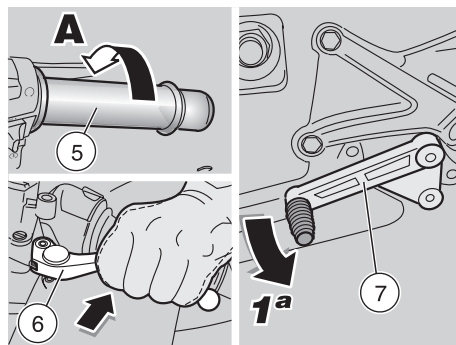
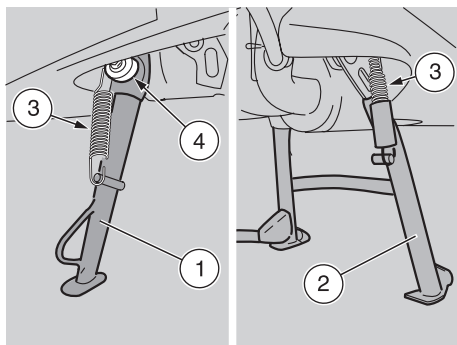
#### ▲ 注意

各部分は慎重に扱ってください。

- ◆ 指を使って、バックミラー(3)の反射面(2)を正しい角度に調節します。もう一方のバックミラーも同様に調節します。

**重要：**この車両には左バックミラーに気温センサー(4)が取り付けられています。

- ◆ 汚れや泥が付着していないか点検します。



## サイドスタンドの点検

58 頁(メンテナンス)、93 頁(マイクロスイッチ類の点検)をよく読んでください。

この車両は次の2つのスタンドを装備しています：

- サイドスタンド(1)；
- センタースタンド(2)。

スタンドには次の2つのポジションがあります：

- 通常状態すなわち格納された状態(使用していないとき)；
- 開いた状態(使用中)。

サイドスタンドを降ろしたり格納したりするのはライダーの役割です。

スタンドはひっかかりなどがなくスムーズに回らなければなりません。

スプリング(3)はサイドスタンドのポジション(開いた、または格納された)を保持する役割を果たします。

## センタースタンド

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。

- ◆ スプリング(3)に損傷、摩耗、錆び、劣化などがなければ点検します。
- ◆ 格納した状態でスタンドにがたつきがないことを確認します。
- ◆ スタンドを移動して放し、スプリングによって完全に格納されるか確認します。
- ◆ サイドスタンドがスムーズに回るか確認します。必要な場合はジョイント部の潤滑を行ってください。109 頁(指定油脂類表)参照。

## サイドスタンド

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ スプリング(3)に損傷、摩耗、錆び、劣化などがなければ点検します。
- ◆ どちらのポジション(開いた、または格納された)でもサイドスタンドにがたつきがないか確認します。
- ◆ 格納された状態からサイドスタンドを開き、スプリングによって完全に開かれた状態になるか確認します。

◆ サイドスタンドを格納方向へ半分移動して放し、スプリングによって完全に格納されるか確認します。


◆ サイドスタンドがスムーズに回るか確認します。必要な場合はジョイント部の潤滑を行ってください。109 頁(指定油脂類表)参照。

サイドスタンド(1)には安全マイクロスイッチ(4)が設けられており、ニュートラル以外のギアでサイドスタンド(1)が下がっている状態のとき、エンジンがかからないように、またはエンジンを停止するように働きます。

安全マイクロスイッチ(4)が正常に機能しているか確認するには：

- ◆ エンジンを始動します。48 頁(エンジンの始動)参照。
- ◆ スロットルグリップ(5)を戻し(Cの方向)、エンジンをアイドル状態にして、クラッチレバー(6)をいっぱいに引きまします。
- ◆ シフトレバー(7)を下に踏み込んでギアを1速に入れます。
- ◆ サイドスタンド(1)を下げます。この時点で安全マイクロスイッチ(4)が働くはず です。

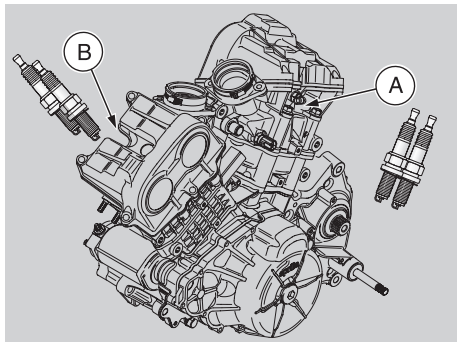
以下の点を確認してください：

- エンジンが停止すること。
- メーターパネル上のサイドスタンド・インジケーター“”が点灯すること。

## ▲ 注意

もしもエンジンが停止しない場合は **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。





## スパークプラグ

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

### ▲ 注意

すべてのスパークプラグを一つずつ、点検、清掃または交換してください。

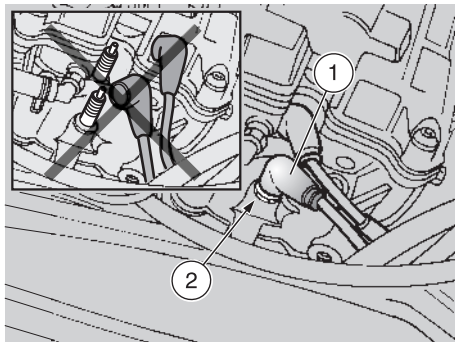
スパークプラグは 7500 km (4687 mi) 走行ごとに点検し、また、15000 km (9375 mi) 走行ごとに交換してください。

競技的な走行をすることが多い場合は 3750 km (2343 mi) ごとにスパークプラグを交換してください。

それ以外にも定期的にスパークプラグを取り外して付着したカーボンなどを取り除き、必要な場合は交換してください。

### ▲ 注意

一つでもスパークプラグの交換が必要な場合は、必ずすべてのスパークプラグを交換してください。



スパークプラグを取り出すには：

### ▲ 危険

火傷の危険がありますのでエンジンおよびマフラーが室温に戻るまで冷ましてから以下の作業を始めてください。

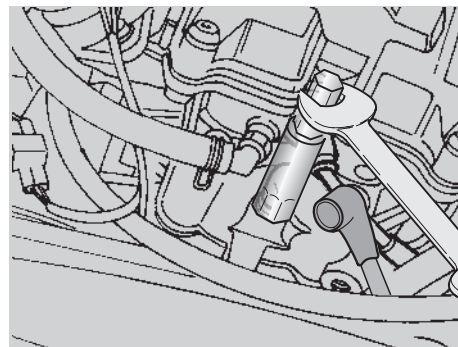
◆ 燃料タンクを起こします。76 頁(燃料タンクの起こし方)参照。

**重要：**この車両はシリンダー (A) および (B) にそれぞれ 2 個のスパークプラグを使用しています。

以下の説明は一つのシリンダーの 2 個のスパークプラグについてですが、両方のシリンダーについて同様です。

### ▲ 注意

まず一つのスパークプラグについてすべての作業を行なった後、同じシリンダーのもう一つのスパークプラグについて同様に繰り返します。



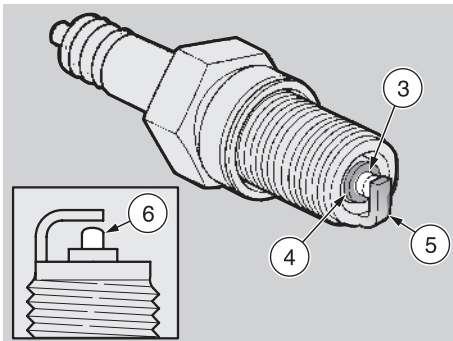
取り外しには：

### ▲ 注意

2 つのスパークプラグキャップを入れ違えないでください。  
2 つのスパークプラグキャップを同時に取り外さないでください。

- ◆ スパークプラグ(2)からキャップ(1)を取り外します。
- ◆ スパークプラグベースの汚れを全て取り除きます。
- ◆ 工具キットにあるプラグレンチをスパークプラグにかぶせます。
- ◆ このプラグレンチのハウジングが六角形になっている部分に、工具キットにある 13 mm スパナをかけます。
- ◆ スパークプラグを回して緩め、取り出します。このときシリンダー内に埃や異物が入らないように注意してください。





### スパークプラグの取り外しと清掃：

#### ▲ 注意

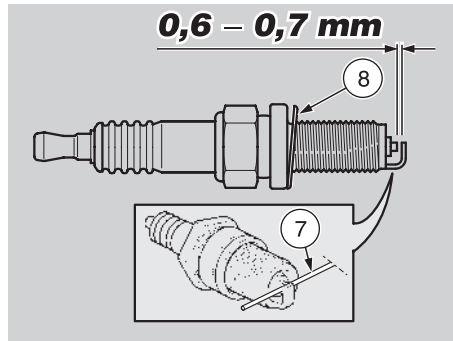
この車両のスパークプラグ電極は白金製です。清掃には金属ブラシや研磨剤などは使用せず、必ず圧縮空気のみを使用してください。

#### 各部名称

- 中央電極 (3)、
- 絶縁碍子 (4)、
- 外側の電極 (5)。

◆ スパークプラグの電極と絶縁碍子にカーボンや錆が付着していないか確認してください。必要な場合は圧縮空気を使って清掃してください。

絶縁碍子がひび割れていたり、電極が錆びていたり、カーボンが異常に多く付着している場合、または中央電極 (3) の先端 (6) が丸まっている場合は、スパークプラグを交換してください。



#### ▲ 注意

スパークプラグの交換の際はネジ山のピッチと長さを確認してください。

ネジ山の部分が短すぎると、余った部分にカーボンが付着し、次に正しいスパークプラグを取り付けた際にエンジンを損傷するおそれがあります。

必ず推奨タイプのスパークプラグを使用してください。105 頁 (テクニカルデータ) 参照。それ以外のスパークプラグではエンジンの性能が損なわれたり寿命が短くなったりします。

白金めっきを損傷しないよう、電極間隙の測定には線式の間隙ゲージ (7) を使用してください。

◆ 電極間隙を線式の間隙ゲージ (7) で測定します。

#### ▲ 注意

決して電極間隙を元に戻そうとしないでください。

電極の間隙は 0.6 ~ 0.7 mm が適当です。それ以外の場合はスパークプラグを交換してください。

◆ ワッシャー (8) の状態も点検してください。

#### 取り付け方法：

◆ ワッシャー (8) を取り付け、ネジ山をいためないよう注意深くスパークプラグを手でねじ込んでください。

◆ 最後に、工具キットにあるプラグレンチで 1/2 回転させワッシャーを押さえつけます。

スパークプラグ規定締め付けトルク：  
20 Nm (2 kgm)。

#### ▲ 注意

スパークプラグがしっかり締められていないと、エンジンがオーバーヒートして重大な損傷を受けることがあります。

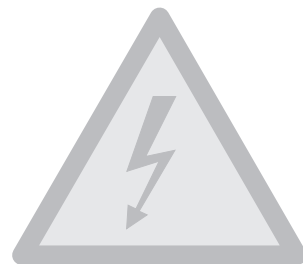
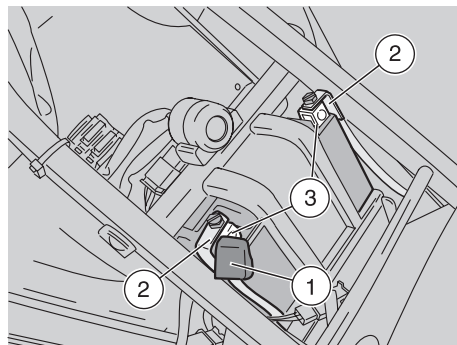
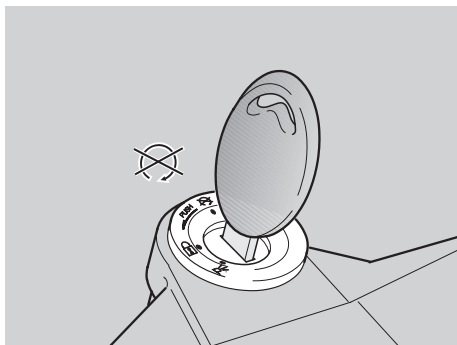
#### ▲ 注意

スパークプラグ (2) にキャップ (1) が正しく接続されているか確認してください。しっかり接続されていないとエンジンの振動でキャップが外れ、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

◆ キャップ (1) をスパークプラグ (2) にかちっと止まるまでしっかりかぶせます。

**重要：**同じシリンダーのもう一つのスパークプラグについて同様に繰り返します。続いてもう一つのシリンダーの 2 個のスパークプラグについても順に繰り返します。

◆ 燃料タンクを元どおり取り付けます。76 頁 (燃料タンクの起こし方) 参照。



## バッテリー


58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

### ▲ 危険

火災の危険があります。

電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

バッテリーケーブルの極性を決して逆にしないでください。


バッテリーの取り付け及び取り外しは、イグニッションスイッチを“”の位置にして行ってください。部品を損傷するおそれがあります。

バッテリーケーブルを接続するときは (+) を先に、(-) を後に接続します。ケーブルを外すときは逆の順序で外します。

**重要：**このモーターサイクルはメンテナンスフリーのバッテリーを装備していますので、ときおり点検を行ない必要な場合に充電する以外はメンテナンスが不要です。

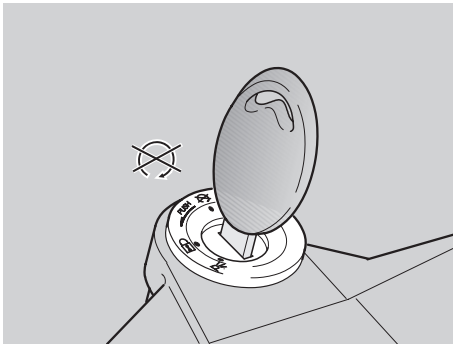
### ターミナルおよび電極の点検と清掃

90 頁(バッテリー)をよく読んでください。

- ◆ イグニッションスイッチが“”の位置になっていることを確認します。
- ◆ シートを取り外します。26 頁(シートロック/ロック解除)参照。
- ◆ 赤い保護キャップ(1)をずらします。
- ◆ バッテリーケーブルのターミナル(2)およびバッテリーの電極(3)について次の点を確認してください：
  - 損傷などがなく良い状態であること(また、錆や付着物がないこと)。
  - 中性グリースまたはワセリンで保護されていること。

清掃が必要な場合は：

- ◆ バッテリーケーブルを、先ず(-)、続いて(+)の順に外します。
- ◆ 金属ブラシを使って錆び、付着物などをよく落としてください。
- ◆ バッテリーケーブルを、先ず(+)、続いて(-)の順に元どおり接続します。
- ◆ ターミナルおよび電極に中性グリースまたはワセリンを塗布します。
- ◆ シートを降ろします。26 頁(シートロック/ロック解除)参照。




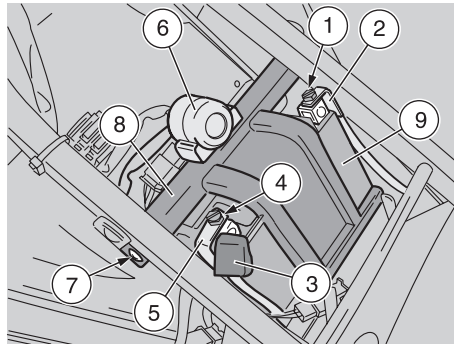
## バッテリーの取り外し

90 頁(バッテリー)をよく読んでください。

### ▲ 注意

バッテリーを取り外すとデジタルクロックとトリップメーターがゼロにリセットされます。デジタルクロックの再設定手順については、20 頁(プログラムボタン)を参照してください。

- ◆ イグニッションスイッチが“”の位置になっていることを確認します。
- ◆ シートを取り外します。26 頁(シートロック/ロック解除)参照。
- ◆ (-) 電極のネジ(1)を回して取り外します。
- ◆ マイナス側ケーブル(2)を横方向へずらして外します。
- ◆ 赤い保護キャップ(3)をずらします。



- ◆ (+) 電極のネジ(4)を回して取り外します。
- ◆ プラス側ケーブル(5)を横方向へずらして外します。

### ▲ 注意

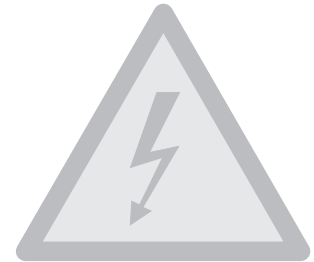
配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

- ◆ スターターリレー(6)を取り外します。
- ◆ ★ネジ(7)を回して取り外します。
- ◆ バッテリーの固定器具(8)を持ち上げます。
- ◆ バッテリー(9)をしっかりと掴んで持ち上げながら取り出します。

### ▲ 危険

取り出したバッテリーは安全で子供の手の届かない場所に保管してください。

- ◆ 涼しく乾いた場所で、平らな台の上にバッテリーを置きます。



### ▲ 危険

再度取り付けの際、はじめに正極の導線を正(+ )の電極につなぎ、次に負極の導線を負(- )の電極につないでください。

- ◆ シートを降ろします。26 頁(シートロック/ロック解除)参照。

## バッテリー液量の点検

90 頁(バッテリー)をよく読んでください。

この車両はメンテナンスフリーのバッテリーを装備していますので、バッテリー液量の点検は不要です。

## バッテリーの充電

90 頁(バッテリー)をよく読んでください。

### ▲ 注意

バッテリー液栓は外さないでください。  
バッテリーに損傷を与えます。

- ◆ バッテリーを取り出します。91 頁(バッテリーの取り外し)参照。
- ◆ 適切なバッテリーチャージャーを装備します。
- ◆ 充電の種類によって、適切なバッテリーチャージャーを使用して下さい(表参照)。
- ◆ バッテリーを充電器に接続します。

### ▲ 危険

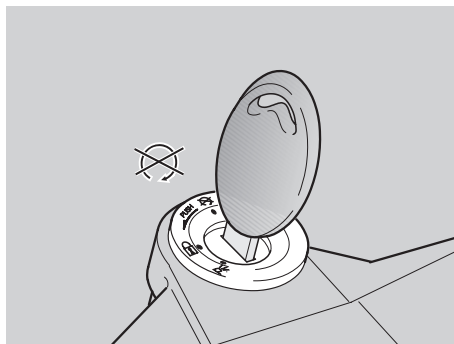
バッテリー充電中や使用中は周囲の換気に注意し、充電中に発生するガスを吸わないように気をつけてください。

- ◆ バッテリーチャージャーをオンにします。

充電方式	充電電流 (アンペア)	所要時間 (時間)
通常	1.2	8 ~ 10
急速	12	0.5


### ▲ 危険

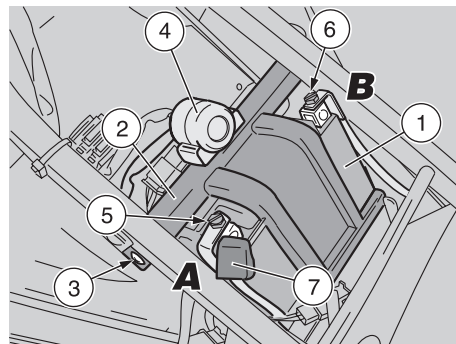
充電後もしばらくの間ガスが発生し続けますので、バッテリーは充電器から取り外した後 5 ~ 10 分程度待ってから取り付けてください。



## バッテリーの取り付け

90 頁(バッテリー)をよく読んでください。

- ◆ イグニッションスイッチが“”の位置になっていることを確認します。
- ◆ シートを取り外します。26 頁(シートロック/ロック解除)参照。
- 重要**：バッテリー(1)は所定の位置に電極が車体の後方に向くように設置します。
- ◆ バッテリー(1)を車体に戻します。
- ◆ バッテリーの固定器具(2)を元どおり取り付けます。
- ◆ ★ネジ(3)を締めます。
- ◆ スターターリレー(4)を元どおり取り付けます。



### ▲ 危険

再度取り付けの際、はじめに正極の導線を正(+)  
の電極につなぎ、次に負極の導線を負(-)  
の電極につないでください。

**重要**：締める前に、接続済みのケーブルをバッテリーの脇に配置してください(位置 A)(位置 B)。

- ◆ プラス側ケーブルを(+)  
電極に接続しネジ(5)を締めます。
- ◆ マイナス側ケーブルを(-)  
電極に接続しネジ(6)を締めます。
- ◆ 赤い保護キャップ(7)を元どおりかぶせます。
- ◆ シートを降ろします。26 頁(シートロック/ロック解除)参照。

## バッテリーを長期間使用しない時

### ▲ 注意

20 日間以上モーターサイクルを使用しない場合は 30A ヒューズを取り外してください。デジタルディスプレイがバッテリーを消耗してバッテリーが劣化するのを防ぐためです。

**重要**：30A ヒューズを取り外すとデジタルクロックがゼロにリセットされます。デジタルクロックの再設定手順については、20 頁(プログラムボタン)を参照してください。

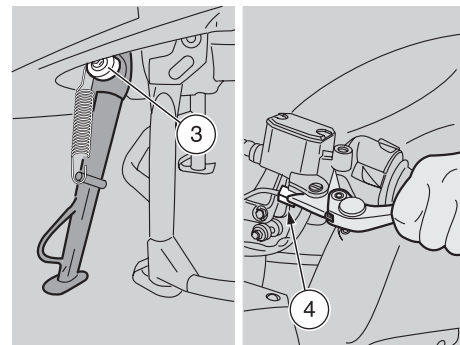
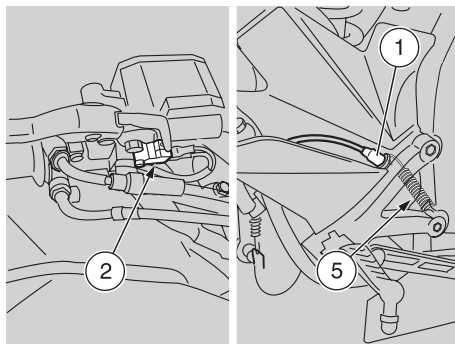
15 日間以上モーターサイクルを使用しない場合は、バッテリーの硫化を防ぐため充電が必要です。92 頁(バッテリーの充電)参照。

◆ バッテリーを取り出します。91 頁(バッテリーの取り外し)参照。涼しく乾燥した場所を選んで保管してください。

特に冬期や長期間使用しない場合には、バッテリーの劣化を防ぐため定期的に(毎月 1 回程度)バッテリーの充電状態を点検し充電してください。

◆ 通常の充電方式でいっばいに充電します。92 頁(バッテリーの充電)参照。

モーターサイクルに搭載したままの場合は、バッテリーケーブルを電極から外してください。



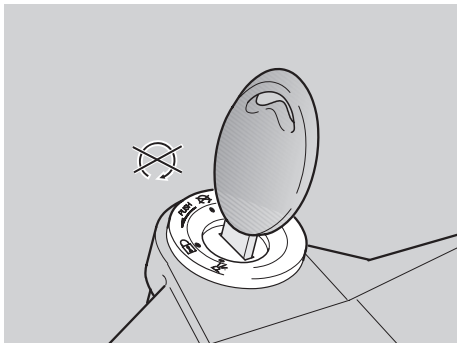
### マイクロスイッチ類の点検

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

このモーターサイクルには次の 4 つのマイクロスイッチが付いています：

- 1) リアブレーキペダル上のストップライト・マイクロスイッチ。
- 2) フロントブレーキレバー上のストップライト・マイクロスイッチ。
- 3) サイドスタンド上の安全マイクロスイッチ。
- 4) クラッチレバー上のマイクロスイッチ。

- ◆ マイクロスイッチが汚れていたり泥にまみれていないか点検してください。マイクロスイッチがスムーズに動き、自然に元の位置に戻るか確認してください。
- ◆ ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- ◆ スプリング(5)に損傷、摩耗、劣化などがないか点検してください。



## ヒューズの交換

58 頁(メンテナンス)をよく読んでください。

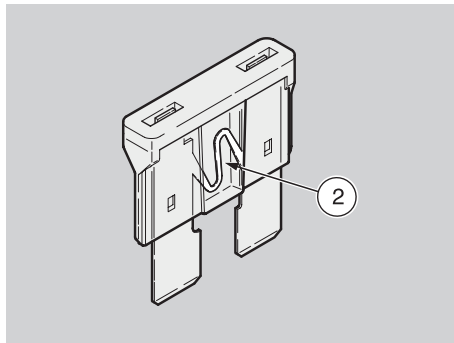
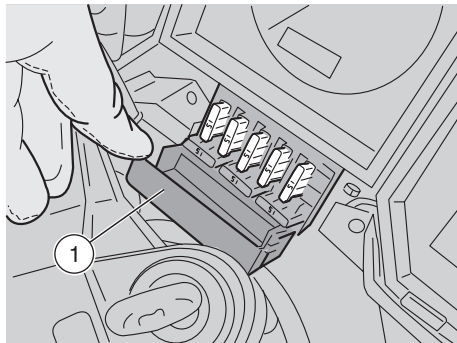
### ▲ 注意

欠陥のあるヒューズを修理して使うことはやめてください。  
また、規格に合ったヒューズ以外は決して使わないでください。  
ショートした場合には電気系統に損傷を与えるだけでなく火災の危険もあります。


**重要：**ヒューズが頻繁に切れる場合は電気系統がショートしているか、過負荷になっている箇所があると考えられますので、aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

電気部品が作動しなかったり動作が不規則な場合、またはエンジンの始動ができない場合などは各ヒューズを点検してください。

先ず 15A の二次ヒューズから点検し、その後 30A のメインヒューズを点検してください。



ヒューズの点検は次の手順で行なってください：

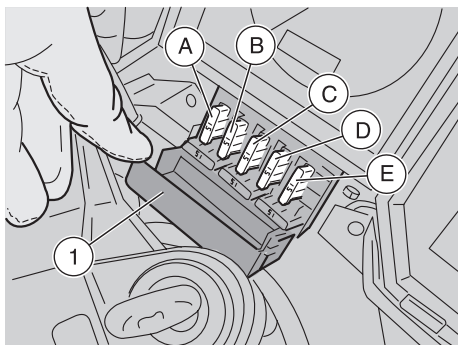
- ◆ 思いがけないショートを避けるため、イグニッションスイッチを“”の位置に回します。
- ◆ メーターパネルマスクを取り外します。78 頁(ヒューズケースカバーの取り外し)参照。
- ◆ 二次ヒューズのケース (1) のカバーを開けます。
- ◆ ヒューズを一つずつ取り出し、フィラメントが切れていないか点検します (2)。
- ◆ 切れたヒューズを交換する前に、できるだけ切れた原因を調べてください。
- ◆ ヒューズが切れている場合は同じ電流量の新しいヒューズに交換します。

**重要：**交換にスペアヒューズを使用した場合は、新品の同じヒューズを必ずその場所に補充しておいてください。

- ◆ シートを取り外します。26 頁(シートロック/ロック解除)参照。
- ◆ 二次ヒューズに関する上記の操作と同じ操作を、主要ヒューズに関しても行って下さい。

**重要：**30A ヒューズを取り外すとデジタルロックがリセットされます。

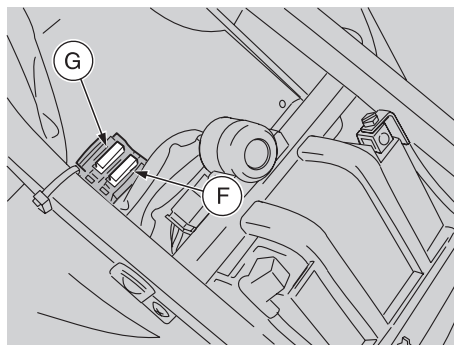
再設定の手順は 20 頁(プログラムボタン)参照。



### 15A 二次ヒューズの遮断回路

- A) 電圧レギュレーターから：  
ヘッドライト、メーターパネル。
- B) 電圧レギュレーターから：  
燃料ポンプ。
- C) イグニッションスイッチから：  
パーキングライト、リア・ストップライト、警告ホーン、ウィンカーライト。
- D) イグニッションスイッチから：  
始動装置、安全ロジック。
- E) 電圧レギュレーターから：  
接続なし。

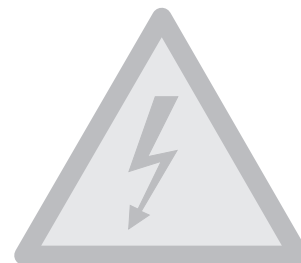
**重要：**スペアヒューズが3個用意されています。



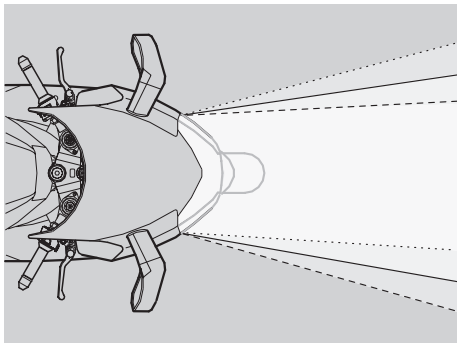
### 30A メインヒューズの遮断回路

- F) バッテリーから：電圧レギュレーター、ヒューズA、ヒューズB、ヒューズC。
- G) バッテリーから：イグニッションスイッチ、ヒューズC、ヒューズD。

**重要：**スペアヒューズが1個用意されています。





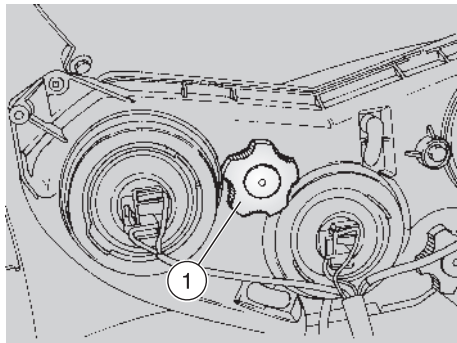


### ヘッドライトの水平光軸の調整

**重要：**車体を使用する国の現行の法規定に従って、ヘッドライト調整には特定の作業を行って下さい。

#### ヘッドライト光軸の調整方法：

- ◆ 左側メーターパネルカバーを取り外します。78 頁（メーターパネルカバーの取り外し）参照。
- ◆ ライダーシートにまたがります。44 頁（車両への乗り降り）参照。



- ◆ フェアリングのリア左側から、調整ノブ (1) を動かします。

時計方向に回すと、光軸が左に回りま  
す。

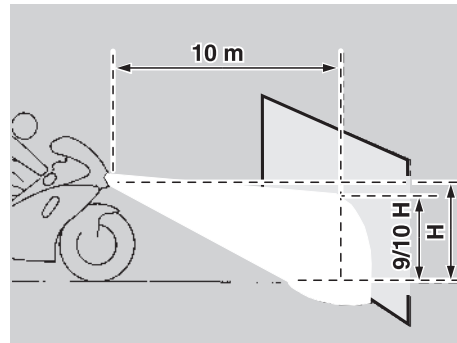
反時計方向に回すと、光軸が右に回りま  
す。

調整が終わったら：

### ▲ 危険

上下方向の光軸を確認してください。

- ◆ 右パネルカバーを元の位置に取り付け  
ます。78 頁（メーターパネルカバーの取  
り外し）参照。



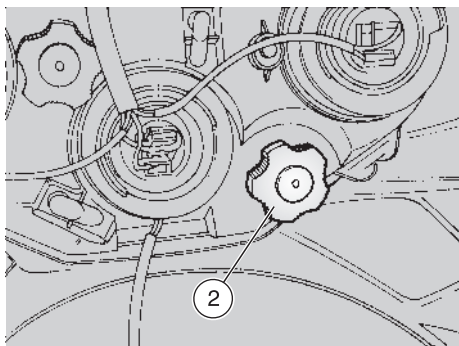
### ヘッドライトの光軸調整

**重要：**車体を使用する国の現行の法規定に従って、ヘッドライト調整には特定の作業を行って下さい。

ヘッドライトの光軸を簡単に点検するには、垂直な壁から 10 メートル離れた場所にモーターサイクルを停めます。この間の地面は水平でなくてはなりません。

乗車してヘッドライトをロービームにします。光の照射範囲がヘッドライトの高さよりもやや下（ヘッドライトの地上高の 9/10 程度）を照らしていれば正常です。





#### ヘッドライト光軸の調整方法：

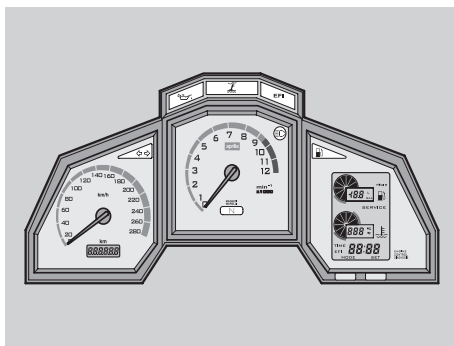
- ◆ 右側メーターパネルカバーを取り外します。78 頁（メーターパネルカバーの取り外し）参照。
- ◆ ライダーシートにまたがります。44 頁（車両への乗り降り）参照。
- ◆ フェアリングのリア右側から、調整ノブ (2) を動かします。  
時計方向に回すと、光軸が下向きになります。  
反時計方向に回すと、光軸が上向きになります。

調整が終わったら：

#### ⚠ 危険

上下方向の光軸を確認してください。

- ◆ 左パネルカバーを元の位置に取り付けます。78 頁（メーターパネルカバーの取り外し）参照。



#### メーターパネルライト

アシスタンスサービスや技術的アドバイスが必要な場合は、お気軽に **aprilia** 正規ディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

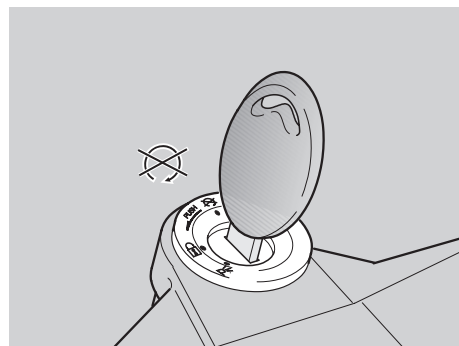
#### バルブ

58 頁（メンテナンス）をよく読んでください。


#### ⚠ 危険

火災の危険があります。

電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。



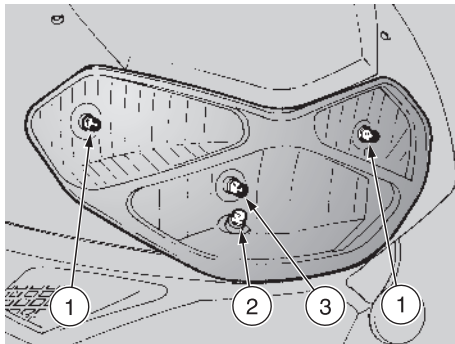
#### ⚠ 注意

ライトバルブを交換する前にイグニッションスイッチが「」の位置に来ていることを確認し、数分間待ってバルブを冷まします。  
また、きれいな手袋をはめるか、きれいな乾いた布でバルブを持つようにしてください。

バルブを指紋などで汚さないでください。バルブの過熱や破裂の原因となります。バルブに素手で触れた場合はアルコールを使って指紋などの汚れを拭き取ってください。バルブがいたむ原因となります。

配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

**重要：**バルブを交換する前に各ヒューズを点検してください。94 頁（ヒューズの交換）参照。



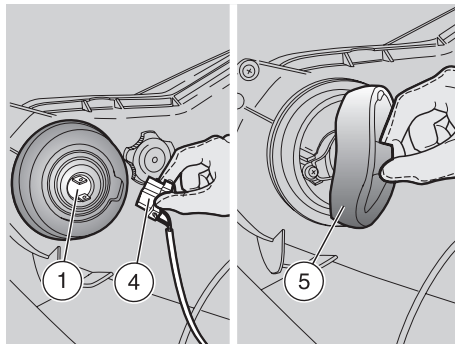
## ヘッドライトバルブの交換

97 頁(バルブ)をよく読んでください。

ヘッドライトには次のバルブが取り付けられています：

- ハイビームライトバルブ (1) 2 個 (両サイド)
- パーキングライトバルブ (2) 1 個 (下方)
- ロービームライトバルブ (3) 1 個 (下方)

ハイビームライトバルブとロービームライトバルブは同じ形です。二つのバルブのうち一つが破損した場合は、取り替えのバルブがお手元がないときは、逆に取り付けてもかまいません。これは、破損したバルブの交換を意図するものではなく、新しいバルブ購入のため販売店までの走行をし易くするためのみの処置です。



バルブの交換は次の手順で行なってください：

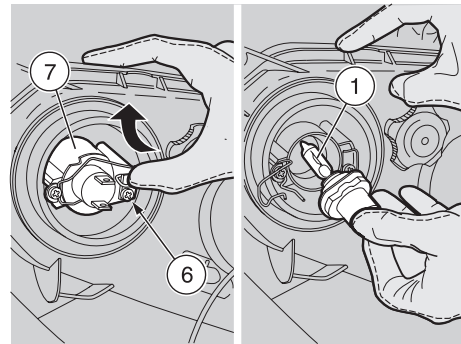
**重要：**ロービームライトバルブおよびハイビームライトバルブを交換する場合は、左右のメーターパネルカバーを取り外す必要があります。パーキングライトバルブを交換する場合は、ノーズ下カバーを取り外す必要があります。

## ハイビームライトバルブの交換

**重要：**交換が必要なバルブのある側で作業してください。

**重要：**再取り付けの際の入れ間違いを避けるため、コネクターは一度に一つずつ取り出してください。

どうしても同時に取り外す必要がある場合は、各コネクターに目印をつけておき、再取り付けの際に確認してください。



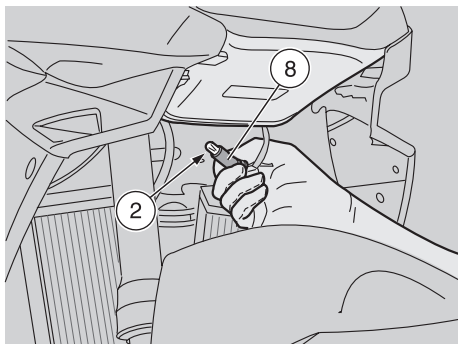
- ◆メーターパネルカバーを取り外します。78 頁(メーターパネルカバーの取り外し)参照。

## ▲ 注意

バルブソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

- ◆バルブコネクター (4) を挿んで、交換するバルブ (1) から引き放します。
- ◆交換が必要なバルブの保護キャップ (5) を手でずらして外します。
- ◆バルブソケット (7) の後方にある固定用スプリング (6) を外します。
- ◆ハイビームライトバルブ (1) を抜き取り、同じタイプの新品と交換します。

**重要：**バルブをバルブソケットに挿入する際は、位置決めガイドを合わせながら正しくセットしてください。



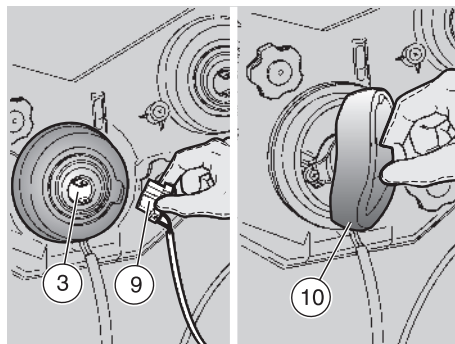
### パーキングライトバルブの交換

- ◆ ノーズ下カバーを取り外します。79 頁(ノーズ下カバーの取り外し)参照。

#### ▲ 注意

バルブソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

- ◆ パーキングライトのバルブソケット (8) を掴んで抜き取ります。
- ◆ パーキングライトバルブ(2)を抜き取り、同じタイプの新品と交換します。



### ロービームライトバルブ

**重要：**再取り付けの際の入れ間違いを避けるため、バルブソケットは一度に一つずつ取り出してください。

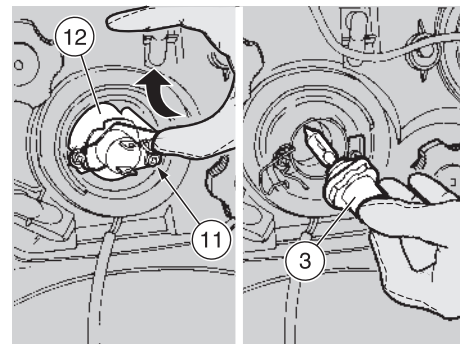
どうしても同時に取り外す必要がある場合は、各コネクターに目印をつけておき、再取り付けの際に確認してください。

- ◆ 右側メーターパネルカバーを取り外します。78 頁(メーターパネルカバーの取り外し)参照。

#### ▲ 注意

バルブコネクターを引き出すときコードを引っ張らないようにしてください。

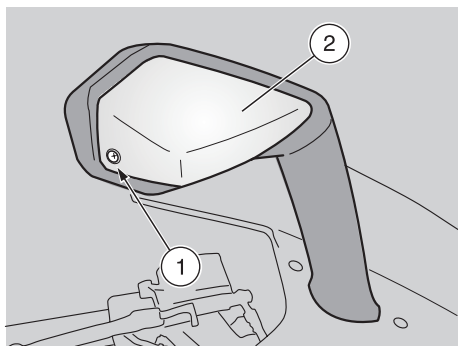
- ◆ バルブコネクター(9) を掴んでバルブ (3) から引き外します。
- ◆ バルブの保護キャップ(10)を手でずらして外します。



- ◆ バルブソケット(12)の後方にある固定用スプリング(11)を外します。

- ◆ ロービームライトバルブ(3)を抜き取り、同じタイプの新品と交換します。

**重要：**バルブをバルブソケットに挿入する際は、位置決めガイドを合わせながら正しくセットしてください。



### ウィンカーライトバルブの交換

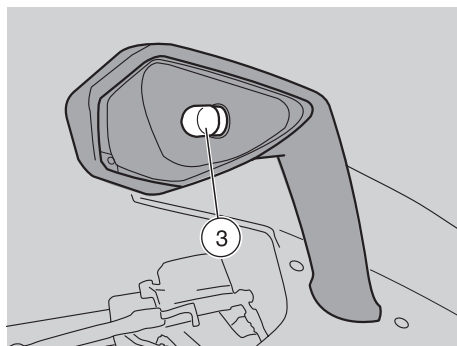
97 頁(バルブ)をよく読んでください。

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁(スタンドの立て方)参照。
- ◆ ネジ(1)を回して取り外します。

#### ▲ 注意

ウィンカーレンズを取り外す際は、はめ合せ用の突起を損傷しないよう注意してください。

- ◆ ウィンカーレンズ(2)を取り外します。



#### ▲ 注意

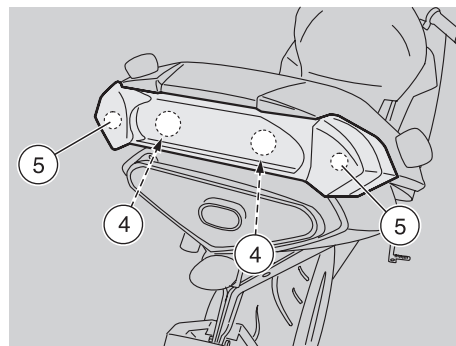
再取り付けの際はウィンカーレンズを元の位置に正しく戻してください。また、ウィンカーレンズを損傷しないよう、ネジ(1)は強く締め過ぎないでください。

- ◆ ウィンカーライトバルブ(3)を軽く押し込んで反時計回りに回します。
- ◆ ウィンカーライトバルブ(3)を抜き取ります。

#### ▲ 注意

バルブの2本のガイドピンをバルブソケットのガイドに合わせながら、バルブを正しく挿入してください。

- ◆ 同じタイプの新品を正しく取り付けます。



### リアウィンカーライトバルブの交換

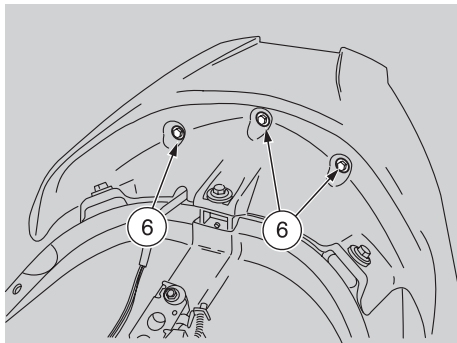
リアウィンカーライトバルブの交換手順については、100 頁(テールライトバルブの交換)を参照してください。

### テールライトバルブの交換

97 頁(バルブ)をよく読んでください。

テールライトには次のバルブが取り付けられています：

- パーキング/ストップライトのバルブ(4) 2 個；
- リアウィンカーライトバルブ(5) 2 個。



バルブの交換は次の手順で行なってください：

ライトバルブを交換する前に、ストップライトの性能を確認して下さい。93 頁（マイククロススイッチ類の点検）参照。

### ▲ 危険

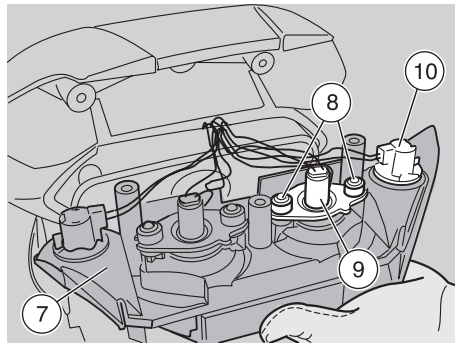
マフラーが完全に冷めるまで待ってから調整作業を始めてください。

- ◆ シートを取り外します。26 頁（シートロック/ロック解除）参照。
- ◆ 3本のネジ(6)を回して取り外します。

### ▲ 注意

各部分は慎重に扱ってください。配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

- ◆ テールライト(7)を途中まで外します。



### ▲ 危険

再取り付けの際は、テールライトの配線ケーブルがマフラーに触れないよう、正しい位置に通してください。

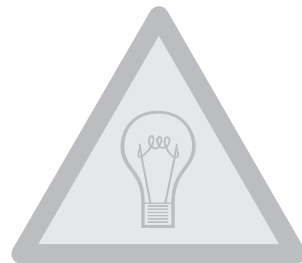
#### パーキング/ストップライトバルブ

- ◆ 2本のネジ(8)を回して取り外します。
- ◆ バルブソケット(9)を途中まで外します。
- ◆ テールライトバルブ(4)を軽く押し込んで反時計回りに回します。
- ◆ テールライトバルブ(4)を抜き取ります。

### ▲ 注意

バルブの2本のガイドピンをバルブソケットのガイドに合わせながら、バルブを正しく挿入してください。

- ◆ 同じタイプの新品を正しく取り付けます。



#### リアウィンカーライトバルブ

**重要：**再取り付けの際の入れ間違いを避けるため、バルブソケットは一度に一つずつ取り出してください。

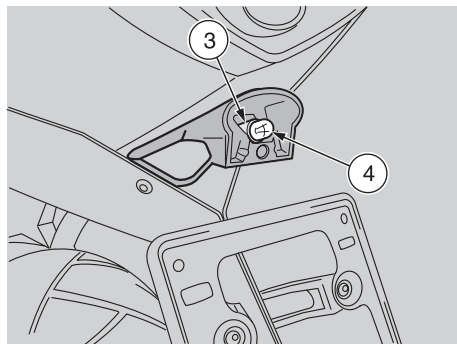
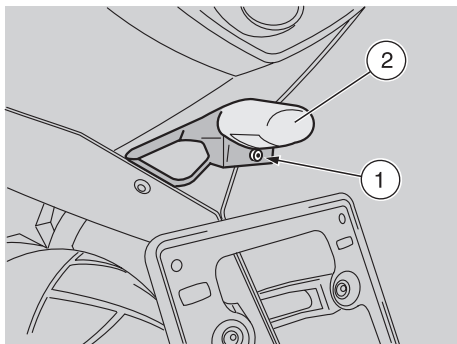
どうしても同時に取り外す必要がある場合は、各コネクターに目印をつけておき、再取り付けの際に確認してください。

- ◆ バルブソケット(10)を反時計回りに回します。
- ◆ テールライトバルブ(5)を軽く押し込んで反時計回りに回します。
- ◆ テールライトバルブ(5)を抜き取ります。

### ▲ 注意

バルブの2本のガイドピンをバルブソケットのガイドに合わせながら、バルブを正しく挿入してください。

- ◆ 同じタイプの新品を正しく取り付けます。



### ナンバープレートライトのバルブの交換

97 頁 (バルブ) をよく読んでください。

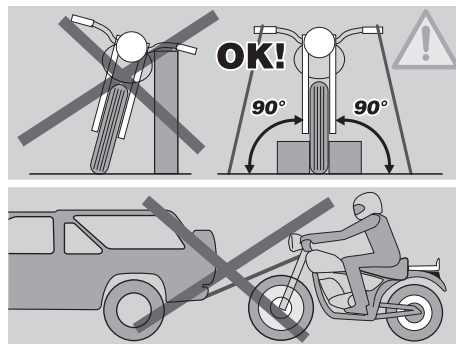
バルブの交換は次の手順で行なってください：

- ◆ センタースタンドを使って車体を立てます。56 頁 (スタンドの立て方) 参照。
- ◆ ネジ(1)を回して取り外し、ナットも外します。
- ◆ ライトユニット(2)を取り外します。

### ▲ 注意

バルブソケットを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

- ◆ バルブソケット(3)を掴んで抜き取ります。
- ◆ バルブ(4)を抜き取り、同じタイプの新品と交換します。



### 輸送の際の注意事項

**重要：**運搬中は燃料やオイル、冷却液などが漏れないよう、車体を垂直に保ちしっかりと固定してください。また、ギヤは1速に入れた状態にしておいてください。

### ▲ 注意

故障したモーターサイクルは、路上をけん引せず専用の運送車で運搬してください。



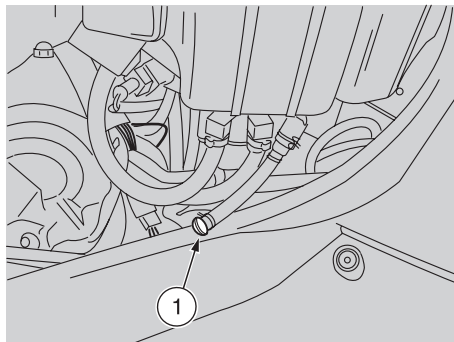
次のような特殊な地域や条件下でモーターサイクルを使用した場合は頻繁に清掃を行なってください：

- ◆ 環境汚染地域（市街地、工場地区）。
- ◆ 塩分や湿度の高い地域（海辺、高温、高温の気候）。
- ◆ 環境／季節による特殊条件の地域（冬季は道路に塩や凍結防止剤を撒く地域）。
- ◆ 車体に産業塵芥、汚染物質、タール、昆虫の死骸、鳥の糞などを残さないよう注意してください。
- ◆ 木の下には駐車しないようにしてください。季節によっては車に落ちる樹脂、木の実、葉などに含まれる物質で塗装を傷めることがあります。

### ▲ 危険

洗車後は摩擦面に残った水のせいでブレーキの効きが悪くなることがあります。事故防止のため早めにブレーキをかけるようにしてください。正常な状態に戻すためにはブレーキ操作を繰り返し行なってください。

また、走行前には必ず予備点検を行なってください。47 頁（走行前の点検）参照。



塗装面に付着した埃や泥を落とすには、弱い圧力で水を噴射して汚れた部分を十分に濡らした後、水で薄めた洗剤（水の 2～4 %）に洗車用の柔らかいスポンジを浸して泥や汚れを拭き取ります。さらに水で充分すすぎ落としてからセーム皮などで水分を拭き取ります。

エンジンの外部は油落とし、ブラシ、スポンジ、布などを使って清掃してください。

▼後は必ず次の作業を行なってください：

- ◆ 燃料タンクを起こします。76 頁（燃料タンクの起こし方）参照。
- ◆ キャップ（1）を外します。
- ◆ 容器の中に内容物を排出し、その後回収所に持参してください。

### ▲ 注意

ライト類の洗浄は、中性洗剤及び水を含ませたスポンジで表面を丁寧にこすり、水で十分にすすいで下さい。シリコンワックスで磨き上げる時は、よく洗車・乾燥した後に行ってください。

つや消し塗装部分には研磨剤入りのクリームを使用しないでください。

日光のあたる場所、特に夏の暑い日差しの下で車体が熱くなっている時には洗車しないでください。洗剤が洗い流す前に乾いてしまい塗装を傷めます。

車体のプラスチック部品の清掃には、40℃を超える液体は使用しないでください。

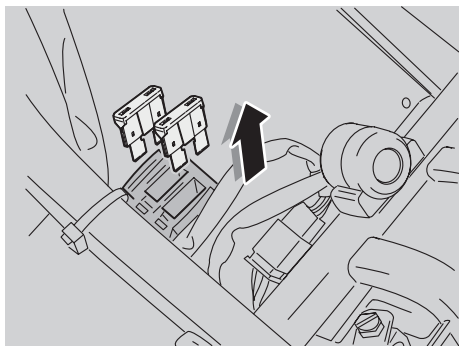
以下のような部分には高圧の水や空気、蒸気などを吹き付けしないでください：ホイールハブ、左右ハンドルの各装置、ベアリング、ブレーキポンプ、メーターパネル、マフラー、書類／工具キット入れ、イグニッションスイッチ、ラジエーターのひれ、燃料タンクの栓、ライト及び配線ケーブル。

ゴム部品、プラスチック部品、シートなどの洗浄には中性石鹼を使用してください。アルコール、ベンジン、溶剤などは使わないでください。

### ▲ 危険

滑る危険がありますのでシートには保護ワックスなどを塗らないでください。





## 長期間の保管

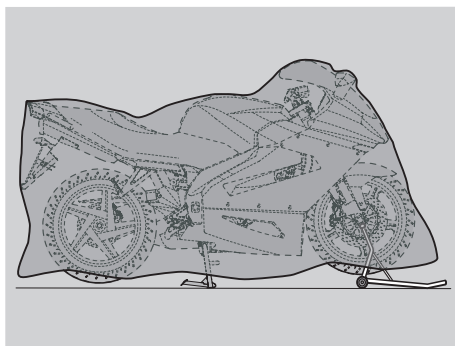
### ▲ 注意

20 日間以上モーターサイクルを使用しない場合は 30A ヒューズを取り外してください。デジタルディスプレイがバッテリーを消耗してバッテリーが劣化するのを防ぐためです。

**重要**：30A ヒューズを取り外すとデジタルクロックがゼロにリセットされます。デジタルクロックの再設定手順については、20 頁(プログラムボタン)を参照してください。

長期間使用の予定がない場合は、トラブルを避けるためにいくつかの注意が必要です。

また、格納前に必要な修理と全般的な点検を必ず行なってください。そうしないと後日使用するとき忘れてトラブルを起こす原因となります。



### 次の作業を行なってください：

- ◆ バッテリーを取り外します。91 頁(バッテリーの取り外し)、93 頁(バッテリーを長期間使用しない時)参照。
- ◆ 車体を洗い乾かします。103 頁(清掃)参照。
- ◆ 塗装面をワックスで磨きます。
- ◆ タイヤの空気圧を規定どおりにします。42 頁(タイヤ)参照。
- ◆ 車体ホルダーなどを使ってモーターサイクルの両輪を床から浮かせます。
- ◆ 直射日光の当たらない、涼しく乾燥した温度変化の少ない場所に保管してください。
- ◆ 湿気が入らないよう、マフラーの先端にビニール袋などをかぶせて縛ります。

**重要**：作業用フロントスタンド **OPT** を使って両輪を床から浮かせます。

- ◆ 次に作業用フロントスタンドに前輪を乗せませす。68 頁(作業用フロントスタンド使用法 **OPT**)参照。
- ◆ 車体にカバーをかけてください。ただしプラスチックや防水性の材質の物は避けてください。

### 長期間使用しなかった後では

- ◆ カバーを外しモーターサイクルを清掃します。103 頁(清掃)参照。
- ◆ バッテリーの充電状態を点検します。92 頁(バッテリーの充電)参照。その後、バッテリーをモーターサイクルに搭載します。92 頁(バッテリーの取り付け)参照。
- ◆ 燃料タンクにガソリンを補充します。28 頁(燃料)参照。
- ◆ 走行前の予備点検を行ないます。47 頁(走行前の点検)参照。

### ▲ 危険

交通量の少ない場所であまりスピードを上げずに、数キロ程度の試験走行を行なってください。

## テクニカルデータ

寸法・重量	全長.....	2170 mm
	全幅.....	740 mm
	全高(スクリーンを含む).....	1240 mm
	シート高.....	820 mm
	ホイールベース.....	1435 mm
	最低地上高.....	135 mm
	走行時車両重量.....	235 kg
エンジン	形式.....	V990
	型式.....	2気筒4サイクル、縦型V60°、各気筒4バルブ、ツインカム方式
	気筒数.....	2
	総排気量.....	997.62 cm <sup>3</sup>
	ボア/ストローク.....	97 mm / 67.5 mm
	圧縮比.....	11.8 ± 0.5 : 1
	始動方式.....	セルモーター
	アイドリング回転数.....	1250 ± 100 回転/分 (rpm)
	クラッチ.....	湿式多板、左側ハンドルのクラッチレバーによる油圧制御および PPC 装置を装備
	潤滑システム.....	ドライサポンプ、オイルクーラー付き
変速装置 容量等	エアクリーナー.....	乾式フィルターパック
	冷却方式.....	水冷
	型式.....	機械式6段、エンジン左側のシフトペダルによる切替え
	燃料タンク(リザーブ含む).....	20.5 リットル
	リザーブタンク.....	4 ± 1 リットル
	エンジンオイル.....	オイルのみ交換時 3700 cm <sup>3</sup> - オイルおよびオイルフィルター交換時 3900 cm <sup>3</sup>
	フォーク用オイル.....	553 ± 2.5 cm <sup>3</sup> (各ロッドにつき)
	冷却液.....	2.5 リットル(水 50% + エチルグリコール不凍液 50%)
	乗車定員.....	2
	最大積載量.....	182 kg(ライダー + パッセンジャー + 荷物)

ギア比	ギア	1次減速比	2次減速比	最終減速比	合計減速比
	1速	31/60 = 1 : 1.935	14/35 = 1 : 2.500	16/43 = 1 : 2,687	13,00
	2速		16/28 = 1 : 1.750		9,102
	3速		19/26 = 1 : 1.368		7,117
	4速		22/24 = 1 : 1.090		5,674
	5速		23/22 = 1 : 0.956		4,975
	6速		27/23 = 1 : 0.851		4,431
ドライブチェーン	型式 .....	エンドレスタイプ(ジョイントリンク無し)、Oリングによるグリス保持			
	モデル .....	525			
燃料供給システム	型式 .....	電子式燃料噴射 (Multipoint)			
	ディフューザー .....	Ø 51 mm			
燃料	ガソリン .....	ハイオク無鉛ガソリン DIN 51 607、最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) および 85 (N.O.M.M.)			
フレーム	型式 .....	軽合金ダイキャスト及び押し出し成形鋼によるダブルトラス構造フレーム			
	キャスト .....	25.7"			
	トレール .....	97 mm			
サスペンション	フロント .....	倒立式テレスコピックフォーク(調整可能、油圧式)			
		ロッド Ø 43 mm			
	ストローク .....	120 mm			
	リア .....	軽合金製振動フォーク単一アーム、調整可流体単一ショックアブソーバー			
	ホイールストローク .....	120 mm			
ブレーキ	フロント .....	ダブルフローティングディスクブレーキ - Ø 300 mm、直径の異なる4ピストンによるブレーキキャリパー Ø 30 mm - Ø 34 mm			
	リア .....	ディスクブレーキ - Ø 255 mm、2ピストン式ブレーキキャリパー Ø 28 mm			
ホイール	型式 .....	軽合金製			
	フロント .....	3.50 × 17"			
	リア .....	5.50 × 17"			

## タイヤ

▲ = 通常使用 ; ❖ = スポーツ用使用

車輪	型式	形式	寸法	推奨品	空気圧 kPa (bar)
					▲
					ライダーのみ
フロント (標準装備)	METZELER	ME Z4 B	120/70ZR17"	▲	250 (2,5)
リア (標準装備)	METZELER	ME Z4	180/55ZR17"	▲	280 (2,8)
フロント (標準装備)	MICHELIN	PILOT SPORT	120/70ZR17"	❖	250 (2,5)
リア (標準装備)	MICHELIN	PILOT SPORT	180/55ZR17"	❖	280 (2,8)
フロント (代替品)	METZELER	ME Z3	120/70ZR17"	❖	250 (2,5)
リア (代替品)	METZELER	ME Z3	180/55ZR17"	❖	280 (2,8)
フロント (代替品)	PIRELLI	MTR21A	120/70ZR17"	▲	250 (2,5)
リア (代替品)	PIRELLI	MTR22	180/55ZR17"	▲	280 (2,8)



スパークプラグ	標準品 .....	NGK R DCPR9E
	スパークプラグ電極間隙 .....	0.6 ~ 0.7 mm
	抵抗値 .....	5 kΩ
電気系統	バッテリー .....	12 V - 12 Ah
	メインヒューズ .....	30 A
	二次ヒューズ .....	15 A
	オルタネーター（永久磁石による）.....	12 V - 470 W
バルブ	ロービームライト（ハロゲン）.....	12 V - 55 W H7
	ハイビームライト（ハロゲン）.....	12 V - 55 W H7
	フロント・パーキングライト .....	12 V - 5 W
	ウィンカーライト .....	12 V - 10 W
	リア・パーキングライト／ストップライト.....	12 V - 5 / 21 W
	ナンバープレートライト .....	12 V - 5 W
	バックライトパネル.....	LED
インジケーター	ニュートラルポジション・インジケーター.....	LED
	ウィンカーライト・インジケーター .....	LED
	燃料警告灯 .....	LED
	ハイビーム・インジケーター .....	LED
	サイドスタンド・インジケーター .....	LED
	エンジンオイル警告灯 .....	LED
	自動診断インジケーター .....	LED

## 指定油脂類表





エンジンオイル (推奨品):  EXTRA RAID 4, SAE 15W - 50 または  Agip TEC 4T, SAE 15W - 50。

上記推奨品以外でも、CCMC G-4 規格、A.P.I. SG 規格と同等以上の品質のメーカー品オイルを使用しても差し支えありません。

フォークオイル (推奨品):  F.A. 5W 又は  F.A. 20W、

代替品  Agip FORK 5W または  Agip FORK 20W。

上記推奨品の間粘度のオイルを使用したい場合は次のように混合してください:

SAE 10W =  F.A. 5W 67% +  F.A. 20W 33% (容積比) または  
 Agip FORK 5W 67% +  Agip FORK 20W 33% (容積比)。

SAE 15W =  F.A. 5W 33% +  F.A. 20W 67% (容積比)  
 Agip FORK 5W 33% +  Agip FORK 20W 67% (容積比)。

ベアリング、その他の潤滑部 (推奨品):  AUTOGREASE MP または  Agip GREASE 30。



上記推奨品以外でも、使用温度範囲 -30℃～+140℃、融点 150℃～230℃で、防錆、耐水、耐酸化性の優れているメーカー品ベアリング用グリースを使用しても差し支えありません。

バッテリー電極の保護: 中性グリースまたはワセリンを塗布してください。

チェーン用スプレーグリース (推奨品):  CHAIN SPRAY または  Agip CHAIN LUBE。



### ▲ 危険

ブレーキオイルは必ず新しいものを使用してください。

ブレーキオイル (推奨品):  F.F.、DOT 5 (DOT 4 でも可) または  Agip BRAKE 5.1、DOT 5 (DOT 4 でも可)。


### ▲ 危険

クラッチオイルは必ず新しいものを使用してください。

クラッチオイル (推奨品):  F.F.、DOT 5 (DOT 4 でも可) または  Agip BRAKE 5.1、DOT 5 (DOT 4 でも可)。

### ▲ 危険

不凍液と防食剤は亜硝酸塩を含まないもので、少なくとも -35℃までは機能するものを使用してください。

冷却液 (推奨品):  ECOBLU -40℃ または  Agip COOL。

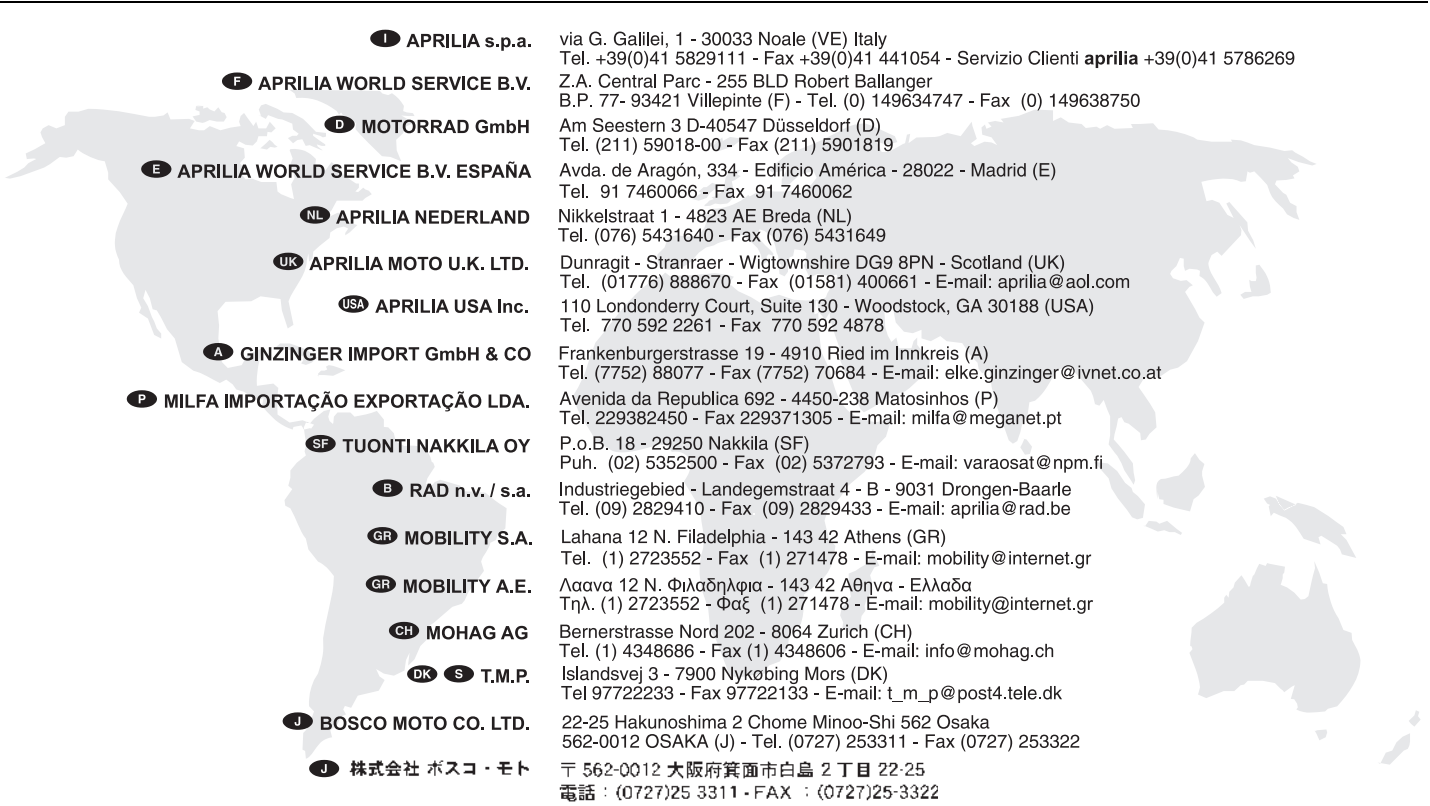
aprilia

**純正部品のみお求めください**



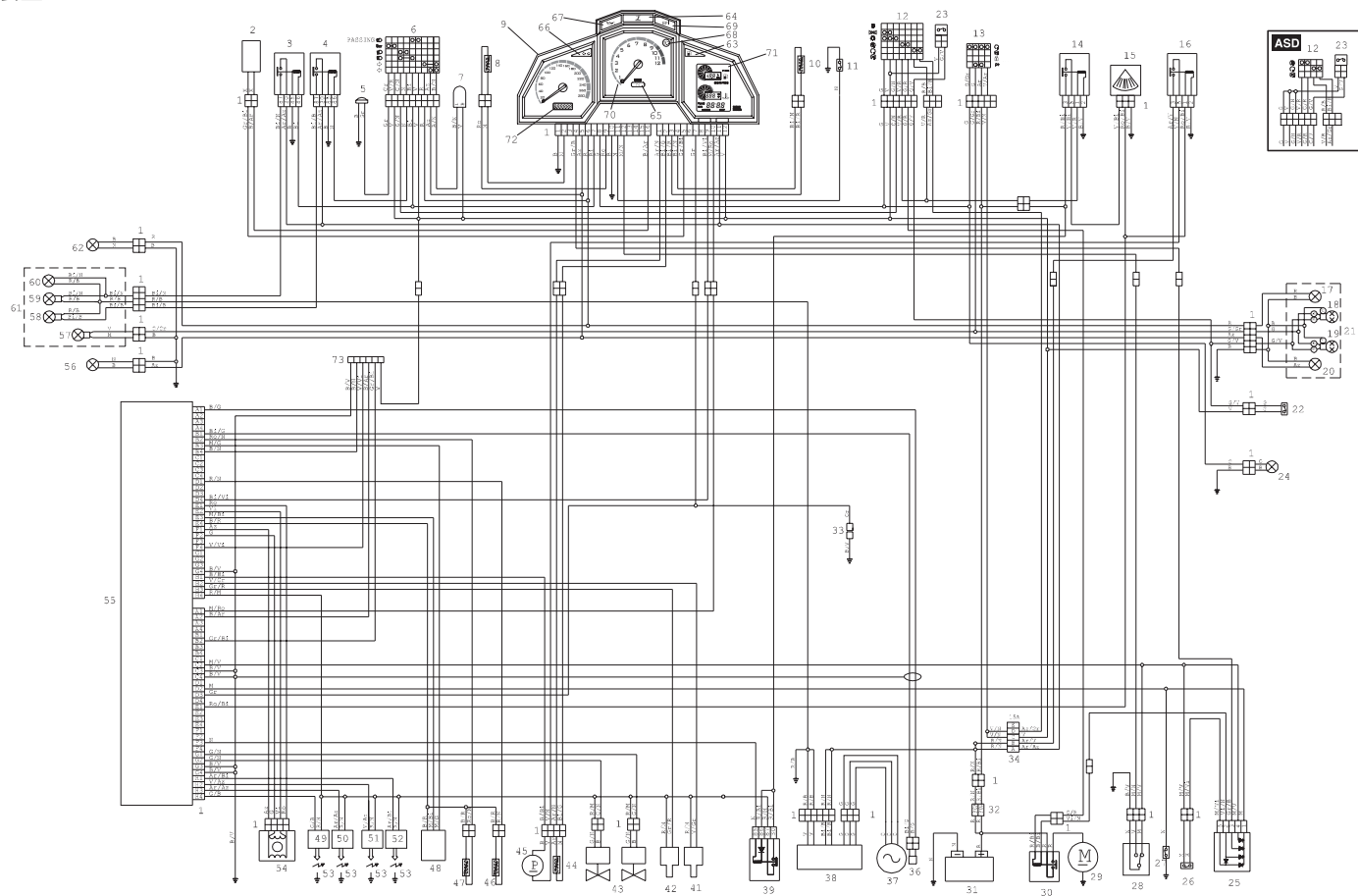
aprilia

**純正部品のみお求めください**

- 
- I** APRILIA s.p.a. via G. Galilei, 1 - 30033 Noale (VE) Italy  
Tel. +39(0)41 5829111 - Fax +39(0)41 441054 - Servizio Clienti **aprilia** +39(0)41 5786269
  - F** APRILIA WORLD SERVICE B.V. Z.A. Central Parc - 255 BLD Robert Ballanger  
B.P. 77- 93421 Villepinte (F) - Tel. (0) 149634747 - Fax (0) 149638750
  - D** MOTORRAD GmbH Am Seestern 3 D-40547 Düsseldorf (D)  
Tel. (211) 59018-00 - Fax (211) 5901819
  - E** APRILIA WORLD SERVICE B.V. ESPAÑA Avda. de Aragón, 334 - Edificio América - 28022 - Madrid (E)  
Tel. 91 7460066 - Fax 91 7460062
  - NL** APRILIA NEDERLAND Nikkelstraat 1 - 4823 AE Breda (NL)  
Tel. (076) 5431640 - Fax (076) 5431649
  - UK** APRILIA MOTO U.K. LTD. Dunragit - Stranraer - Wigtownshire DG9 8PN - Scotland (UK)  
Tel. (01776) 888670 - Fax (01581) 400661 - E-mail: [aprilia@aol.com](mailto:aprilia@aol.com)
  - USA** APRILIA USA Inc. 110 Londonderry Court, Suite 130 - Woodstock, GA 30188 (USA)  
Tel. 770 592 2261 - Fax 770 592 4878
  - A** GINZINGER IMPORT GmbH & CO Frankfurterstrasse 19 - 4910 Ried im Innkreis (A)  
Tel. (7752) 88077 - Fax (7752) 70684 - E-mail: [elke.ginzinger@ivnet.co.at](mailto:elke.ginzinger@ivnet.co.at)
  - P** MILFA IMPORTAÇÃO EXPORTAÇÃO LDA. Avenida da Republica 692 - 4450-238 Matosinhos (P)  
Tel. 229382450 - Fax 229371305 - E-mail: [milfa@meganet.pt](mailto:milfa@meganet.pt)
  - SF** TUONTI NAKKILA OY P.o.B. 18 - 29250 Nakkila (SF)  
Puh. (02) 5352500 - Fax (02) 5372793 - E-mail: [varaosat@npm.fi](mailto:varaosat@npm.fi)
  - B** RAD n.v. / s.a. Industriegebied - Landegemstraat 4 - B - 9031 Drongen-Baarle  
Tel. (09) 2829410 - Fax (09) 2829433 - E-mail: [aprilia@rad.be](mailto:aprilia@rad.be)
  - GR** MOBILITY S.A. Lahana 12 N. Filadelfia - 143 42 Athens (GR)  
Tel. (1) 2723552 - Fax (1) 271478 - E-mail: [mobility@internet.gr](mailto:mobility@internet.gr)
  - GR** MOBILITY A.E. Λαανα 12 Ν. Φιλαδηφια - 143 42 Αθηνα - Ελλαδα  
Τηλ. (1) 2723552 - Φαξ (1) 271478 - E-mail: [mobility@internet.gr](mailto:mobility@internet.gr)
  - CH** MOHAG AG Bernerstrasse Nord 202 - 8064 Zurich (CH)  
Tel. (1) 4348686 - Fax (1) 4348606 - E-mail: [info@mohag.ch](mailto:info@mohag.ch)
  - DK** **S** T.M.P. Islandsvej 3 - 7900 Nykøbing Mors (DK)  
Tel 97722233 - Fax 97722133 - E-mail: [t\\_m\\_p@post4.tele.dk](mailto:t_m_p@post4.tele.dk)
  - J** BOSCO MOTO CO. LTD. 22-25 Hakunoshima 2 Chome Minoo-Shi 562 Osaka  
562-0012 OSAKA (J) - Tel. (0727) 253311 - Fax (0727) 253322
  - J** 株式会社 ボスコ・モト 〒 562-0012 大阪府箕面市白鳥 2 丁目 22-25  
電話 : (0727)25 3311 - FAX : (0727)25-3322
  - SGP** IDEAL MOTOR SPORT PTE. LTD. 20 Mactaggart Road, #01-01 Khong Guan Industrial Building 368079 Singapore (SGP)  
Tel. 2820082 - Fax 2821012 - E-mail: [idealmtr@mbox4.singnet.com.sg](mailto:idealmtr@mbox4.singnet.com.sg)
  - H** MILLE MOTOR KFT. H-1054 - Budapest - Hold u. 23. (H)  
Tel. +36 1 301 0021 - Fax +36 1 301 0021 - E-mail: [aprilia@apriliamotor.hu](mailto:aprilia@apriliamotor.hu)

<b>PL</b> MOTO SP. ZOO	Ul. Trakt Lubelski 298 B - 04-667 Warszawa (PL) Tel. (22) 121183 - Fax (22) 121183
<b>IL</b> METRO-MOTOR MARKETING LTD.	12, Tushia Street - P.O. BOX 57266 - 61572 - Israel - Tel-Aviv (IL) Tel. (3) 5623951 - Fax (3) 5623950 - E-mail: metro@inter.net.il
<b>ROK</b> BIKE KOREA CO., LTD.	YeungSoo BLDG 302 #206-25, Ohjang-dong, Chung-ku, Seoul (ROK) Tel. (02) 2275-6130/1 - Fax. (02) 2275-6132 - E-mail: kukbike@yahoo.co.kr
<b>MAL</b> GENTALI MALAYSIA SDN BHD	Unit B-1-8 Megan Phileo Promenade 189 Jalan Tun Razak - 50400 - Kuala Lumpur (MAL) Tel.(603) 21649800 - Fax. (603) 21649700
<b>RCH</b> HARLEY DAVIDSON SANTIAGO	Isidora Goyenechea 2926 - Santiago (RCH) Tel. (2) 2321667 - Fax (2) 2321894
<b>BM</b> EVE'S CYCLES LTD.	114, Middle Road - PG BX Paget (BM) Tel. (441) 2366247 - Fax (441) 2366996
<b>BR</b> APRILIA-BRASIL	Av. Europa, 352 - Jardim Europa - 01449-001 Sao Paulo-SP (BR) Tel. (11) 30691220 - Fax. (11) 30691221 - E-mail: hjdeki@aprilia.com.br
<b>AUS</b> JOHN SAMPLE GROUP PTY LTD.	8, Sheridan Close - NSW 2214 - Milperra - Sydney (AUS) Tel. (2) 97722666 - Fax (2) 97742321 - E-mail: jcaruso@jsg.com.au
<b>RSA</b> MOTOVELO S.A.	Old Pretoria Road - Wynberg - Johannesburg (RSA) Tel. (11) 7868486 - Fax (11) 7868482 - E-mail: motovelo@betech.co.za
<b>NZ</b> MOTORCYCLING DOWNUNDER LTD.	35, Manchester Street - P.o.B. 22416 - Christchurch (NZ) Tel. (3) 3660129 - Fax (3) 3667580 - E-mail: guzzi@motorcycling-nz.co.nz
<b>HR</b> ING-KART, d.o.o.	Miroslava Magdalenica, 1 - 10000 Zagreb (HR) Tel. (1) 3491107 / 3491091 - Fax (1) 3491555 - E-mail: ing-kart@zg.tel.hr
<b>SLO</b> AVTO TRIGLAV, d.o.o.	Baragova 5 - 1113 Ljubljana (SLO) Tel. (61) 1883420 - Fax (61) 1883465 - E-mail: ziga.martincic@avto-triglav.si
<b>M</b> BIKES & COMPANY LTD.	178, Marina Street, Pieta. MSD 08. (M) - Tel. (+356) 236 665 - Fax (+356) 239 368
<b>TR</b> METRO MOTORLU ARACLAR TICARET A.S.	Mihrabat Caddesi Akbaysokak Yetimoglu Is Merkezi - 81640 - Kavacik-Istanbul (TR) - Tel. (0216) 4251565 - Fax (0216) 3312606
<b>CZ</b> A. SPIRIT a.s.	Sluzeb 5 - 10800 Praha 10 (CZ) Tel. +420-2-72703049 - Fax. +420-2-72702156 - E-mail: office@aspirit.cz
<b>IRL</b> K.D.I. KAWASAKI DISTRIBUTOR IRL. LTD.	17 Wood Street - Dublin 8 (IRL) Tel. (1) 4756046 - Fax. (1) 4756461
<b>N</b> HARO SKANDINAVIA A.S.	Kjørbekkdalen 6 - 3735 - Skien, Norway (N) Tel. 35506780 - Fax. 35506781 - E-mail: post@aprilia.no
<b>MEX</b> APRILIA DE MEXICO, SA. de CV.	San Jeromino - 64640 - 552 Monterrey N.L. (MEX) Tel. 8333-4493 - Fax. 8348-9398 - E-mail: javier@aprilia.com.mx

# 電装図 - RST mille Futura



## 電装図索引 - RST mille Futura

- 1) マルチコネクター
- 2) 速度センサー
- 3) ハイビームライト・リレー
- 4) ロービームライト・リレー
- 5) 警告ホーン
- 6) 左ハンドル上スイッチ類
- 7) ウィンカーリレー
- 8) エア温度サーミスター(メーターパネル)
- 9) メーターパネル
- 10) 冷却液温度サーミスター
- 11) エンジンオイル圧・センサースイッチ
- 12) 右ハンドル上スイッチ類
- 13) イグニッションスイッチ
- 14) エンジンキル・リレー
- 15) 転倒センサー
- 16) 燃料ポンプ・リレー
- 17) ウィンカーライト・リア右側
- 18) パーキング/ストップライト・リア
- 19) パーキング/ストップライト・リア
- 20) ウィンカーライト・リア左側
- 21) テールライト
- 22) リアブレーキ・マイクロスイッチ
- 23) フロントブレーキ・マイクロスイッチ
- 24) ナンバープレートライト
- 25) ダイオードモジュール
- 26) クラッチレバー・マイクロスイッチ
- 27) ニュートラルポジション・マイクロスイッチ
- 28) サイドスタンド・安全マイクロスイッチ
- 29) スターターモーター
- 30) イグニッション・リレー
- 31) バッテリー
- 32) メインヒューズ(30A)(イグニッション)

- 33) TEST 用コネクター
- 34) 二次ヒューズ(15A)
  - A) ヘッドライト、メーターパネル
  - B) 燃料ポンプ
  - C) パーキングライト、リア・ストップライト、警告ホーン、ウィンカーライト
  - D) 始動装置、安全ロジック
  - E) 接続なし
- 35) -
- 36) ピックアップコイル
- 37) オルタネーター
- 38) 電圧レギュレーター
- 39) 噴射リレー
- 40) -
- 41) 後方シリンダー・インジェクター
- 42) 前方シリンダー・インジェクター
- 43) 冷却ファン
- 44) 燃料残量センサー
- 45) 燃料ポンプ
- 46) エア温度サーミスター(コンピューターボックス)
- 47) 冷却液温度サーミスター(コンピューターボックス)
- 48) バタフライバルブ・位置センサー
- 49) 後方シリンダー・イグニッションコイル
- 50) 後方シリンダー・イグニッションコイル
- 51) 前方シリンダー・イグニッションコイル
- 52) 前方シリンダー・イグニッションコイル
- 53) スパークプラグ
- 54) 自動エア
- 55) コンピューターボックス
- 56) ウィンカーライト・フロント左側

- 57) パーキングライト・フロント
- 58) ロービームライト
- 59) ハイビームライト
- 60) ハイビームライト
- 61) ヘッドライト
- 62) ウィンカーライト・フロント右側
- 63) 燃料警告灯
- 64) サイドスタンド・インジケーター
- 65) ニュートラルポジション・インジケーター
- 66) ウィンカーライト・インジケーター
- 67) エンジンオイル警告灯
- 68) ハイビーム・インジケーター
- 69) 自動診断インジケーターレッド
- 70) タコメーター
- 71) デジタルディスプレイ(右側)
- 72) デジタルディスプレイ(左側)
- 73) 診断用接続

### 配線ケーブルの色分け

Ar	オレンジ	M	茶
Az	水色	N	黒
B	青	R	赤
Bi	白	V	緑
G	黄	Vi	紫
Gr	グレー	Ro	ピンク

aprilia

**純正部品のみお求めください**

aprilia

**純正部品のみお求めください**

aprilia

**純正部品のみお求めください**



aprilia

**純正部品のみお求めください**

**aprilia s.p.a.** のモーターサイクルをお求めいただき有り難うございます。以下の注意をお守りください：

- 環境保護のためオイル、燃料、汚染物質などは適切に処理してください。
- 不要なときはエンジンを止めるようにしてください。
- 騒音の発生にご注意ください。
- 自然を守りましょう。